

厚生労働大臣 殿

開設者名 公立大学法人 横浜市立大学
理事長 近野 真一

公立大学法人横浜市立大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和5年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

| | |
|----|------------------------|
| 住所 | 〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸22-2 |
| 氏名 | 公立大学法人横浜市立大学 理事長 近野 真一 |

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

| |
|------------------|
| 公立大学法人横浜市立大学附属病院 |
|------------------|

3 所在の場所

| |
|---------------------------|
| 〒236-0004 神奈川県横浜市金沢区福浦3-9 |
| 電話(045) 787 - 2800 |

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

| | |
|-----------------------|---|
| <input type="radio"/> | 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 |
| <input type="radio"/> | 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜 |

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

| 内科 | 有 | | | | | | |
|-----------------------|--------|--|----------------------|--|--------|--|---------|
| 内科と組み合わせた診療科名等 | | | | | | | |
| | 1呼吸器内科 | | 2消化器内科 | | 3循環器内科 | | 4腎臓内科 |
| <input type="radio"/> | 5神経内科 | | 6血液内科 | | 7内分泌内科 | | 8代謝内科 |
| | 9感染症内科 | | 10アレルギー疾患内科またはアレルギー科 | | | | 11リウマチ科 |

| |
|--|
| 診療実績 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・呼吸器内科は呼吸器科にて診療 ・消化器内科は消化器科にて診療 ・循環器内科は循環器科にて診療 ・腎臓内科、血液内科、内分泌内科、代謝内科、感染症内科、アレルギー疾患内科またはアレルギー科、リウマチ科は内科にて診療 |

- 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
(注) 2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

| | | | | | | | |
|--|--------|---|---------|--|--------|--|-------|
| 外科 | 有 | | | | | | |
| 外科と組み合わせた診療科名 | | | | | | | |
| | 1呼吸器外科 | | 2消化器外科 | | 3乳腺外科 | | 4心臓外科 |
| | 5血管外科 | ○ | 6心臓血管外科 | | 7内分泌外科 | | 8小児外科 |
| 診療実績 | | | | | | | |
| 呼吸器外科、消化器外科、乳腺外科、内分泌外科は外科にて診療 小児外科は心臓血管外科にて診療 | | | | | | | |

- 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
(注) 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

| | | | | | | | |
|---|----------|---|----------|---|---------|---|--------|
| ○ | 1精神科 | ○ | 2小児科 | ○ | 3整形外科 | ○ | 4脳神経外科 |
| ○ | 5皮膚科 | ○ | 6泌尿器科 | ○ | 7産婦人科 | | 8産科 |
| | 9婦人科 | ○ | 10眼科 | ○ | 11耳鼻咽喉科 | ○ | 12放射線科 |
| | 13放射線診断科 | | 14放射線治療科 | ○ | 15麻酔科 | ○ | 16救急科 |

- (注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

| | | | | | | | |
|---------------|-------|---|-------|---|---------|--|--|
| 歯科 | 有 | | | | | | |
| 歯科と組み合わせた診療科名 | | | | | | | |
| | 1小児歯科 | ○ | 2矯正歯科 | ○ | 3歯科口腔外科 | | |
| 歯科の診療体制 | | | | | | | |
| | | | | | | | |

- 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5)(1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

| | | | | | | | | | |
|----|-------|----|------|----|------|----|------------|----|------|
| 1 | 呼吸器科 | 2 | 循環器科 | 3 | 消化器科 | 4 | リハビリテーション科 | 5 | 形成外科 |
| 6 | 病理診断科 | 7 | | 8 | | 9 | | 10 | |
| 11 | | 12 | | 13 | | 14 | | 15 | |
| 16 | | 17 | | 18 | | 19 | | 20 | |
| 21 | | 22 | | 23 | | 24 | | 25 | |

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

| 精神 | 感染症 | 結核 | 療養 | 一般 | 合計 |
|----|-----|----|----|-----|-----|
| 23 | | 16 | | 632 | 671 |

(単位:床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

| 職種 | 常勤 | 非常勤 | 合計 | 職種 | 員数 | 職種 | 員数 |
|-------|-----|------|-------|---------|------|----------------|-------|
| 医師 | 483 | 34.1 | 517.1 | 看護補助者 | 54.2 | 診療エックス線技師 | 0 |
| 歯科医師 | 17 | 1 | 18 | 理学療法士 | 17 | 臨床検査技師 | 72.7 |
| 薬剤師 | 54 | 4 | 58 | 作業療法士 | 7 | 臨床検査 衛生検査技師 | 0 |
| 保健師 | 0 | 0 | 0 | 視能訓練士 | 4.9 | その他 | 0 |
| 助産師 | 45 | 0 | 45 | 義肢装具士 | 0 | あん摩マッサージ指圧師 | 0 |
| 看護師 | 774 | 21 | 795 | 臨床工学士 | 17 | 医療社会事業従事者 | 10 |
| 准看護師 | 0 | 0 | 0 | 栄養士 | 0 | その他の技術員 | 20 |
| 歯科衛生士 | 3 | 3 | 6 | 歯科技工士 | 1 | 事務職員 | 194.2 |
| 管理栄養士 | 12 | 0.8 | 12.8 | 診療放射線技師 | 51.3 | その他の職員 | 1.2 |

- 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。

(注) 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

| 専門医名 | 人数(人) | 専門医名 | 人数(人) |
|---------|-------|----------|-------|
| 総合内科専門医 | 72 | 眼科専門医 | 9 |
| 外科専門医 | 42 | 耳鼻咽喉科専門医 | 6 |
| 精神科専門医 | 12 | 放射線科専門医 | 22 |
| 小児科専門医 | 21 | 脳神経外科専門医 | 12 |
| 皮膚科専門医 | 7 | 整形外科専門医 | 18 |
| 泌尿器科専門医 | 11 | 麻酔科専門医 | 27 |
| 産婦人科専門医 | 16 | 救急科専門医 | 7 |
| | | 合計 | 285 |

- 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。

(注) 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (遠藤 格) 任命年月日 令和 6 年 4 月 1 日

平成28年6月～平成30年3月に統括安全管理者(医療安全管理責任者)の経験を有する。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

| | 歯科等以外 | 歯科等 | 合計 |
|--------------|---------|------|---------|
| 1日当たり平均入院患者数 | 523 人 | 15 人 | 538 人 |
| 1日当たり平均外来患者数 | 1,775 人 | 85 人 | 1,860 人 |
| 1日当たり平均調剤数 | 626 | | 剤 |
| 必要医師数 | 154 | | 人 |
| 必要歯科医師数 | 2 | | 人 |
| 必要薬剤師数 | 18 | | 人 |
| 必要(准)看護師数 | 332 | | 人 |

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

| 施設名 | 床面積 | 主要構造 | 設備概要 | | |
|----------|---------------------------------|-----------------|---------------------------------|------------------------------|--|
| 集中治療室 | 195 m ² | 鉄骨造 | 病床数 人工呼吸装置 その他の救急蘇生装置 | 8 床 有 有 | 心電計 心細動除去装置 ペースメーカー 有 有 有 |
| 無菌病室等 | [固定式の場合] 床面積 [移動式の場合] 台数 | | 11.55～13.43 m ² 台 | 病床数 | 13 床 |
| 医薬品情報管理室 | [専用室の場合] 床面積 [共用室の場合] 共用する室名 | | | 32 | m ² |
| 化学検査室 | 1,278 m ² | 鉄骨造 | (主な設備) | 生化学多項目自動分析装置 検体前処理・搬送システム | |
| 細菌検査室 | 145 m ² | 鉄骨造 | (主な設備) | 自動細菌検査装置、全自動血液培養装置 | |
| 病理検査室 | 312 m ² | 鉄骨造 | (主な設備) | 自動免疫染色装置、電子顕微鏡 | |
| 病理解剖室 | 183 m ² | SRC | (主な設備) | 解剖室、更衣室、安置室(冷蔵室) | |
| 研究室 | 14,749 m ² | SRC 鉄筋コンクリート | (主な設備) | 動物実験センター、RI研究センター、臨床研究棟 | |
| 講義室 | 277 m ² | 鉄筋コンクリート | 室数 | 1 室 | 收容定員 130 人 |
| 図書室 | 2,398 m ² | 鉄筋コンクリート | 室数 | 室 | 蔵書数 155,019 冊 程度 |

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

| 紹介率 | 83 | % | 逆紹介率 | 87.4 | % |
|----------|------------------------|---|--------|------|---|
| 算出 根拠 | A: 紹介患者の数 | | 15,485 | | 人 |
| | B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数 | | 18,614 | | 人 |
| | C: 救急用自動車によって搬入された患者の数 | | 2,188 | | 人 |
| | D: 初診の患者の数 | | 22,290 | | 人 |

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

| 氏名 | 所属 | 委員長 (○を付す) | 選定理由 | 利害 関係 | 委員の要件 該当状況 |
|-------|--------------------------------|---------------|--|----------|---------------|
| 相馬 孝博 | 千葉大学医学部附属病院 医療安全管理部部長 医師 | ○ | 特定機能病院における 医療安全管理に卓越し た知識・経験を有し、当 該領域に造詣が深い | 無 | 1 |
| 水地 啓子 | 森法律事務所 弁護士 | | 特定機能病院における 医療や医療機関に関す る法律に卓越した識見を 有し、当該領域に造詣が 深い | 無 | 1 |
| 足立 雅子 | 病院ボランティア会ラン パス | | 長年のボランティアの活 動経験から、患者さんの 立場で病院における医 療安全の推進に関して 意見を述べることができ る | 無 | 2 |
| 中島 淳 | 本学医学部長 | | 医学生及び医師の教育・ 支援の観点から意見を 述べることができる(内 部委員) | 有 | 1 |
| 高橋 知宏 | 法人事務局副局長 | | 法人全体の内部監査・ 外部監査に携わり公平 な立場で物事を判断し意 見を述べるができる (内部委員) | 有 | 2 |
| | | | | | |

- 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
 (注) 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

| | |
|---------------|---|
| 委員名簿の公表の有無 | 有 |
| 委員の選定理由の公表の有無 | 有 |
| 公表の方法 | |
| 大学のHP上で公開 | |

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

| 先進医療の種類 | 取扱患者数 |
|---|-------|
| LDLアフェレンス療法 閉塞性動脈硬化症(薬物療法に抵抗性を有するものであり、かつ、血行再建術及び血管内治療が困難なものであって、フォンタン分類ⅡB度以上のものに限る。) | 0人 |
| S-1内服投与並びにパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法 膵臓がん(遠隔転移しておらず、かつ、腹膜転移を伴うものに限る。) | 0人 |
| 自家骨髄単核球移植による下肢血管再生治療 バージャー病(従来の治療法に抵抗性を有するものであって、フォンタン分類Ⅲ度又はⅣ度のものに限る。) | 0人 |
| 自家骨髄単核球移植による血管再生治療 全身性強皮症(難治性皮膚潰瘍を伴うものに限る。) | 0人 |
| | 0人 |
| | 0人 |
| | 0人 |
| | 0人 |
| | 0人 |
| | 0人 |
| | 0人 |
| | 0人 |
| | 0人 |
| | 0人 |
| | 0人 |
| | 0人 |
| | 0人 |
| | 0人 |
| | 0人 |
| | 0人 |
| | 0人 |
| | 0人 |
| | 0人 |
| | 0人 |
| | 0人 |
| 先進医療の種類合計数 | 4 |
| 取扱い患者数の合計(人) | 0人 |

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示
第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

| | | | |
|---|--|-------|---|
| 医療技術名 | 難治性てんかん患者に対する手術支援ロボットアームを用いた定位的頭蓋内電極留置／頭蓋内脳波 (stereotactic electroencephalography: SEEG) | 取扱患者数 | 4 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| <p>横浜市立大学附属病院では、難治性てんかん患者に対して、2022年6月に手術支援ロボットアーム(Cirqロボットアームシステム)を用いたものとしては世界初となる定位的頭蓋内電極留置／頭蓋内脳波 (stereotactic electroencephalography: SEEG)を行った。</p> <p>難治性てんかんの患者ではてんかん焦点を特定するために脳の表面や内部に直接電極を留置する頭蓋内電極留置と呼ばれる手法が必要となることがあるが、SEEGは開頭(頭蓋骨を専用のカッターで切って外すこと)を必要としないため、従来のシート状電極を用いた頭蓋内電極留置(硬膜下電極留置)よりも身体的負担が小さいことが知られている。</p> <p>また、脳の深い領域に位置するてんかん焦点や、てんかんの電氣的ネットワークの広がり、開頭の範囲に制限されることなく効率よく探索できる点で有用な方法とされている。このシステムを用いることで高精度な頭蓋内電極留置が可能となる。さらに、従来の定位脳手術用フレームを用いる方法に比べて、手術時間で大幅に短縮することが可能となる。</p> | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | |
| 当該医療技術の概要 | | | |

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

| | |
|----------------|---|
| その他の高度医療の種類合計数 | 1 |
| 取扱い患者数の合計(人) | 4 |

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

| | 疾患名 | 患者数 | | 疾患名 | 患者数 |
|----|----------------------------|-----|-----|-------------------------|-----|
| 1 | 球脊髄性筋萎縮症 | 7 | 65 | 慢性血栓塞栓性肺高血圧症 | 55 |
| 2 | 筋萎縮性側索硬化症 | 43 | 66 | リンパ脈管筋腫症 | 3 |
| 3 | 原発性側索硬化症 | 2 | 67 | 網膜色素変性症 | 14 |
| 4 | 進行性核上性麻痺 | 26 | 68 | バッド・キアリ症候群 | 1 |
| 5 | パーキンソン病 | 120 | 69 | 特発性門脈圧亢進症 | 4 |
| 6 | 大脳皮質基底核変性症 | 4 | 70 | 原発性胆汁性胆管炎 | 17 |
| 7 | ハンチントン病 | 5 | 71 | 原発性硬化性胆管炎 | 2 |
| 8 | シャルコー・マリー・トゥース病 | 2 | 72 | 自己免疫性肝炎 | 13 |
| 9 | 重症筋無力症 | 56 | 73 | クローン病 | 23 |
| 10 | 多発性硬化症/視神経脊髄炎 | 90 | 74 | 潰瘍性大腸炎 | 72 |
| 11 | 慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー | 11 | 75 | 好酸球性消化管疾患 | 2 |
| 12 | 封入体筋炎 | 2 | 76 | 慢性特発性偽性腸閉塞症 | 7 |
| 13 | 多系統萎縮症 | 19 | 77 | 全身型若年性特発性関節炎 | 33 |
| 14 | 脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。) | 36 | 78 | TNF受容体関連周期性症候群 | 1 |
| 15 | ライソゾーム病 | 2 | 79 | ブラウ症候群 | 1 |
| 16 | 副腎白質ジストロフィー | 1 | 80 | 筋ジストロフィー | 8 |
| 17 | ミトコンドリア病 | 8 | 81 | 遺伝性周期性四肢麻痺 | 1 |
| 18 | もやもや病 | 8 | 82 | 脊髄空洞症 | 1 |
| 19 | 全身性アミロイドーシス | 13 | 83 | 皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症 | 1 |
| 20 | 神経線維腫症 | 9 | 84 | 前頭側頭葉変性症 | 3 |
| 21 | 天疱瘡 | 15 | 85 | 先天性無痛無汗症 | 1 |
| 22 | 膿疱性乾癬(汎発型) | 5 | 86 | ラスムッセン脳炎 | 1 |
| 23 | 中毒性表皮壊死症 | 2 | 87 | 結節性硬化症 | 6 |
| 24 | 高安動脈炎 | 20 | 88 | 先天性魚鱗癬 | 1 |
| 25 | 巨細胞性動脈炎 | 11 | 89 | 類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。) | 9 |
| 26 | 結節性多発動脈炎 | 12 | 90 | 特発性後天性全身性無汗症 | 3 |
| 27 | 顕微鏡的多発血管炎 | 22 | 91 | マルファン症候群 | 2 |
| 28 | 多発血管炎性肉芽腫症 | 13 | 92 | ウィルソン病 | 2 |
| 29 | 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症 | 16 | 93 | 多脾症候群 | 1 |
| 30 | 悪性関節リウマチ | 9 | 94 | 修正大血管転位症 | 1 |
| 31 | バージャー病 | 2 | 95 | 完全大血管転位症 | 3 |
| 32 | 原発性抗リン脂質抗体症候群 | 6 | 96 | 単心室症 | 2 |
| 33 | 全身性エリテマトーデス | 176 | 97 | 三尖弁閉鎖症 | 2 |
| 34 | 皮膚筋炎/多発性筋炎 | 82 | 98 | 心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症 | 1 |
| 35 | 全身性強皮症 | 60 | 99 | ファロー四徴症 | 5 |
| 36 | 混合性結合組織病 | 29 | 100 | 両大血管右室起始症 | 1 |
| 37 | シェーグレン症候群 | 25 | 101 | 抗糸球体基底膜腎炎 | 1 |
| 38 | 成人ステル病 | 12 | 102 | 一次性ネフローゼ症候群 | 3 |
| 39 | 再発性多発軟骨炎 | 7 | 103 | 一次性膜性増殖性糸球体腎炎 | 1 |
| 40 | ベーチェット病 | 127 | 104 | 紫斑病性腎炎 | 2 |
| 41 | 特発性拡張型心筋症 | 12 | 105 | オスラー病 | 2 |
| 42 | 肥大型心筋症 | 3 | 106 | ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症 | 1 |
| 43 | 拘束型心筋症 | 1 | 107 | 家族性地中海熱 | 4 |
| 44 | 再生不良性貧血 | 10 | 108 | 中條・西村症候群 | 1 |
| 45 | 自己免疫性溶血性貧血 | 1 | 109 | 化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群 | 1 |
| 46 | 特発性血小板減少性紫斑病 | 16 | 110 | 慢性再発性多発性骨髄炎 | 1 |
| 47 | 血栓性血小板減少性紫斑病 | 1 | 111 | 強直性脊椎炎 | 7 |
| 48 | 原発性免疫不全症候群 | 18 | 112 | 骨形成不全症 | 1 |
| 49 | IgA腎症 | 11 | 113 | 巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変) | 1 |
| 50 | 多発性嚢胞腎 | 20 | 114 | クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群 | 1 |
| 51 | 黄色靱帯骨化症 | 3 | 115 | 後天性赤芽球癆 | 1 |
| 52 | 後縦靱帯骨化症 | 17 | 116 | 遺伝性鉄芽球性貧血 | 1 |
| 53 | 広範脊柱管狭窄症 | 1 | 117 | 自己免疫性後天性凝固因子欠乏症 | 2 |
| 54 | 特発性大腿骨頭壊死症 | 59 | 118 | 総排泄腔遺残 | 1 |
| 55 | 下垂体性ADH分泌異常症 | 10 | 119 | 胆道閉鎖症 | 1 |
| 56 | 下垂体性PRL分泌亢進症 | 3 | 120 | 嚢胞性線維症 | 1 |
| 57 | クッシング病 | 3 | 121 | IgG4関連疾患 | 9 |

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

| | | | | | |
|----|---------------------|----|-----|-----------------|----|
| 58 | 下垂体性成長ホルモン分泌亢進症 | 6 | 122 | 黄斑ジストロフィー | 1 |
| 59 | 下垂体前葉機能低下症 | 29 | 123 | レーベル遺伝性視神経症 | 1 |
| 60 | 家族性高コレステロール血症(ホモ接合) | 1 | 124 | 若年発症型両側性感音難聴 | 1 |
| 61 | アジソン病 | 1 | 125 | 好酸球性副鼻腔炎 | 10 |
| 62 | サルコイドーシス | 29 | 126 | 遺伝性自己炎症疾患 | 1 |
| 63 | 特発性間質性肺炎 | 24 | 127 | 多発性多中心性キャッスルマン病 | 1 |
| 64 | 肺動脈性肺高血圧症 | 20 | | | |

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

| | |
|----------|-------|
| 疾患数 | 127 |
| 合計患者数(人) | 1,775 |

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

| 施設基準の種類 | 施設基準の種類 |
|-------------------------------|---------------------------------------|
| ・情報通信機器を用いた診療に係る基準 | ・歯科点数表の初診料の注1に規定する施設基準 |
| ・歯科外来診療環境体制加算1 | ・特定機能病院入院基本料(一般病棟7対1、結核病棟7対1、精神病棟7対1) |
| ・超急性期脳卒中加算 | ・診療録管理体制加算1 |
| ・救急医療管理加算 | ・医師事務作業補助体制加算2 |
| ・急性期看護補助体制加算 | ・看護職員夜間配置加算 |
| ・療養環境加算 | ・重症者等療養環境特別加算 |
| ・無菌治療室管理加算1 | ・無菌治療室管理加算2 |
| ・放射線治療病室管理加算(治療用放射性同位元素による場合) | ・放射線治療病室管理加算(密封小線源による場合) |
| ・緩和ケア診療加算 | ・精神科身体合併症管理加算 |
| ・精神科リエゾンチーム加算 | ・摂食障害入院医療管理加算 |
| ・栄養サポートチーム加算 | ・重症患者初期支援充実加算 |
| ・医療安全対策加算1 | ・感染対策向上加算1 |
| ・患者サポート体制充実加算 | ・報告書管理体制加算 |
| ・褥瘡ハイリスク患者ケア加算 | ・ハイリスク妊娠管理加算 |
| ・ハイリスク分娩管理加算 | ・呼吸ケアチーム加算 |
| ・術後疼痛管理チーム加算 | ・後発医薬品使用体制加算1 |
| ・病棟薬剤業務実施加算1 | ・病棟薬剤業務実施加算2 |
| ・データ提出加算2 | ・入退院支援加算1 |
| ・認知症ケア加算3 | ・せん妄ハイリスク患者ケア加算 |
| ・精神疾患診療体制加算 | ・精神科急性期医師配置加算 |
| ・地域医療体制確保加算 | ・特定集中治療室管理料1 |
| ・ハイケアユニット入院医療管理料1 | ・新生児特定集中治療室管理料1 |
| ・小児入院医療管理料2 | ・看護職員処遇改善評価料68 |
| ・入院時食事療養/生活療養(I) | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

| 施設基準の種類 | 施設基準の種類 |
|--------------------------------------|--|
| ・歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料 | ・ウイルス疾患指導料 |
| ・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算 | ・糖尿病合併症管理料 |
| ・がん性疼痛緩和指導管理料 | ・がん患者指導管理料イ |
| ・がん患者指導管理料ロ | ・がん患者指導管理料ハ |
| ・がん患者指導管理料ニ | ・外来緩和ケア管理料 |
| ・移植後患者指導管理料(臓器移植後) | ・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後) |
| ・糖尿病透析予防指導管理料 | ・小児運動器疾患指導管理料 |
| ・乳腺炎重症化予防・ケア指導料 | ・婦人科特定疾患治療管理料 |
| ・腎代替療法指導管理料 | ・二次性骨折予防継続管理料1 |
| ・二次性骨折予防継続管理料3 | ・下肢創傷処置管理料 |
| ・夜間休日救急搬送医学管理料の注3に掲げる救急搬送看護体制加算1 | ・外来放射線照射診療料 |
| ・外来腫瘍化学療法診療料1 | ・連携充実加算 |
| ・ニコチン依存症管理料 | ・療養・就労両立支援指導料の注3に掲げる相談支援加算 |
| ・がん治療連携計画策定料 | ・肝炎インターフェロン治療計画料 |
| ・ハイリスク妊産婦連携指導料1 | ・薬剤管理指導料 |
| ・医療機器安全管理料1 | ・医療機器安全管理料2 |
| ・医療機器安全管理料(歯科) | ・精神科退院時共同指導料2 |
| ・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料 | ・在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2 |
| ・持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定 | ・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合) |
| ・遺伝学的検査 | ・染色体検査の注2に規定する基準 |
| ・精密触覚機能検査 | ・骨髄微小残存病変量測定 |
| ・BRCA1/2遺伝子検査 | ・がんゲノムプロファイリング検査 |
| ・先天性代謝異常検査 | ・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査) |
| ・HPV核酸検出およびHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定) | ・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出 |
| ・検体検査管理加算(I) | ・検体検査管理加算(IV) |
| ・国際標準検査管理加算 | ・遺伝カウンセリング加算 |

| | |
|---------------------------|---|
| ・遺伝性腫瘍カウンセリング加算 | ・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算 |
| ・胎児心エコー法 | ・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト |
| ・ヘッドアップティルト試験 | ・人工臓器検査、人工臓器療法 |
| ・長期継続頭蓋内脳波検査 | ・長期脳波ビデオ同時記録検査1 |
| ・脳波検査判断料1 | ・遠隔脳波診断 |
| ・単線維筋電図 | ・神経学的検査 |
| ・補聴器適合検査 | ・黄斑局所網膜電図 |
| ・全視野精密網膜電図 | ・ロービジョン検査判断料 |
| ・コンタクトレンズ検査料1 | ・内服・点滴誘発試験 |
| ・CT透視下気管支鏡検査加算 | ・経気管支凍結生検法 |
| ・画像診断管理加算1 | ・画像診断管理加算3 |
| ・遠隔画像診断 | ・ポジトロン断層撮影 |
| ・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影 | ・コンピューター断層撮影(CT撮影) |
| ・磁気共鳴コンピューター断層撮影(MRI撮影) | ・冠動脈CT撮影加算 |
| ・心臓MRI撮影加算 | ・乳房MRI撮影加算 |
| ・頭部MRI撮影加算 | ・肝エラストグラフィ加算 |
| ・抗悪性腫瘍剤処方管理加算 | ・外来化学療法加算1 |
| ・無菌製剤処理料 | ・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ) |
| ・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ) | ・運動器リハビリテーション料(Ⅰ) |
| ・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ) | ・摂食機能療法の注3に規定する摂食嚥下機能回復体制加算2 |
| ・がん患者リハビリテーション料 | ・歯科口腔リハビリテーション料2 |
| ・児童思春期精神科専門管理加算 | ・療養生活継続支援加算 |
| ・救急患者精神科継続支援料 | ・認知療法・認知行動療法1 |
| ・精神科ショート・ケア「小規模なもの」 | ・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。) |
| ・医療保護入院等診療料 | ・静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの) |
| ・硬膜外自家血注入 | ・エタノールの局所注入(甲状腺) |
| ・エタノールの局所注入(副甲状腺) | ・人工腎臓1 |
| ・導入期加算2及び腎代替療法実績加算 | ・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算 |
| ・下肢末梢動脈疾患指導管理加算 | ・難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法 |
| ・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法 | ・手術用顕微鏡加算 |
| ・CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー | ・センチネルリンパ節加算 |

| | |
|--|--|
| ・四肢・軀幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算 | ・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。) |
| ・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る。))) | ・骨移植術(軟骨移植術を含む)(自家培養軟骨移植術に限る。) |
| ・椎間板内酵素注入療法 | ・内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術 |
| ・脳刺激装置植込術(頭蓋骨内電極植込術を含む。)&及び脳刺激装置交換術 | ・頭蓋内電極植込術(脳深部電極・7本以上) |
| ・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術 | ・癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの) |
| ・角結膜悪性腫瘍切除手術 | ・羊膜移植術 |
| ・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの)) | ・緑内障手術(緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術) |
| ・緑内障手術(濾過胞再建術(needle法)) | ・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの) |
| ・網膜再建術 | ・経外耳道的内視鏡下鼓室形成術 |
| ・植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術 | ・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うもの) |
| ・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。) | ・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び鏡視下喉頭悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) |
| ・内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの) | ・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術 |
| ・喉頭形成手術(甲状軟骨固定用器具を用いたもの) | ・顎関節人工関節全置換術 |
| ・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術 | ・内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術 |
| ・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法 | ・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用) |
| ・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独) | ・乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの)) |
| ・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後) | ・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) |
| ・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術及び胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) | ・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので、内視鏡手術用支援機器を用いる場合) |
| ・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除) | ・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) |
| ・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃・十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)及び腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの) | ・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの) |
| ・経カテーテル弁置換術(経皮的肺動脈弁置換術) | ・不整脈手術 左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの) |
| ・経皮的中隔心筋焼灼術 | ・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術 |
| ・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー) | ・両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合) |
| ・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合) | ・植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術(心筋リードを用いるもの) |

| | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去術 | <ul style="list-style-type: none"> ・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合) | <ul style="list-style-type: none"> ・大動脈バルーンポンピング法(IABP法) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの) | <ul style="list-style-type: none"> ・補助人工心臓 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・植込型補助人工心臓(非拍動流型) | <ul style="list-style-type: none"> ・経皮的下肢動脈形成術 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・腹腔鏡下リンパ群郭清術(側方) | <ul style="list-style-type: none"> ・腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開後腹膜悪性腫瘍手術、腹腔鏡下小切開副腎摘出手術、腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開尿管腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術、腹腔鏡下小切開膀胱腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの) | <ul style="list-style-type: none"> ・腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) | <ul style="list-style-type: none"> ・腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術 | <ul style="list-style-type: none"> ・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。) | <ul style="list-style-type: none"> ・体外衝撃波胆石破碎術 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・腹腔鏡下肝切除術 | <ul style="list-style-type: none"> ・生体部分肝移植術 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術 | <ul style="list-style-type: none"> ・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合を除く。) | <ul style="list-style-type: none"> ・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術 | <ul style="list-style-type: none"> ・腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・腹腔鏡下直腸切除・切断術(切除術、低位前方切除術及び切断術に限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) | <ul style="list-style-type: none"> ・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術 | <ul style="list-style-type: none"> ・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの) | <ul style="list-style-type: none"> ・膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) | <ul style="list-style-type: none"> ・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術 | <ul style="list-style-type: none"> ・人工尿道括約筋植込・置換術 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)、埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの) | <ul style="list-style-type: none"> ・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの) | <ul style="list-style-type: none"> ・腹腔鏡下仙骨腔固定術 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) | <ul style="list-style-type: none"> ・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。) | <ul style="list-style-type: none"> ・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術 | <ul style="list-style-type: none"> ・体外式模型人工肺管理料 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術 | <ul style="list-style-type: none"> ・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術) | <ul style="list-style-type: none"> ・輸血管管理料 I |

| | |
|--|-----------------------|
| ・輸血適正使用加算 | ・コーディネート体制充実加算 |
| ・自己生体組織接着剤作成術 | ・自己クリオプレシピテート作製術(用手法) |
| ・同種クリオプレシピテート作製術 | ・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算 |
| ・胃瘻造設時嚥下機能評価加算 | ・歯周組織再生誘導手術 |
| ・広範囲顎骨支持型装置埋込手術 | ・歯根端切除手術の注3 |
| ・麻酔管理料(Ⅰ) | ・麻酔管理料(Ⅱ) |
| ・放射線治療専任加算 | ・外来放射線治療加算 |
| ・高エネルギー放射線治療 | ・1回線量増加加算 |
| ・強度変調放射線治療(IMRT) | ・画像誘導放射線治療(IGRT) |
| ・体外照射呼吸性移動対策加算 | ・定位放射線治療 |
| ・定位放射線治療呼吸性移動対策加算 | ・画像誘導密封小線源治療加算 |
| ・病理診断管理加算2 | ・悪性腫瘍病理組織標本加算 |
| ・クラウン・ブリッジ維持管理料 | ・歯科矯正診断料 |
| ・顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。)の手術前後における歯科矯正に係るもの) | ・酸素の購入単価 |
| ・通院対象者通院医学管理料 | ・ |

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

| 施設基準等の種類 | 施設基準等の種類 |
|----------|----------|
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |

(注)1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注)2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

| | | |
|-------------------------------------|--|----|
| 臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況 | ① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。 | |
| 臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度 | 12 | |
| 剖検の状況 | 剖検症例数(例) | 12 |
| | 剖検率(%) | 4 |

(注)1 「臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況」欄については、選択肢の1・2どちらかを選択する(○で囲む等)こと。

(注)2 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 |
|--|-------------------------|---------------|---------|--------------------------------------|
| 高リスク染色体異常を有する新規白血病細胞株を応用した抗がん剤耐性機構の解明 | 國本 博義 | 血液・免疫・感染症内科学 | 130万円 | 補委 日本学術振興会 |
| タンパク質恒常性制御による白血病幹細胞生成・維持の分子メカニズム解明 | 中島 秀明 | 血液・免疫・感染症内科学 | 430万円 | 補委 日本学術振興会 |
| 転写因子IRF5に注目した全身性エリテマトーデスの新しい病態解明 | 中島 秀明 桐野 洋平 吉見 竜介 | 血液・免疫・感染症内科学 | 50万円 | 補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 |
| 国内流行HIV及びその薬剤耐性株の長期的動向把握に関する研究 | 中島 秀明 | 血液・免疫・感染症内科学 | 45万円 | 補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 |
| 新規細胞質型RNAウイルスベクターを用いた新興・再興感染症ワクチン作製プラットフォームの確立と遺伝子組換えワクチンのカタログ化 | 中島 秀明 | 血液・免疫・感染症内科学 | 300万円 | 補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 |
| オートファジー・リソソーム系を治療標的とする膠原病の新規治療法の探索 | 吉見 竜介 | 血液・免疫・感染症内科学 | 90万円 | 補委 日本学術振興会 |
| ベーチェット病のゲノムワイド型解析によるエビデンス創出とレジストリー構築 | 桐野 洋平 | 血液・免疫・感染症内科学 | 170万円 | 補委 日本学術振興会 |
| 新規自己炎症性疾患 VEXAS症候群のdeep phenotypingを通じた病態解明研究 | 桐野 洋平 | 血液・免疫・感染症内科学 | 1,500万円 | 補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 免疫アレルギー疾患実用化事業 |
| レジストリを活用したベーチェット病の予後不良病型発症予防のためのtreat-to-target開発 | 桐野 洋平 | 血液・免疫・感染症内科学 | 1,000万円 | 補委 AMED 難治性疾患実用化研究事業 |
| 自己炎症性疾患とその類縁疾患における、移行期医療を含めた診療体制整備、患者登録推進、全国疫学調査に基づく診療ガイドライン構築に関する研究 | 桐野 洋平 | 血液・免疫・感染症内科学 | 60万円 | 補委 厚生労働省 難治性疾患政策研究事業 |
| ベーチェット病に関する調査研究 | 桐野 洋平 | 血液・免疫・感染症内科学 | 20万円 | 補委 厚生労働省 難治性疾患政策研究事業 |
| 好中球における家族性地中海熱原因タンパクpyrinの機能解析 | 寒川 整 | 血液・免疫・感染症内科学 | 130万円 | 補委 日本学術振興会 |
| 組織におけるナトリウム代謝異常をターゲットとした全身性強皮症の病態解明 | 峯岸 薫 | 血液・リウマチ・感染症内科 | 140万円 | 補委 日本学術振興会 |
| 咳嗽・喀痰の診療ガイドライン2019「喀痰総論」の改定に向けたエビデンスの構築 | 金子 猛 | 呼吸器病学 | 100万円 | 補委 学術研究助成基金助成金 基盤研究(C) |
| 収縮機能の保持された心不全におけるRANKL/RANK/OPGシステムの役割 | 上村 大輔 | 循環器内科学 | 104万円 | 補委 文部科学省 |
| 高齢心不全患者の肺炎発症とサルコペニア・低栄養の関係 | 小西 正紹 | 循環器内科学 | 200万円 | 補委 一般社団法人 日本老年医学会 |
| 高齢心不全患者のフレイルに対する鉄補充療法の効果の検証 | 小西 正紹 | 循環器内科学 | 117万円 | 補委 文部科学省 |
| シングルセル解析を用いた常染色体優性多発性嚢胞腎の新規病態解明 | 鈴木 徹 | 循環器内科学 | 143万円 | 補委 文部科学省 |
| 非虚血性心不全症例の、冠微小循環障害の合併頻度およびその機序を解明する研究 | 日比 潔 | 循環器内科学 | 170万円 | 補委 文部科学省 |
| 高血圧-脳心血管病-腎臓病の病態関連の機序解明と新規治療開発をめざした研究 | 日比 潔 | 循環器内科学 | 40万円 | 補委 学長裁量事業 (横浜市立大学) |
| 【心筋炎】心筋炎から心筋症への移行を阻止する全く新しい特発性拡張型心筋症の治療法開発に向けた病態解明と治療標的の同定 | 日比 潔 | 循環器内科学 | 30万円 | 補委 日本医療研究開発機構 |

| | | | | | |
|--|--------|--------------|------------|----|--|
| 糖尿病合併症冠動脈疾患患者に対する強化多因子治療の冠動脈プラーク退縮効果 | 日比 潔 | 循環器内科学 | 15万円 | 補委 | 文部科学省 |
| 致死的不整脈におけるSCN5A-Nedd4-2系の分子メカニズム解明 | 峯岸 慎太郎 | 循環器内科学 | 113万円 | 補委 | 文部科学省 |
| 機械学習により心電図データから換気障害を予測するアルゴリズムの構築 | 峯岸 慎太郎 | 循環器内科学 | 10万円 | 補委 | 文部科学省 |
| 免疫チェックポイント阻害薬心筋炎の新規バイオマーカー開発 | 峯岸 慎太郎 | 循環器内科学 | 200万円 | 補委 | 公益財団法人 テルモ生命科学振興財団 |
| 免疫チェックポイント阻害薬による心臓有害事象に対する新規バイオマーカーの開発 | 峯岸 慎太郎 | 循環器内科学 | 30万円 | 補委 | 公益財団法人 横浜学術教育振興財団 |
| 糖尿病性腎臓病における腎エネルギー代謝の病態生理学的意義の解明 | 小豆島健護 | 循環器・腎臓・高血圧内科 | 234万円 | 補 | 科学研究費補助金, 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)若手研究 |
| エネルギー代謝障害に着目した糖尿病性心腎連関の新規病態解明および新規治療法探索 | 小豆島健護 | 循環器・腎臓・高血圧内科 | 125万円 | 補 | 公益財団法人 循環器病研究振興財団, バイエル循環器病研究助成 |
| 糖尿病性心腎連関におけるエネルギー代謝障害の病態生理学的意義の解明 | 小豆島健護 | 循環器・腎臓・高血圧内科 | 150万円 | 補 | 公益財団法人 持田記念医学薬学振興財団, 持田記念研究助成金 |
| 高血圧の新規病態機序としての皮膚組織レニン-アンジオテンシン系 | 小豆島健護 | 循環器・腎臓・高血圧内科 | 156万円 | 補 | 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究(C) |
| 高血圧における皮膚組織レニン-アンジオテンシン系とナトリウム蓄積の病態生理学的意義 | 小豆島健護 | 循環器・腎臓・高血圧内科 | 55万円 | 補 | 公益財団法人 ソルト・サイエンス研究財団, 研究助成 |
| Angiotensin II type-1 receptor-associated protein interacts with transferrin receptor-1 and promotes its internalization. Scientific Reports | 安部えりこ | 循環器・腎臓・高血圧内科 | 100万円 | 補 | わかば研究助成 |
| 下肢潰瘍に対するアフレス治療法の治療バイオマーカー開発とその機能的意義の検討 | 植田瑛子 | 循環器・腎臓・高血圧内科 | 169万円 | 補 | 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)若手研究 |
| 腎老化病態におけるATRAPと新規老化関連因子Glutaminaseの関連性の救命 | 浦手進吾 | 循環器・腎臓・高血圧内科 | 143万円 | 補 | 日本学術振興会研究活動スタート支援 |
| ARNIを足掛かりとした心腎連関症候群の分子病態機序の解明および新規治療法の開発 | 浦手進吾 | 循環器・腎臓・高血圧内科 | 169万円 | 補 | 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)若手研究 |
| サルコペニアをとまなう慢性腎臓病における六君子湯の腎保護効果の検討 | 金口翔 | 循環器・腎臓・高血圧内科 | 250万円 | 補 | 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)若手研究 |
| 六君子湯の筋腎関連を介した腎保護効果の検討 | 金口翔 | 循環器・腎臓・高血圧内科 | 200万円 | 補 | 公益財団法人上原記念生命科学財団 |
| ヒト腎生検検体を用いたシングルセルRNAシーケンス解析による糖尿病性腎臓病の進行メカニズムの解明 | 田村功一 | 循環器・腎臓・高血圧内科 | 50万円 | 補 | 公益財団法人山口内分泌疾患研究振興財団研究助成 |
| 高血圧-脳心血管病-腎臓病の病態関連の機序解明と新規治療開発をめざした研究 | 田村功一 | 循環器・腎臓・高血圧内科 | 301万2,582円 | 補 | 横浜市立大学かもめプロジェクト研究助成 |
| “健歩快働”をまちごと科学するイノベティブ新湘南共創拠点 | 田村功一 | 循環器・腎臓・高血圧内科 | 260万円 | 補 | JST研究成果展開事業(産学官の連携による共創の「場」の形成支援): 共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT) |
| 腎疾患対策検討会報告書に基づく対策の進捗管理および新たな対策の提言に資するエビデンス構築 | 田村功一 | 循環器・腎臓・高血圧内科 | 120万円 | 補 | 厚生労働科学研究費補助金 |
| 糖尿病合併症冠動脈疾患患者に対する強化多因子治療の冠動脈プラーク退縮効果 | 田村功一 | 循環器・腎臓・高血圧内科 | 40万円 | 補 | 日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究C) |
| 中枢神経での受容体結合因子に着目した高血圧・腎障害の病態連関制御 | 涌井広道 | 循環器・腎臓・高血圧内科 | 156万円 | 補 | 日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究C) |
| 下肢潰瘍に対するアフレス治療法の治療メカニズムの解明およびバイオマーカーの開発 | 涌井広道 | 循環器・腎臓・高血圧内科 | 227.7万円 | 補 | 公益社団法人日本透析医会研究助成 |

| | | | | | |
|--|--------|--------------|-------|----|---|
| 高血圧-脳心血管病-腎臓病の病態関連の機序解明と新規治療開発をめざした研究 | 涌井広道 | 循環器・腎臓・高血圧内科 | 40万円 | 補 | 学長裁量事業「かもめプロジェクト」 |
| 受容体結合蛋白の独自機能を起点とした加齢-骨髄-心血管腎臓代謝疾患の病態連関制御 | 田村功一 | 循環器・腎臓・高血圧内科 | 455万円 | 補委 | 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究(C) |
| 高血圧・高血圧性臓器障害における血管新生因子の病態生理学的意義 | 金岡知彦 | 循環器・腎臓・高血圧内科 | 455万円 | 補委 | 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究(C) |
| 膵癌における腫瘍関連マクロファージのマスター転写因子を標的とした新規治療法への探索研究する研究 | 前田 慎 | 消化器内科学 | 40万円 | 補委 | 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 |
| 膵がん早期発見・精密治療方針決定を実現する新規放射性抗体医薬を用いた超音波内視鏡ガイド投与による革新的PET画像診断の第I相医師主導治験 | 前田 慎 | 消化器内科学 | 200万円 | 補委 | 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 |
| 腸上皮化生に対するISXを標的とした胃発癌化学予防治療の臨床応用 | 須江 聡一郎 | 消化器内科学 | 468万円 | 補委 | 文部科学省 |
| 希少難治性消化器疾患の長期的QOL向上と小児期からのシームレスな医療体制構築 | 中島 淳 | 肝胆膵消化器病学 | 20万円 | 補委 | 厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患等政策研究事業) |
| ヒト肝オルガノイドモデルを用いた内分泌系の破綻と炎症・線維化機構の解明 | 米田正人 | 肝胆膵消化器病学 | 380万円 | 補委 | 日本医療研究開発機構受託研究費(AMED-革新的先端研究開発支援事業CREST, PRIME) |
| NASH肝硬変を対象としたヒトiPSC肝臓オルガノイド移植治療法の開発 | 中島 淳 | 肝胆膵消化器病学 | 213万円 | 補委 | 日本医療研究開発機構受託研究費(AMED-再生医療実現拠点ネットワークプログラム疾患・組織別実用化研究拠点(拠点B)) |
| オルガノイドを活用したPTEN遺伝子VUSの新規評価法の確立 | 加藤 真吾 | がんゲノム診断科 | 500万円 | 補委 | 日本医療研究開発機構受託研究費(AMED-ゲノム創薬基盤推進研究事業) |
| 膵癌における腫瘍関連マクロファージのマスター転写因子を標的とした新規治療法への探索研究 | 加藤 真吾 | がんゲノム診断科 | 114万円 | 補委 | 日本医療研究開発機構受託研究費(AMED-次世代がん医療加速化研究事業) |
| 癌促進物質と扱われてきたポリアミンを逆利用した大腸癌予防法の開発 | 日暮 琢磨 | 肝胆膵消化器病学 | 52万円 | 補委 | 科学研究費助成事業 挑戦的研究(開拓) |
| NASHの肝臓局所免疫における腸内細菌の役割の解明 | 小林 貴 | 国際臨床肝疾患センター | 143万円 | 補委 | 科学研究費助成事業 若手研究 |
| オルガノイドを用いたLTRAによる大腸腫瘍化学予防効果の解明 | 日暮 琢磨 | 肝胆膵消化器病学 | 117万円 | 補委 | 科学研究費助成事業 基盤研究(C) |
| 腸管バリアに注目した非アルコール性脂肪疾患の新規治療の開発 | 結束 貴臣 | 肝胆膵消化器病学 | 130万円 | 補委 | 科学研究費助成事業 基盤研究(C) |
| NAFLDおよびNAFLD由来肝細胞癌における鉄沈着の役割の検討 | 今城 健人 | 肝胆膵消化器病学 | 195万円 | 補委 | 科学研究費助成事業 基盤研究(C) |
| NAFLDに合併するサルコペニア発症機序における門脈圧亢進症、胆汁酸変化の検討 | 米田 正人 | 国際臨床肝疾患センター | 52万円 | 補委 | 科学研究費助成事業 基盤研究(C) |
| CDH1病的胚細胞バリエーションと環境要因の解析-びまん型胃癌予防への応用 | 鈴木 章浩 | 肝胆膵消化器病学 | 143万円 | 補委 | 科学研究費助成事業 若手研究 |
| オルガノイドを用いた膵神経内分泌腫瘍の腫瘍免疫応答解明と新規治療薬の開発 | 長谷川 翔 | 内視鏡センター | 143万円 | 補委 | 科学研究費助成事業 若手研究 |
| 胆汁酸性下痢症における新規診断法および革新的治療法の開発 | 三澤 昇 | 内視鏡センター | 65万円 | 補委 | 科学研究費助成事業 若手研究 |
| 歯周病治療が及ぼす大腸腫瘍や便のF.nucleatumへの影響 | 吉原 努 | 肝胆膵消化器病学 | 130万円 | 補委 | 科学研究費助成事業 若手研究 |
| 精密がん患者モデルを用いた膵癌新規がん免疫療法の開発 | 加藤 真吾 | がんゲノム診断科 | 130万円 | 補委 | 科学研究費助成事業 基盤研究(C) |
| NASHマウスの動脈硬化、発癌に対するエロビキシバット、コレステラミンの有効性 | 岩城 慶大 | 国際臨床肝疾患センター | 39万円 | 補委 | 科学研究費助成事業 基盤研究(C) |

| | | | | | |
|---|----------|--------------|---------|----|----------------|
| 機能的な膵β細胞量を増加させる「膵β細胞のhealthy expansion」の分子機構の解明 | 寺内康夫(代) | 内分泌・糖尿病内科学 | 754万円 | 補委 | 科学研究費基盤研究(B) |
| 弾性線維を介したエネルギー代謝制御機構の解明 | 奥山朋子(代) | 内分泌・糖尿病内科学 | 169万円 | 補委 | 科学研究費基盤研究(C) |
| リン酸化プロテオミクスによる膵切除後膵β細胞増殖機構の解明 | 富樫 優(代) | 内分泌・糖尿病内科学 | 130万円 | 補委 | 科学研究費基盤研究(C) |
| 膵島と膵細胞の相互作用によるGLP-1を介した膵β細胞増殖制御機構の解析 | 京原麻由 | 内分泌・糖尿病内科学 | 234万円 | 補委 | 科学研究費若手研究 |
| RFC1関連スペクトラム障害CANVASの病態解明 | 田中章景 | 神経内科学・脳卒中中医学 | 1,000万円 | 補委 | AMED |
| 新規イントロンリピート病CANVASの病態解析モデルの構築 | 田中章景 | 神経内科学・脳卒中中医学 | 90万円 | 補委 | JSPS |
| 神経核内封入体病の病態解明と根本的治療法の開発 | 田中章景 | 神経内科学・脳卒中中医学 | 10万円 | 補委 | JSPS |
| プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究 | 田中章景 | 神経内科学・脳卒中中医学 | 110万円 | 補委 | 厚生労働省 |
| 運動失調症の医療水準,患者QOLの向上に資する研究 | 田中章景 | 神経内科学・脳卒中中医学 | 70万円 | 補委 | 厚生労働省 |
| SCA42疾患修飾治療に向けた病態基盤の解明 | 土井 宏 | 神経内科学・脳卒中中医学 | 1,000万円 | 補委 | AMED |
| 非翻訳領域リピート病のiPS細胞を用いた病態解明研究 | 土井 宏 | 神経内科学・脳卒中中医学 | 1,300万円 | 補委 | AMED |
| 脊髄小脳失調症42型疾患修飾治療開発と光遺伝学的手法を用いた病態基盤の解明 | 土井 宏 | 神経内科学・脳卒中中医学 | 90万円 | 補委 | JSPS |
| パーキンソン病の仮面様顔貌と認知症発症の関連についての検討:前向きコホート研究 | 東山雄一 | 神経内科学・脳卒中中医学 | 65万円 | 補委 | JSPS |
| UBQLN2・HSC70/HSPA1複合体の機能低下に着目した筋萎縮性側索硬化症の病態解明 | 田中健一 | 神経内科学・脳卒中中医学 | 120万円 | 補委 | JSPS |
| CRMP2の機能解明に基づく神経変性疾患の治療法開発 | 中村治子 | 神経内科学・脳卒中中医学 | 169万円 | 補委 | JSPS |
| T型カルシウムチャネルパッチにおける神経変性分子基盤の解明 | 橋口俊太 | 神経内科学・脳卒中中医学 | 140万円 | 補委 | JSPS |
| 原発性進行性失語の病型分類に有用な臨床バイオマーカーの開発 | 小林絵礼奈 | 神経内科学・脳卒中中医学 | 140万円 | 補委 | JSPS |
| 凝集体結合タンパク質SGTAの解析を通じた神経変性疾患の分子病態解明 | 窪田 瞬 | 神経内科学・脳卒中中医学 | 110万円 | 補委 | JSPS |
| CRMPsを標的とした筋萎縮性側索硬化症の病態解明・治療法開発 | 浅野徹也 | 神経内科学・脳卒中中医学 | 220万円 | 補委 | JSPS |
| 神経内分泌腫瘍(NENs)の早期発見、治療効果予測のための血液バイオマーカーの探索 | 小林 規俊 | がん総合医科学 | 120万円 | 補委 | 科学研究費 基盤研究(C) |
| 神経内分泌腫瘍(NENs)の早期発見、治療効果予測のための血液バイオマーカーの探索 | 市川 靖史 | がん総合医科学 | 100万円 | 補委 | 科学研究費 基盤研究(C) |
| 局所進行胃癌に対する術前補助化学療法個別化を目指したバイオマーカーの探索 | (代)青山 徹 | 外科治療学 | 50万円 | 補委 | 科学研究費 基盤研究(C) |
| 甲状腺癌オルガノイドを用いた放射性ヨウ素治療抵抗性機序の解明 | (分)菅沼 伸康 | 外科治療学 | 40万円 | 補委 | 科学研究費 基盤研究(B) |
| 導管様分化を示す稀少な肺癌の臨床病理学的・分子遺伝学的特性に関する研究 | (分)石川 善啓 | 外科治療学 | 10万円 | 補委 | 科学研究費 基盤研究(C) |
| メチオン制限による膵癌新規治療の開発 | 三宅謙太郎 | 消化器外科 | 60万円 | 補委 | 文部科学省科学研究費若手研究 |

| | | | | | |
|---|---|-----------|--------------|----|------------------------------|
| 腫瘍内細菌叢が腫瘍微小環境を介して乳癌幹細胞に及ぼす影響 | 山田顕光 | 消化器・腫瘍外科学 | 10万円 | 補委 | 文部科学省科学研究費若手研究 |
| 大腸癌における硫黄代謝物に関する研究 | 小澤真由美 | 消化器外科 | 0円 | 補委 | 文部科学省科学研究費若手研究 |
| 肝細胞癌手術患者における免疫エフェクター細胞とアディポサイトカインの検討 | 澤田 雄 | 消化器・腫瘍外科学 | 0円 | 補委 | 文部科学省科学研究費若手研究 |
| 血中TFPI2を用いた新規膵癌バイオマーカーの開発 | 清水康博 | 消化器・腫瘍外科学 | 10万円 | 補委 | 文部科学省科学研究費若手研究 |
| 血液中エクソソーム・インテグリンによる大腸癌術後の転移・再発部位の予測診断法 | 中川和也 | 消化器・腫瘍外科学 | 70万円 | 補委 | 文部科学省科学研究費若手研究 |
| トリプルネガティブ乳癌に対する週術期化学療法効果・予後予測バイオマーカーの開発 | 押 正徳 | 消化器外科 | 230万円 | 補委 | 文部科学省科学研究費若手研究 |
| MSI-H/dMMR大腸癌における分子生物学的特徴とPD-1阻害剤の治療効果に関する研究 | 千田 圭吾 | 消化器・腫瘍外科学 | 140万円 | 補委 | 文部科学省科学研究費若手研究 |
| エストロゲン受容体陽性乳癌における乳癌幹細胞と晩期再発に関する探索的研究 | 山田顕光 | 消化器・腫瘍外科学 | 100万円 | 補委 | 横浜総合医学振興財団 |
| 血液中RNAiによる乳癌化学療法副作用予測因子に関する探索的研究 | 押 正徳 | 消化器外科 | 40万円 | 補委 | 横浜学術教育振興財団 |
| 癌免疫の活性化をきたすmiR150の創薬としての有効性の検討 | 押 正徳 | 消化器外科 | 100万円 | 補委 | 公益財団法人SGH財団 |
| 癌免疫を引き寄せ活性化をきたすmiR-150の創薬としての有効性 | 押 正徳 | 消化器外科 | 500万円 | 補委 | 上原記念生命科学財団 |
| 日本人AYA世代乳癌患者の生物学的特徴の解明 | 押 正徳 | 消化器外科 | 250万円 | 補委 | 神澤医学研究振興財団 |
| 遺伝子発現および癌関連伝達経路新規スコアにおける日本人胃癌患者予後・治療効果予測バイオマーカーの開発 | 押 正徳 | 消化器外科 | 100万円 | 補委 | 横浜総合医学振興財団 |
| 手術室に従事する麻酔科医・看護師等が行う業務の効率化に資する研究 | 新井悠介 | 麻酔科学 | 143万円 | 補委 | 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金) |
| 救急救命士が行う業務の質の向上に資する研究 | 坂本哲也(代表), 畑中哲生, 田邊晴山, 水野浩利, 安田康晴, 新井悠介, 竹井豊(分担) | 麻酔科学 | 350.9万円 | 補委 | 厚生労働科学研究費補助金 |
| 【遠隔ICU】患者のライブ映像を含むマルチモーダルな医療データを用いたAI技術により、重症患者の身体観察所見及び重症度評価を自動化するAI見守り機能を搭載した | 高木俊介 | 集中治療部 | 1,848万7,030円 | 補委 | AMED受託研究費 |
| 患者情報の解析による死亡時刻推定モデルの構築 | 高木俊介 | 集中治療部 | 763万9,303円 | 補委 | 共同研究費Ⅲ(2020.08.1~2024.05.31) |
| 新規難培養微生物培養装置による細菌培養の検討 | 高木俊介 | 集中治療部 | 110万円 | 補委 | 共同研究費Ⅲ |
| 肺胞上皮細胞の自然免疫応答を標的とした院内肺炎予防法開発に向けた基盤研究 | 高木俊介(分担) | 集中治療部 | 20万円 | 補委 | 科学研究費 |
| 敗血症におけるインスリン抵抗性の生物学的意義の解析と治療応用に向けた基盤研究 | 高木俊介(分担) | 集中治療部 | 20万円 | 補委 | 科学研究費 |
| 好中球の包括的な免疫代謝解析に立脚した好中球機能の回復による敗血症治療法の開発 | 高木俊介(分担) | 集中治療部 | 10万円 | 補委 | 科学研究費 |
| 敗血症動物モデルを用いた疾患サブフェノタイプ解析に基づく病態解析と新規治療アプローチの検討 | 高木俊介 | 集中治療部 | 9万円 | 補委 | 奨学寄附金 |

| | | | | | |
|--|------------------------------------|-------|-----------|----|--|
| 院内ラピッドレスポンスシステムの構築 | 高木俊介 | 集中治療部 | 4万1,780円 | 補委 | 奨学寄附金 |
| 院内Tele-ICUの構築について | 高木俊介 | 集中治療部 | 8,342万円 | 補委 | 奨学寄附金 |
| 集中治療におけるICT(Information and Communication Technology)の有用性に関する研究 | 高木俊介 | 集中治療部 | 3,555万円 | 補委 | 奨学寄附金 |
| 集中治療管理の研究 | 高木俊介 | 集中治療部 | 1,300万円 | 補委 | 奨学寄附金 |
| ドネペジルのドラッグリポジショニングによるCOVID-19後遺症治療薬の開発－医師主導臨床治験－ | 中村謙介 | 集中治療部 | 9,500万円 | 補委 | AMED受託研究費 |
| QOLを長期アウトカムに設定した周術期データベースの構築と臨床疫学研究 | 長嶺祐介 | 麻酔科学 | 91万円 | 補委 | 科学研究費(若手研究) |
| TITINを軸とした重症病態における筋力低下に関連する筋実質障害の解析 | 中村謙介 | 集中治療部 | 330万 | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 働き方改革時代の救急医療における救急救命士および看護師への実効的タスクシフト | 中村謙介(分担) | 集中治療部 | 60万円 | 補委 | 科学研究費補助金 |
| 深鎮静/筋弛緩剤の使用を必要とするICU患者のComfort測定に関する研究 | 中村謙介(分担) | 集中治療部 | 10万円 | 補委 | 学術研究助成基金助成金 |
| 重度侵襲後の遷延性免疫不全PIICSにおける骨髄由来免疫抑制細胞の関与 | 中村謙介(分担) | 集中治療部 | 5万円 | 補委 | 学術研究助成基金助成金 |
| 救急・集中治療分野におけるビッグデータ解析 | 中村謙介 | 集中治療部 | 36万円 | 補委 | 奨学寄附金 |
| 機械学習・統計解析・薬物動態力学解析を組み合わせた麻酔薬理研究 | 増井健一(代表) | 麻酔科学 | 20万円 | 補委 | 文部科学省 科学研究費補助金 基盤研究(C) |
| 研究促進費 | 中村謙介 | 集中治療部 | 1425万円 | 補委 | キャンパス配分間接経費 |
| 全身麻酔を施行する小児手術患者におけるレミマゾラムの有効性 | 増井健一(代表) | 麻酔科学 | 6,010.3万円 | 補委 | 安全性および薬物動態を検討するための第Ⅲ相医師主導治験、国立研究開発法人日本医療研究開発機構 |
| 硬膜穿刺後頭痛の病態解明と治療－カルシウム拮抗薬関連ペプチドの役割 | 柳泉亮太(代表), 土屋智徳,新倉玲, 宮崎智之(分担) | 麻酔科学 | 100万円 | 補委 | 若手研究 |
| 地域高齢者を対象とした転倒事故と救急受診の予防に対するEMSの有効性に関する研究 | 西井 基継 | 救急科 | 300万円 | 補委 | 2023年度産学連携共同研究 |
| ARDSの喫煙・炎症因子関連分子メカニズムの解明と新規治療法の確立 | 小川 史洋 | 救急科 | 468万円 | 補委 | 科学研究費 基盤研究(C) |
| Single-Cell RNA sequenceによるARDS病態の網羅的探索 | 本澤 大志 | 救急科 | 429万円 | 補委 | 科学研究費 基盤研究(C) |
| 自己免疫応答による心臓血管恒常性破綻メカニズムの解明 | 松村 怜生 | 救急科 | 100万円 | 補委 | わかば研究所助成 |
| 子宮頸がん検診におけるHPV検査導入に向けた実際の運用と課題の検討のための研究 | 宮城悦子 | 産婦人科学 | 50万円 | 補委 | 厚生労働科学研究費補助金(がん対策推進総合研究事業) |
| 子宮頸がん検診における細胞診とHPV検査併用の有用性に関する研究 | 宮城悦子 | 産婦人科学 | 100万円 | 補委 | 日本医療研究開発機構AMED)補助金(革新的がん医療実用化研究事業) |
| COVID-19流行前後における子宮頸がん予防ワクチン接種行動の比較 | 宮城悦子 | 産婦人科学 | 10万円 | 補委 | 日本学術振興会/科学研究費助成事業/基盤研究(C) |
| 生殖・周産期に係る倫理的・法的・社会的課題(ELSI: Ethical, Legal and Social Issues)の検討のための研究 | 倉澤健太郎 | 産婦人科学 | 300万円 | 補委 | 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業(健やか次世代育成総合研究事業) |

| | | | | | |
|---|--------------------|-------------------|----------|----|---|
| ワクチンで予防可能な疾病のサーベイランスとワクチン効果の評価に関する研究 | 倉澤健太郎 | 産婦人科学 | 100万円 | 補委 | 日本医療研究開発機構 (AMED) 補助金(新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業) |
| 学童期及び思春期等における性に関する健康課題に対する診療及び支援体制の構築にむけた研究 | 倉澤健太郎 | 産婦人科学 | 70万円 | 補委 | 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業(健やか次世代育成総合研究事業) |
| 新規疾患の新生児マスキングに求められる実施体制の構築に関する研究 | 倉澤健太郎 | 産婦人科学 | 10万円 | 補委 | 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業(健やか次世代育成総合研究事業) |
| 拡散強調画像を用いた子宮筋腫縮小因子の探索とイメージングバイオマーカーの開発 | 永井康一 | 産婦人科学 | 150万円 | 補委 | 公益財団法人 今井精一記念財団 研究助成金 |
| RNA-seq解析で迫る子宮筋腫の遺伝子変異と縮小予測 | 永井康一 | 産婦人科学 | 100万円 | 補委 | 日本女性医学学会 JMWH Bayer Grant |
| ゲノム解析を軸としたGnRHアナログによる子宮筋腫の縮小効果予測 | 永井康一 | 産婦人科学 | 70万円 | 補委 | 日本学術振興会/科学研究費助成事業/基盤研究(C) |
| Randomized questionnaire survey research and disseminating information the educational video through SNS. | 宮城悦子 | 産婦人科学 | 227万円 | 補委 | Karen Leung Foundation Limited |
| 妊婦健診における子宮頸がん検診ツールとしてのヒトパピローマウイルス(HPV)検査の有用性評価に関する研究 | 宮城悦子 | 産婦人科学 | 2,000万円 | 補委 | 公益財団法人 シオノギ感染症研究振興財団 |
| 感染症の病原体を保有していないことの確認方法の確立及び志賀毒素産生性大腸菌による溶血性尿毒症候群に関するガイドライン整備のための研究 | 伊藤秀一(代) | 小児科学 | 198.5万円 | 補委 | 厚労省科学研究費補助金 新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業(令和5-7年度) |
| 補体に着目した小児血管炎の病態解明と新規治療法としての抗補体療法の可能性の検討 | 伊藤秀一(代) | 小児科学 | 70万円 | 補委 | 学術研究助成基金助成金基盤研究(C) 科学研究費助成事業(令和3-5年度) |
| 新生児黄疸治療最適化のためのスマート光線治療器の開発 | 伊藤秀一(分) | 小児科学 | 709万円 | 補委 | 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構(AMED) 医療分野研究成果展開事業 医療機器等研究成果展開事業(令和2-5年度) |
| 転写因子IRF5に注目した全身性エリテマトーデスの新しい病態解明 | 伊藤秀一(分) | 小児科学 | 50万円 | 補委 | 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構(AMED) 難治性疾患実用化研究事業(令和5-7年度) |
| AMPA受容体密度を指標とした慢性疼痛患者の痛み定量化バイオマーカー開発研究 | 伊藤秀一(分) | 小児科学 | 30万円 | 補委 | 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構(AMED) 慢性の痛み解明研究事業(令和3-5年度) |
| 包括的アプローチに基づく小児COVID-19関連多系統炎症性候群の病態解析と臨床像の解明 | 伊藤秀一(分) | 小児科学 | 100万円 | 補委 | 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構(AMED) 新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業 |
| 自己炎症性疾患とその類縁疾患における、移行期医療を含めた診療体制整備、患者登録推進、全国疫学調査に基づく診療ガイドライン構築に関する研究 | 伊藤秀一(分) | 小児科学 | 60万円 | 補委 | 厚労省科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業 難治性疾患性疾患政策事業(令和5-7年度) |
| 小児腎領域の希少・難治性疾患群の全国診療・研究体制の構築 | 伊藤秀一(分) | 小児科学 | 30万円 | 補委 | 厚労省科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業 難治性疾患性疾患政策事業(令和5-7年度) |
| 子供の研究と環境に関する全国調査(エコチル調査) | 伊藤秀一(分) | 小児科学 | 8,549万円 | 補委 | 環境省(平成29-令和8年度) |
| 小児急性骨髄性白血病の標準的治療法の確立のための臨床研究 | 柴 徳生(分) 辻本信一(分) | 小児科学、 輸血・細胞治療部 | 300万円 | 補委 | 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構(AMED) 革新的がん医療実用化研究事業(令和5-7年度) |
| わが国の小児がんサバイバーの健康・社会生活状況の実態解明に関する大規模調査研究 | 柴 徳生(分) | 小児科学、 輸血・細胞治療部 | 390,252円 | 補委 | JCCG大規模観察研究、革新的がん医療実用化研究事業(AMED) 特定臨床研究(令和4-7年度) |
| 乳幼児肺動脈性高血圧症治療薬のTDMのための薬剤横断的薬効モデルの構築 | 若宮卓也(分) 池川 健(分) | 小児科学 | 130万円 | 補委 | 学術研究助成基金助成金 基盤研究(C) 科学研究費助成事業(令和4-7年度) |

| | | | | | |
|--|---------|--------|---------|----|---|
| PRDM16高発現難治小児AMLに対するエピゲノム解析に基づいた新規治療法の開発 | 辻本信一(代) | 小児科学 | 100万円 | 補委 | 学術研究助成基金助成金 若手研究(令和3-5年度) |
| 小児から成人期発症遺伝性QT延長症候群とその類縁疾患の突然死予防に関する研究 | 渡辺重朗(分) | 小児科学 | 10万円 | 補委 | 令和5年度厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患政策研究事業)(令和5-6年度) |
| 細胞成熟化と管腔誘導により生体内精子形成を再現する精巣オルガノイド培養系の開発 | 古目谷暢 | 泌尿器科学 | 190万円 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 結石軌道シミュレーションを用いた新規結石形成リスク分類法・予防法の実現 | 古目谷暢 | 泌尿器科学 | 10万円 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 希少腎癌の網羅的シーケンス解析に基づく発癌機構と新規治療薬開発 | 軸屋良介 | 泌尿器科 | 50万円 | 補委 | 一般財団法人鈴木泌尿器医学振興財団助成金 |
| AIによる術中構造物の自動認識 | 蓼沼知之 | 泌尿器科 | 50万円 | 補委 | 日本泌尿器内視鏡学会ロボット支援手術研究助成金 |
| 多系統腎癌オルガノイドを用いた腎癌精密医療の開発 | 蓮見壽史 | 泌尿器科学 | 220万円 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 人体幹の高精度力学シミュレーションの構築 | 槇山和秀 | 泌尿器科学 | 120万円 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 人工知能を用いた人工股関節全置換術後の深部静脈血栓塞栓症の発生予測に関する研究 | 稲葉 裕 | 運動器病態学 | 10万円 | 補委 | 2023年度科学研究費補助金 基盤研究(C) |
| 人工知能による人工股関節置換術後インプラント周囲骨吸収の個別予測アルゴリズム構築 | 稲葉 裕 | 運動器病態学 | 60万円 | 補委 | 2023年度科学研究費補助金 基盤研究(C) |
| 人工股関節全置換術における3次元歩行・動作解析を用いた脊椎-骨盤アライメント評価 | 池 裕之 | 運動器病態学 | 91万円 | 補委 | 科学研究費助成金 若手研究 |
| 個体別筋力推定・骨の力学解析の統合解析基盤の確立・検証と骨疾患への応用探索 | 稲葉 裕 | 運動器病態学 | 113.5万円 | 補委 | 2023年度科学研究費補助金 基盤研究(B) |
| 人工膝・股関節置換術および脊椎インストゥルメンテーション手術部位感染の全国調査 | 稲葉 裕 | 運動器病態学 | 10万円 | 補委 | 2023年度科学研究費補助金 基盤研究(C) |
| 端側神経縫合法を用いたハイブリッド型人工神経の実践的応用の検討 | 林 礼人 | 形成外科学 | 91万円 | 補委 | 科学研究費補助金 基盤研究(C) |
| 女性ホルモンが手根管症候群に及ぼす影響と新規治療法の開発 | 市原 理司 | 形成外科学 | 221万円 | 補委 | 科学研究費補助金 基盤研究(C) |
| 静脈奇形に対するモノエタノールアミノレイン酸塩を用いた硬化療法の有効性および安全性の検討 | 野村 正 | 形成外科学 | 41万円 | 補委 | AMED |
| 脈管異常の皮膚病変に対するシロリムスゲルの多施設共同、プラセボ対照、二重盲検、無作為化、並行群間比較試験 | 神人 正寿 | 形成外科学 | 140万円 | 補委 | AMED |
| 嚢出力パルス超音波によるリンパ管再生誘導法の開発 -リンパ浮腫の予防を目指して- | 龜山 晋也 | 形成外科学 | 351万円 | 補委 | 科学研究費補助金 基盤研究(C) |
| 読影支援肺区域認識ソフトウェアの評価等の業務 | 山城恒雄 | 放射線診断学 | 182万円 | 補委 | 富士フィルム株式会社 |
| 画像ビューアと連動した読影レポート作成のワークフローの改善に関する調査 | 山城恒雄 | 放射線診断学 | 66万円 | 補委 | キャノンメディカルシステムズ株式会社 |
| 多分野横断的アプローチによる医療画像解析 | 山城恒雄 | 放射線診断学 | 27万円 | 補委 | ゲルベ・ジャパン株式会社 |
| 冠動脈疾患におけるMRIの冠動脈血流予備能の有用性を検証する前向き多施設共同研究 | 加藤真吾 | 放射線診断学 | 52万円 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 悪性腫瘍に対するRI内用療法の実状と課題:普及に向けた取り組みと新規治療法に関する研究 | 幡多 政治 | 放射線治療学 | 20万円 | 補委 | PDRファーマ 医学・薬学に関する研究活動への支援 |

| | | | | | |
|---|------------------------|---------|-------|----|--|
| リン酸カルシウムペーストを用いた乳がんと前立腺がんの臨床研究 | 荻野 伊知朗 | 放射線治療学 | 52万円 | 補委 | 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C) |
| 360度カメラを用いたバーチャルリアリティ閉所恐怖課題の作成と実用 | 浅見 剛 | 精神医学 | 30万円 | 補委 | 公益財団法人メンタルヘルス岡本記念財団2023年度研究活動助成 |
| 精神科医療機関における行動制限最小化の普及に資する研究 | 杉山 直也 | 精神医学 | 680万円 | 補委 | 令和5年度 厚生労働科学研究費補助金(障害者政策総合研究事業) |
| オンラインによるメンタルヘルスサポートシステムに関する研究開発 | 吉見 明香 | 精神医学 | 156万円 | 補委 | 障害者対策総合研究開発事業(精神障害分野)AI等を駆使した心の健康づくりに資する汎用性システムの社会実装研究 |
| レジストリを活用したベーチェット病の予後不良病型発症予防のための treat-to-target 開発 | 水木 信久 | 眼科学 | 140万円 | 補委 | 日本医療研究開発機構(AMED) |
| ベーチェット病の発症および進展を予測するポリジェニックリスクスコア評価法の構築 | 水木 信久 竹内 正樹 | 眼科学 | 890万円 | 補委 | 日本学術振興会 |
| Small RNAプロファイリングによるサルコイドーシスの血中バイオマーカの探索 | 水木 信久 竹内 正樹 | 眼科学 | 140万円 | 補委 | 日本学術振興会 |
| ゲノムデータに基づいた正常眼圧緑内障の発症パスウェイ解析 | 野村 英一 水木 信久 | 眼科学 | 70万円 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 血清エクソソーム由来マイクロRNA解析によるベーチェット病のバイオマーカの探索 | 竹内 正樹 | 眼科学 | 60万円 | 補委 | 日本学術振興会 |
| ベーチェット病の臨床亜群形成因子に基づく予後予測 | 水木 信久 | 眼科学 | 5万円 | 補委 | 日本学術振興会 |
| ベーチェット病のゲノムワイド亜型解析によるエビデンス創出とレジストリー構築 | 水木 信久 竹内 正樹 | 眼科学 | 15万円 | 補委 | 日本学術振興会 |
| ベーチェット病に関する調査研究 | 竹内 正樹 | 眼科学 | 20万円 | 補委 | 厚労省科学研究費補助金 |
| 原発性眼内悪性リンパ腫に対するブルトンキナーゼ阻害剤による医師主導による第II相二重盲検比較試験 | 竹内 正樹 | 眼科学 | 100万円 | 補委 | 日本医療研究開発機構(AMED) |
| Vogt-小柳-原田病予後予測リスクスコア確立と重症化病態解明 | 水木 信久 | 眼科学 | 40万円 | 補委 | 日本医療研究開発機構(AMED) |
| 唾液腺腫瘍自然発生モデルマウスの確立とそのメカニズムの解明 | 折館伸彦 | 耳鼻いんこう科 | 50万円 | 補委 | 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究C |
| 唾液腺癌オルガノイドを用いた単一細胞解析による唾液腺癌がん細胞同定と新規治療開発 | 佐野大佑 | 耳鼻いんこう科 | 65万円 | 補委 | 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究C |
| シスプラチン難聴予防薬剤の臨床応用に向けた内耳障害予防と抗腫瘍効果の比較検討 | 荒井康裕 | 耳鼻いんこう科 | 50万円 | 補委 | 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究C |
| 頭頸部扁平上皮癌オルガノイドの接触型共培養による転移リンパ節被膜外浸潤の機序解明 | 西村剛志 | 耳鼻いんこう科 | 70万円 | 補委 | 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究C |
| 神経を中心としたがん微小環境ネットワークの解明から拓く新規治療法の開発 | 高橋秀聡 | 耳鼻いんこう科 | 390万円 | 補委 | 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究B |
| 子タンブリッジ手術を用いた痙攣性発声障害に対する国際的新規治療戦略の開発 | 折館伸彦 | 耳鼻いんこう科 | 65万円 | 補委 | 難治性疾患実用化研究事業 |
| Stage I/II舌癌に対する予防的頸部郭清省略の意義を検証するための多施設共同臨床試験 | 佐野大佑 | 耳鼻いんこう科 | 78万円 | 補委 | 革新的がん医療実用化研究事業 |
| 乾癬併存症におけるCaveolin-1を介した病態的関与と発現制御 | 山口 由衣、渡邊裕子、渡邊 友也、奥山 朋子 | 皮膚科学 | 130万円 | 補委 | 日本学術振興会 |

| | | | | | |
|--|----------------------------|-------|-------|--------|------------------|
| 薬剤性間質性肺炎および重症薬疹の新規診断バイオマーカーの適格性確認に関する研究 | 山口 由衣 | 皮膚科学 | 390万円 | 補 委 | AMED |
| 新規自己炎症性疾患VEXAS症候群のdeep phenotypingを通じた病態解明研究 | 山口 由衣 | 皮膚科学 | 30万円 | 補 委 | AMED |
| ステロイド全身療法により効果不十分であったスティーヴンス・ジョンソン症候群(SJS)及び中毒性表皮壊死症(TEN)患者を対象とするエタネルセプト療法 | 山口 由衣 | 皮膚科学 | 260万円 | 補 委 | AMED |
| 重症多形滲出性紅斑に関する調査研究 | 山口 由衣 | 皮膚科学 | 100万円 | 補 委 | 厚生労働省 |
| 強皮症・皮膚線維化疾患の診断基準・重症度分類・診療ガイドライン・疾患レジストリに関する研究 | 山口 由衣 | 皮膚科学 | 18万円 | 補 委 | 厚生労働省 |
| 重症薬疹の病態における抗SS-A抗体の役割 | 渡邊 裕子 | 皮膚科学 | 299万円 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| 中毒性表皮壊死症における単球・マクロファージの機能と病態解析 | 渡邊 友也、山口 由衣 | 皮膚科学 | 156万円 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| NF-κB活性化と直鎖状ポリユビキチン分解系の乾癬病態への関与の検討 | 高村 直子 | 皮膚科学 | 117万円 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| 全身性强皮症におけるIRF8発現異常に根差した線維化病態の解析 | 乙竹 泰 | 皮膚科学 | 78万円 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| 口腔癌の治療抵抗性に関わるM2マクロファージの役割と治療戦略の構築 | 大久保牧子(代), 來生 知(分) | 口腔外科学 | 143万円 | 補 委 | 科学研究費 |
| 超小型磁気センサー内蔵のカテーテルナビゲーションシステムに関する研究 | 大屋貴志(代), 光藤健司(分) | 口腔外科学 | 299万円 | 補 委 | 科学研究費 |
| 院内で発生する飛沫・エアロゾルの可視化と最適な気流制御法 | 大屋貴志(代) | 口腔外科学 | 500万円 | 補 委 | YCU未来共創プロジェクト |
| 再発・転移口腔癌オルガノイドを用いた治療抵抗性克服を目指す治療戦略 | 來生 知(代) | 口腔外科学 | 715万円 | 補 委 | 科学研究費 |
| 口腔粘膜を用いた物理的刺激による組織学的・分子学的変化に関する多機関共同前向き観察研究 | 來生 知(代) | 口腔外科学 | 50万円 | 補 委 | 科学研究費 |
| 温熱療法とIL-1R阻害薬の臨床応用に向けた併用療法の開発 | 小栗千里(代) | 口腔外科学 | 7万円 | 補 委 | 科学研究費 |
| 口腔癌に対する動注化学放射線療法とハイパーサーミアの併用治療に関する実験的研究 | 小泉敏之(代) | 口腔外科学 | 110万円 | 補 委 | 科学研究費 |
| 口腔癌微小環境オルガノイドを用いた再発メカニズムの解析 | 下田愛美(代) | 口腔外科学 | 100万円 | 補 委 | 一般財団法人横浜総合医学振興財団 |
| 舌癌頸部リンパ節転移に関わる微小環境(ニッチ)の解明 | 杉浦 圭(代), 來生 知(分) | 口腔外科学 | 104万円 | 補 委 | 科学研究費 |
| 持続可能な骨芽細胞接着能を賦与した骨結合型チタン性顎骨再建材料の創製 | 北島大朗(分) | 口腔外科学 | 180万円 | 補 委 | 科学研究費 |
| 口腔癌に対する腫瘍選択性磁性体を用いたハイパーサーミアによる低侵襲的治療の開発 | 光藤健司(分), 小泉敏之(分), 中鍛治里奈(分) | 口腔外科学 | 101万円 | 補 委 | 科学研究費 |
| 口腔癌における交流磁場が持つ遊走能抑制効果の分子生物学的研究 | 光藤健司(代), 中鍛治里奈(分) | 口腔外科学 | 117万円 | 補 委 | 科学研究費 |
| 三叉神経節の細胞ネットワーク可塑的变化を基盤とする口腔癌性疼痛の新規分子機序 | 光藤健司(分) | 口腔外科学 | 10万円 | 補 委 | 科学研究費 |
| 免疫チェックポイント阻害薬耐性克服を目指した新規動注免疫療法の開発 | 光永幸代(代), 來生 知(分) | 口腔外科学 | 104万円 | 補 委 | 科学研究費 |

| | | | | | |
|--|----------|--------------------|---------|----|---|
| 顎矯正手術による閉塞性睡眠時無呼吸リスクを予測するための流体音響解析法の開発 | 矢島康治(代) | 口腔外科学 | 260万円 | 補委 | 科学研究費 |
| 口腔癌の早期発見・予後予測マーカーとしてのSIRT6の可能性と悪性度への関与 | 吉井 悠(代) | 口腔外科学 | 468万円 | 補委 | 科学研究費 |
| 神奈川県におけるスモン患者の現状調査 | 中村 健 | リハビリテーション学 | 50万円 | 補委 | 令和5年度厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患政策研究事業) |
| 心疾患維持期患者におけるデジタルデバイスを利用した運動習慣獲得と医学的効果の検証 | 中村 健 | リハビリテーション科学 | 320万円 | 補委 | 文部科学省 科学研究費補助金 基盤研究(C) |
| 腓頭十二指腸切除術の骨格筋量への影響と術前リハビリテーション治療の効果 | 立花 佳枝 | リハビリテーション科 | 360万円 | 補委 | 文部科学省 科学研究費補助金 基盤研究(C) |
| エコチル調査(環境省 子どもの健康と環境に関する全国調査) | 伊藤秀一 | 小児科学 | 8,549万円 | 補委 | 環境省 |
| ロングリードシーケンサーを駆使した神経筋疾患の統合的ゲノム解析と病態解明 | 宮武聡子 | 遺伝学 | 620万円 | 補委 | 日本学術振興会 科学研究費助成事業 学術研究助成基金助成金 |
| ロングリードシーケンサーを駆使したALSの疾患責任遺伝子の同定と病態解明 | 宮武聡子 | 遺伝学 | 230万円 | 補委 | 一般財団法人せりか基金 第6回せりか基金賞(研究助成金) |
| 染色体異常モザイク胚から健常児が生まれるのはなぜか? | 浜之上はるか | 遺伝子診療科 | 5万円 | 補委 | 日本学術振興会 科学研究費助成事業 学術研究助成基金助成金 |
| 医療現場で使える全エクソーム解析自動診断アルゴリズムの開発 | 宮武聡子 | 遺伝学 | 300万円 | 補委 | 株式会社 21 世紀メディカル研究所 ゲノムファンド活用プログラム2023 奨学寄付金 |
| ATMシグナルパスウェイに係る新規遺伝子異常症候群の病態解明 | 内山由理 | 難病ゲノム診断科 | 468万円 | 補委 | 日本学術振興会 |
| TP53活性化調節シグナルパスウェイに係る新規遺伝子異常症候群の病態解明 | 内山由理 | 難病ゲノム診断科 | 481万円 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 極端な表現型に着目した新規自己炎症性疾患の原因遺伝子解明 | 土田奈緒美 | 難病ゲノム診断科 | 416万円 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 新規自己炎症性疾患原因遺伝子の検索 | 土田奈緒美 | 難病ゲノム診断科 | 100万円 | 補委 | 公益財団法人日本リウマチ財団 |
| 収縮機能の保持された心不全におけるRANKL / RANK / OPGシステムの役割 | 上村大輔(代表) | 臨床検査部/循環器内科学 | 104万円 | 補委 | 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) |
| ベーチェット病のゲノムワイド亜型解析によるエビデンス創出とレジストリー構築 | 吉見竜介(分担) | 臨床検査部/血液・免疫・感染症内科学 | 25万円 | 補委 | 日本学術振興会, 科学研究費補助金基盤研究(B) |
| 組織におけるナトリウム代謝異常をターゲットとした全身性強皮症の病態解明 | 吉見竜介(分担) | 臨床検査部/血液・免疫・感染症内科学 | 30万円 | 補委 | 日本学術振興会, 科学研究費補助金基盤研究(C) |
| オートファジー・リソソーム系を治療標的とする膠原病の新規治療法の探索 | 吉見竜介(代表) | 臨床検査部/血液・免疫・感染症内科学 | 416万円 | 補委 | 日本学術振興会, 科学研究費補助金基盤研究(C) |
| 保険ビッグデータを用いたエビデンスプラクティスギャップの測定と診療の質の向上 | 吉見竜介(分担) | 臨床検査部/血液・免疫・感染症内科学 | 45万円 | 補委 | 日本学術振興会, 科学研究費補助金基盤研究(B) |
| 機械学習により心電図データから換気障害を予測するアルゴリズムの構築 | 堀田 信之 | 化学療法センター | 130万円 | 補委 | 科学研究費 基盤研究(C) |
| 希少疾病・難病等の分野における診療ガイドライン等の評価に資する研究 | 堀田 信之 | 化学療法センター | 270万円 | 補委 | 厚生労働科学研究費補助金 健康安全確保総合研究分野 地域医療基盤開発推進研究 |
| 分子標的アプローチによるIDH1変異グリオーマ関連てんかんの制御 | 池谷直樹(代) | 脳神経外科学 | 364万円 | 補委 | 科学研究費助成事業 若手研究(2022-2024) |
| 脳内異常放電が脳深部ネットワークに与える影響の解析 | 池谷直樹(代) | 脳神経外科学 | 450万円 | 補委 | 公益財団法人 上原記念生命科学財団: 海外留学助成金 リサーチフェローシップ(2021-2022) |

| | | | | | |
|--|----------|--------|---------|----|--|
| The pathogenic effects of temporal lobe epilepsy on deep brain networks. | 池谷直樹(代) | 脳神経外科学 | 248万円 | 補委 | 日米科学技術協力事業「脳研究」分野(日米脳):共同研究者派遣(Neurobiology of Disease)(2021-2023) |
| てんかん焦点切除術の術後成績を最適化する切除範囲を立案するAIシステムの開発 | 園田真樹(代) | 脳神経外科学 | 500万円 | 補委 | 2022年度若手研究, 科学研究費助成事業 若手研究(2022-2024) |
| フレキシブル薄膜電極およびワイヤレス給電を活用した難治てんかん診断治療一体型デバイスに関する研究開発 | 園田真樹(分) | 脳神経外科学 | 500万円 | 補委 | 医療機器等における先進的研究開発・開発体制強化化事業(AMED)(2022-2025) |
| 新たな神経炎症経路に着目したくも膜下出血後認知機能障害の病態解明と治療応用 | 高瀬 創(代) | 脳神経外科学 | 442万円 | 補委 | 科学研究費補助金基盤研究(C)(2020-2023) |
| 慢性硬膜下血腫の潜在性病態:疾患横断的な分子概念の証明と革新的低侵襲治療開発 | 高瀬 創(代) | 脳神経外科学 | 468万円 | 補委 | 科学研究費補助金基盤研究(C)(2023-2026) |
| 慢性硬膜下血腫の微小病態解析:慢性炎症と新生血管に着目した新規治療標的の創出 | 高瀬 創(分) | 脳神経外科学 | 416万円 | 補委 | 科学研究費補助金基盤研究(C)(2022-2025) |
| 脳震盪と神経炎症:慢性障害性分子機構と治療応用 | 高瀬 創(代) | 脳神経外科学 | 80万円 | 補委 | 一般社団法人日本損害保険協会 交通事故医療研究助成(2021-2023) |
| 産学連携研究(受託) | 高瀬 創 | 脳神経外科学 | 704万円 | 補委 | 産学連携研究(受託) |
| てんかんネットワークにおける流動性に着目した発作時早期伝播ダイナミクスの定量化 | 高山裕太郎(代) | 脳神経外科学 | 455万円 | 補委 | 科学研究費助成事業 若手研究(2023-2025) |
| 非線形ダイナミクス解析を用いたヒトてんかんネットワークの時系列変容の解明~定位的頭蓋内脳波記録を用いた検討~ | 高山裕太郎(代) | 脳神経外科学 | 50万円 | 補委 | 公益財団法人横浜学術教育振興財団 研究助成(2022-2023) |
| 深部てんかんネットワーク内の流動性に着目した発作時早期伝播ダイナミクスの定量化 | 高山裕太郎(代) | 脳神経外科学 | 160万円 | 補委 | 公益財団法人てんかん治療研究振興財団 研究助成.(2022-2025) |
| チラブルチニブの中枢神経原発悪性リンパ腫(PCNSL)に対する効果に関する基礎研究 | 立石健祐(代) | 脳神経外科学 | 1,000万円 | 補委 | 小野薬品工業株式会社共同研究費(2023-2024) |
| 中枢神経系原発悪性リンパ腫の全体像の解明と革新的治療法の開発 | 立石健祐(代) | 脳神経外科学 | 100万円 | 補委 | 公益財団法人がん研究振興財団 |
| 中枢神経系原発悪性リンパ腫(PCNSL)PDXモデルにおける抗CD147抗体の薬効評価 | 立石健祐(代) | 脳神経外科学 | 1,000万円 | 補委 | 第一三共株式会社共同研究費(2022-2024) |
| 中枢神経系原発悪性リンパ腫の全体像の解明と革新的治療法の開発 | 立石健祐(代) | 脳神経外科学 | 50万円 | 補委 | 日本脳腫瘍学会2023年度研究助成金(2023-2024) |
| 神経膠腫における血中マーカーおよび腫瘍環境についての研究 | 立石健祐(代) | 脳神経外科学 | 850万円 | 補委 | 中外製薬株式会社共同研究費(2022-2025) |
| 神経膠芽腫の増殖ストレス緩和システムを標的とする新規がん治療戦略の確立 | 立石健祐(分) | 脳神経外科学 | 480万円 | 補委 | 次世代がん医療加速化研究事業(AMED)(2022-2024) |
| 膠芽腫の標準治療後病勢を診断する血液バイオマーカーの実用化 | 立石健祐(分) | 脳神経外科学 | 90万円 | 補委 | 革新的がん医療実用化研究事業(AMED),(2021-2023) |
| 小細胞肺癌転移性脳腫瘍における患者由来細胞株樹立による特異的局所浸潤機序の解明 | 立石健祐(分) | 脳神経外科学 | 310万円 | 補委 | 科学研究費補助金基盤研究(C)(2021-2023) |
| 悪性膠芽腫の非コード領域由来ネオ抗原探索とその応用 | 立石健祐(分) | 脳神経外科学 | 30万円 | 補委 | 科学研究費補助金基盤研究(C)(2023-2026) |
| 再発・難治性悪性神経膠腫に対する治療用放射性薬剤 ⁶⁴ Cu-ATSMの有効性を検証する研究開発 | 立石健祐(分) | 脳神経外科学 | 180万円 | 補委 | 臨床研究・治験推進研究事業(AMED)(2023-2026) |

| | | | | | |
|--|---------|--------|------|--------|---|
| 悪性リンパ腫における遺伝子異常・免疫微小環境の全体像および臨床的意義の統合的説明 | 立石健祐(分) | 脳神経外科学 | 45万円 | 補 委 | 革新的がん医療実用化研究事業 (AMED) (AMED)(2023-2025) |
|--|---------|--------|------|--------|---|

計 270

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の 特定機能病院における所属 | 題名 | 雑誌名・ 出版年月等 | 論文種別 |
|----|--|-----------------------|---|--|------------------|
| 1 | Aoki A, Hara Y, Fujii H, Murohashi K, et al. | 呼吸器病学 | The clinical impact of comorbidities among patients with idiopathic pulmonary fibrosis undergoing anti-fibrotic treatment: A multicenter retrospective observational study. | PloS one, 2023-09, Vol.18 (9) | Original Article |
| 2 | Kobayashi N, Miura K, Kaneko A, et al. | 呼吸器病学 | Tailoring Therapeutic Strategies in Non-Small-Cell Lung Cancer: The Role of Genetic Mutations and Programmed Death Ligand-1 Expression in Survival Outcomes. | Cancers, 2023-10, Vol.15 (21), p5248 | Original Article |
| 3 | Nagasawa R, Niwa T, Hagiwara E, et al. | 呼吸器病学 | Safety and Efficacy of Combination Therapy of Remdesivir, Baricitinib, and High-dose Steroids in Patients Hospitalized with Moderate to Severe COVID-19. | Internal Medicine, 2023/11/01, Vol.62(21), pp.3125-3130 | Original Article |
| 4 | Kubo S, Kobayashi N, Matsumoto H, et al. | 呼吸器病学 | Atezolizumab addition to platinum doublet: evaluating survival outcomes for patients with extensive disease small cell lung cancer. | Journal of cancer research and clinical oncology, 2023-12, Vol.149 (19), p.17419-17426 | Original Article |
| 5 | Watanabe K, Koji O, Matsumura M, et al. | 呼吸器病学 | Post-COVID-19 Granulomatous Inflammation in the Lung, Distinct From Sarcoidosis: A Report of Two Cases. | Curēus (Palo Alto, CA), 2023-12, Vol.15 (12), p.e50821 | Original Article |
| 6 | Kobayashi N, Tanaka K, Muraoka S, et al. | 呼吸器病学 | Influence of age, IGRA results, and inflammatory markers on mortality in hospitalized tuberculosis patients. | J Infect Chemother. 2024 Jan; 30(1): 48-52 | Original Article |
| 7 | Hirata M, Hara Y, Fujii H, et al. | 呼吸器病学 | ILD-GAP combined with the monocyte ratio could be a better prognostic prediction model than ILD-GAP in patients with interstitial lung diseases. | BMC Pulm Med. 2024 Jan 5; 24(1):16 | Original Article |
| 8 | Izawa A, Hara Y, Horita N, et al. | 呼吸器病学 | Improved diagnostic accuracy with three lung tumor markers compared to six-marker panel. | Transl Lung Cancer Res. 2024 Mar 29; 13(3): 503-511 | Original Article |
| 9 | Kamimura D, Hall ME. | 臨床検査部／循環器内科学 | Can any electrocardiographic indicators reflect myocardial Fibrosis? | Am J Cardiol, 206: 372-374, 2023 Nov | Original Article |
| 10 | Kamimura D, Tamura K. | 臨床検査部／循環器内科学 | Resting heart rate as a possible biomarker and target to prevent future cardiovascular disease in type 2 diabetes patients (HTR-2023-0066.R2). | Hypertens Res, 46(5): 1160-1162, 2023 May | Original Article |
| 11 | Minegishi S, Ishigami T, Hibi K | 循環器内科学 | Cardiotoxicity Associated with Immune Checkpoint Inhibitors. | Cancers (Basel). 2023 Nov 20;15(22):5487 | Review |
| 12 | Minegishi S | 循環器内科学 | Future Prospects of Onco-Hypertension. | Hypertension. 2023 Jul;80(7):e123-e124 | Review |

| | | | | | |
|----|--|----------|--|--|------------------|
| 13 | Minegishi S | 循環器内科学 | Impact of Hypertension in Cancer Patients Treated With Anti-Vascular Endothelial Growth Factor Therapy. | Circ J. 2024 Jan 25;88(2):226–227 | Review |
| 14 | Minegishi S | 循環器内科学 | Use of calcium channel blockers does not increase breast cancer risk: findings from a nationwide population-based cohort study in Taiwan. | Hypertens Res. 2023 Oct;46(10):2312–2314 | Original Article |
| 15 | Taguchi Y, Hosoda J, Horigome A | 循環器内科学 | A visualized left-sided accessory pathway away from the mitral annulus using open window mapping with the early meets late algorithm. | J Arrhythm. 2023 Sep 4;39(5):822–825 | Case report |
| 16 | Minegishi S | 循環器内科学 | Impact of Hypertension in Cancer Patients Treated With Anti-Vascular Endothelial Growth Factor Therapy. | Circ J. 2024 Jan 25;88(2):226–227 | Original Article |
| 17 | Azushima K, Kovalik JP, Yamaji T, et al. | 腎臓・高血圧内科 | Abnormal lactate metabolism is linked to albuminuria and kidney injury in diabetic nephropathy. | Kidney Int. 104(6):1135–1149, 2023 | Original Article |
| 18 | Hirota K, Yamashita A, Abe E et al. | 腎臓・高血圧内科 | miR-125a-5p/miR-125b-5p contributes to pathological activation of angiotensin II-AT1R in mouse distal convoluted tubule cells by the suppression of Atrap. | J Biol Chem. 299(12):105478, 2023 | Original Article |
| 19 | Kanai D, Wakui H, Hanaoka M, et al. | 腎臓・高血圧内科 | Blunted humoral immune response to the fourth dose of BNT162b2 COVID-19 vaccine in patients undergoing hemodialysis. | Clin Exp Nephrol. 27(7):639–647, 2023 | Original Article |
| 20 | Morita R, Azushima K, Sunohara S, et al. | 腎臓・高血圧内科 | High plasma aldosterone concentration is associated with worse 24-h ambulatory blood pressure profile in patients with primary aldosteronism. | Hypertens Res. 46(8):1995–2004, 2023 | Original Article |
| 21 | Tanaka S, Wakui H, Azushima K, et al. | 腎臓・高血圧内科 | Effects of a High-Protein Diet on Kidney Injury under Conditions of Non-CKD or CKD in Mice. | Int J Mol Sci. 24(9):7778, 2023 Apr | Original Article |
| 22 | Tsukamoto S, Suzuki T, Wakui H et al. | 腎臓・高血圧内科 | Angiotensin II type 1 receptor-associated protein in immune cells: a possible key factor in the pathogenesis of visceral obesity. | Metabolism. 149:155706, 2023 | Original Article |
| 23 | Tsukamoto S, Wakui H, Uehara T, et al. | 腎臓・高血圧内科 | Combination of sacubitril/valsartan and blockade of the PI3K pathway enhanced kidney protection in a mouse model of cardiorenal syndrome. | Eur Heart J Open. 3(6):oead098, 2023 | Original Article |
| 24 | Taguchi S, Azushima K, Yamaji T, et al. | 腎臓・高血圧内科 | Angiotensin II type 1 receptor-associated protein deletion combined with angiotensin II stimulation accelerates the development of diabetic kidney disease in mice on a C57BL/6 strain. | Hypertens Res 2024 Jan;47(1):55–66 | Original Article |
| 25 | Sotozawa M, Kinguchi S, Wakui H, et al. | 腎臓・高血圧内科 | Enhancement of angiotensin II type 1 receptor-associated protein in the paraventricular nucleus suppresses angiotensin II-dependent hypertension. | Hypertens Res 2024 Jan;47(1):67–77 | Original Article |
| 26 | Tsukamoto S, Kobayashi K, Toyoda M, et al. | 腎臓・高血圧内科 | Pretreatment body mass index affects achievement of target blood pressure with sodium-glucose cotransporter 2 inhibitors in patients with type 2 diabetes mellitus and chronic kidney disease. | Hypertens Res 2024 Mar;47(3):628–638 | Original Article |

| | | | | | |
|----|---|----------|--|--|------------------|
| 27 | Sue S, Suzuki Y, Kaneko H, et al. | 消化器内科学 | Prospective Study of Vonoprazan-Based First-Line Triple Therapy with Amoxicillin and Metronidazole for Clarithromycin-Resistant <i>Helicobacter pylori</i> . | J Clin Med, 12(17):5443, 2023 | Original Article |
| 28 | Iizuka C, Sue S, Onodera S, et al. | 消化器内科学 | Risk assessment of metachronous gastric cancer after endoscopic submucosal dissection based on endoscopic intestinal metaplasia. | JGH Open, 7(11):783-789, 2023 | Original Article |
| 29 | Kurita Y, Suzuki K, Yagi S, et al. | 肝胆膵消化器病学 | Pre-emptive hydration with lactated Ringer's solution could reduce the incidence of post-endoscopic retrograde cholangiopancreatography pancreatitis in at-risk patients: Propensity score-matched analysis. | Journal of hepatobiliary-pancreatic sciences 2023 Jun, 30(6):777-783 | Original Article |
| 30 | Higurashi T, Tamura S, Misawa N, et al. | 肝胆膵消化器病学 | Trends in gastrointestinal infections during the COVID-19 pan-demic and concerns of post-pandemic resurgence in Japan. | Diseases(Basel,Switzerland), 2023 Dec 21,12(1):4 | Original Article |
| 31 | Nogami A, Wada N, Muraoka E, et al. | 肝胆膵消化器病学 | Mortality associated with the development of acute liver failure after a single dose of nivolumab. | Clinical journal of gastroenterology,2023 Jun, 16(3):464-469 | Case report |
| 32 | Iwaki M,Kessoku T,Tanaka K, et al. | 肝胆膵消化器病学 | Combined, elobixibat and colestyramine reduced cholesterol toxicity in a mouse model of metabolic dysfunction-associated steatotic liver disease. | Hepatology communications, 2023 Oct 31; 7(11): e0285 (オンライン) | Original Article |
| 33 | Kobayashi T, Iwaki M, Nogami A, et al. | 肝胆膵消化器病学 | Prediction of outcomes in patients with metabolic dysfunction-associated steatotic liver disease based on initial measurements and subsequent changes in magnetic resonance elastography. | Journal of gastroenterology, 2024 Jan;59(1):56-65 | Original Article |
| 34 | Kurita Y, Kubota K, Fujita Y, et al. | 肝胆膵消化器病学 | IgG4-related pancreatobiliary diseases could be associated with onset of pancreatobiliary cancer: A multicenter cohort study. | Journal of hepatobiliary-pancreatic sciences 2024 Mar, 31(3):173-182 | Original Article |
| 35 | Nogami A, Nakajima A, Yoneda M | 肝胆膵消化器病学 | Editorial: optimal combination of non-invasive tests to determine significant fibrosis in non-alcoholic fatty liver disease. | Alimentary Pharmacology & Therapeutics, 2023 Jun, 57(12): 1461-1462 | Review |
| 36 | Yoneda M, Nakajima A | 肝胆膵消化器病学 | The role of MRI technology in liver evaluation for NAFLD patients: Advancements and opportunities. | Hepatology, 2023 Oct 1;78(4):1020-1022 | Review |
| 37 | Yoneda M, Kobayashi T, Iwaki M, et al. | 肝胆膵消化器病学 | Nonalcoholic Fatty Liver Disease as a Systemic Disease and the Need for Multidisciplinary Care. | Gut and liver, 2023 Nov 15;17(6):843-852 | Review |
| 38 | Yoneda M, Kobayashi T, Wada N,et al. | 肝胆膵消化器病学 | Tropifexor, a selective non-acid farnesoid X receptor agonist, improved nonalcoholic steatohepatitis in a phase 2 trial, but several issues remain to be resolved. | Hepatobiliary surgery and nutrition,2023 Oct 1,12(5):759-762 | Review |
| 39 | Yoneda M, Nakajima A | 肝胆膵消化器病学 | Interactions between Multiple Organs and Nutritional Metabolism in the Development and Progression of Metabolic Dysfunction-Associated Steatotic Liver Disease. | Nutrients, 2023 Nov 24,15(23):4910 | Review |

| | | | | | |
|----|---|-------------|--|---|------------------|
| 40 | Arai M, Tsuno T, Konishi H, Nishiyama K, et al. | 内分泌・糖尿病内科学 | A Disproportionality Analysis of the Adverse Effect Profiles of Methimazole and Propylthiouracil in Patients with Hyperthyroidism Using the Japanese Adverse Drug Event Report Database. | Thyroid. 33(7): 804–816, 2023 | Original Article |
| 41 | Terauchi Y, Inoue H, Yamashita T, et al. | 内分泌・糖尿病内科学 | Impact of glycosylated hemoglobin on 2-year clinical outcomes in elderly patients with atrial fibrillation: sub-analysis of ANAFIE Registry, a large observational study. | Cardiovasc Diabetol. 22(1):175, 2023 | Original Article |
| 42 | Ikeda T, Takahashi K, Higashi M, et al. | 神経内科学・脳卒中医学 | Lateral olfactory tract usher substance (LOTUS), an endogenous Nogo receptor antagonist, ameliorates disease progression in amyotrophic lateral sclerosis model mice. | Cell Death Discov. 14;9(1):454, 2023 Dec | Original Article |
| 43 | Kishida H, Ueda N, Tanaka F | 神経内科学・脳卒中医学 | The advances in the early and accurate diagnosis of Creutzfeldt–Jakob disease and other prion diseases: where are we today? | Expert Rev Neurother. 23(9):803–817, 2023 Jul–Dec | Review |
| 44 | Fukuda H, Mizuguchi T, Doi H | 神経内科学・脳卒中医学 | Long-read sequencing revealing intragenic deletions in exome-negative spastic paraplegias. | J Hum Genet, 68(10):689–697, 2023 Oct | Original Article |
| 45 | Koizumi R, Kato H, Akagi A, et al | 神経内科学・脳卒中医学 | An autopsy case of copper deficiency myelopathy and selenium deficiency-associated central nervous system disorder after total parenteral nutrition. | J Neurol Sci. 448:120636, 2023 May | Case report |
| 46 | Higashiyama Y, Kuroki M, Kudo Y, et al | 神経内科学・脳卒中医学 | Reduced likelihood of the Poggendorff illusion in cerebellar strokes: A clinical and neuroimaging study. | Brain Commun. 5(2):fcad053, 2023 Apr | Original Article |
| 47 | Koizumi R, Akagi A, Riku Y, et al. | 神経内科学・脳卒中医学 | Clinicopathological features of progressive supranuclear palsy with asymmetrical atrophy of the superior cerebellar peduncle. | Neuropathology. 43(3):233–243, 2023 Jun | Original Article |
| 48 | Wada T, Doi H, Okubo M, et al. | 神経内科学・脳卒中医学 | RNA foci in two bi-allelic RFC1 expansion carriers. | Ann Neurol 95(3):607–613, 2024 Mar | Original Article |
| 49 | Kitazawa Y, Sonoda M, Sakakura K, et al. | 神経内科学・脳卒中医学 | Intra- and inter-hemispheric network dynamics supporting object recognition and speech production. | NeuroImage, 270: 119954, 2023 Apr | Original Article |
| 50 | Katsuta E, Opyrchal M. | 臨床腫瘍科 | Editorial: Novel signaling pathways and therapy in breast cancer. | Front Oncol, 13: 1215023, 2023 | Review |
| 51 | Sato M, Han Q, Kubota Y, Baranov A, et al. | 臨床腫瘍科 | Recombinant Methioninase Decreased the Effective Dose of Irinotecan by 15-fold Against Colon Cancer Cells: A Strategy for Effective Low-toxicity Treatment of Colon Cancer. | Anticancer Res. 2024 Jan; 44(1): 31–35 | Original Article |
| 52 | Rino Y, Aoyama T, Maezawa Y, et al. | 外科治療学 | Does Intestinal Peristalsis Cause Suture Failure After Instrument Suture? | In Vivo, 37(4):1886–1889, 2023 | Original Article |
| 53 | Yukawa N, Yamada T, Aoyama T, et al. | 外科治療学 | Tumor DNA in Peritoneal Lavage as a Novel Biomarker for Predicting Peritoneal Recurrence in Patients With Gastric Cancer. | Anticancer Research,43(5):2069–2076, 2023 | Original Article |

| | | | | | |
|----|--|-------|---|---|------------------|
| 54 | Aoyama T, Kazama K, Maezawa Y, et al. | 外科治療学 | Usefulness of Nutrition and Inflammation Assessment Tools in Esophageal Cancer Treatment. | In Vivo, 37(1):22–35, 2023 | Original Article |
| 55 | Aoyama T, Hara K, Maezawa Y, et al. | 外科治療学 | Clinical Course of Vitamin B12 Deficiency and Associated Risk Factors in Patients After Total Gastrectomy for Gastric Cancer. | Anticancer Research, 43(2): 689–694, 2023 | Original Article |
| 56 | Aoyama T, Nakazono M, Segami K, et al. | 外科治療学 | Clinical Significance of the Prealbumin Level in Gastric Cancer Patients Who Receive Curative Treatment. | Journal of Gastrointestinal Cancer, 54(1):27–34, 2023 | Original Article |
| 57 | Aoyama T, Hashimoto I, Oshima T. | 外科治療学 | The Clinical Impact of the Tumor Stroma Ratio in Gastrointestinal Cancer Treatment. | Anticancer Research, 43(5):1877–1883, 2023 | Review |
| 58 | Aoyama T, Oba K, Honda M, et al. | 外科治療学 | The clinical impacts of postoperative complications after colon cancer surgery for the clinical course of adjuvant treatment and survival. | International Journal of Clinical Oncology, 28(6):777–784, 2023 | Original Article |
| 59 | Aoyama T, Maezawa Y, Hashimoto I, et al. | 外科治療学 | Clinical Impact of Nutrition and Inflammation Assessment Tools in Pancreatic Cancer Treatment. | Anticancer Research, 43(9):3849–3860, 2023 | Review |
| 60 | Aoyama T, Hashimoto I, Maezawa Y, et al. | 外科治療学 | The C-reactive Protein to Prealbumin Ratio Is an Independent Prognostic Factor for Patients With Gastric Cancer Who Receive Curative Surgery. | Anticancer Research, 43(11):5181–5187, 2023 | Original Article |
| 61 | Aoyama T, Maezawa Y, Hashimoto I, et al. | 外科治療学 | The Clinical Influence of Geriatric Nutritional Risk Index in Patients With Gastric Cancer Who Receive Curative Treatment. | Anticancer Research, 43(12):5605–5612, 2023 | Original Article |
| 62 | Aoyama T, Hashimoto I, Maezawa Y, et al. | 外科治療学 | The Clinical Impact of the Pretreatment Platelet-to-Lymphocyte Ratio in Gastric Cancer Patients Who Receive Curative Treatment. | In Vivo, 37(6):2696–2703, 2023 | Original Article |
| 63 | Aoyama T, Nagasawa S, Nakazono M, et al. | 外科治療学 | The clinical impacts of lymphocyte-to-C-reactive protein ratio for esophageal cancer patients who receive curative treatment. | J Cancer Res Ther. 19(3):556–561, 2023 | Original Article |
| 64 | Aoyama T, Kato A, Hashimoto I, et al. | 外科治療学 | Pretreatment Fibrinogen Level Is a Prognostic Factor for Esophageal Cancer Patients Who Receive Curative Treatment. | Anticancer Res. 2024 Jan; 44(1): 249–255 | Original Article |
| 65 | Aoyama T, Kato A, Maezawa Y, et al. | 外科治療学 | Lymphocyte to Monocyte Ratio Is an Independent Prognostic Factor in Patients With Esophageal Cancer Who Receive Curative Treatment. | Anticancer Res. 2024 Jan; 44(1): 339–346 | Original Article |
| 66 | Aoyama T, Hashimoto I, Maezawa Y, et al. | 外科治療学 | CRP–albumin–lymphocyte (CALLY) Index Is an Independent Prognostic Factor for the Esophageal Cancer Patients Who Received Curative Treatment. | Anticancer Res. 2024 Feb; 44(2): 815–822 | Original Article |
| 67 | Hashimoto I, Kano K, Onuma S, et al. | 外科治療学 | Clinical Effect of the C-Reactive Protein to Serum Albumin Ratio in Patients with Metastatic Gastric or Gastroesophageal Junction Cancer Treated with Trifluridine/Tipiracil. | Journal of Personalized Medicine, 13(6):923, 2023 | Original Article |

| | | | | | |
|----|---|-----------|--|--|------------------|
| 68 | Hashimoto I, Kano K, Onuma S, et al. | 外科治療学 | Clinical Significance of Neutrophil-to-Lymphocyte Ratio/Serum Albumin Ratio in Patients With Metastatic Gastric or Gastroesophageal Junction Cancer Administered Trifluridine/Tipiracil. | Anticancer Research, 43(4):1689-1697, 2023 | Original Article |
| 69 | Ishikawa Y, Tsuura Y, Okudera K, et al. | 外科治療学 | Favourable surgical outcomes for either second primary lung cancer or intrapulmonary metastasis after resection of non-small-cell lung cancer. | Interdiscip Cardiovasc Thorac Surg. 2024 Feb 2; 38(2): ivae009 | Original Article |
| 70 | Endo I | 消化器・腫瘍外科学 | Recent progress in the treatment for unresectable biliary tract cancer. | Ann Gastroenterol Surg, 7(4): 540-542, 2023 | Others |
| 71 | Hagerty BL, Oshi M, Endo I, et al. | 消化器・腫瘍外科学 | High Mesothelin expression in pancreatic adenocarcinoma is associated with aggressive tumor features but not prognosis. | Am J Cancer Res, 13(9): 4235-4245, 2023 | Original Article |
| 72 | Endo I, Takahashi A, Tachimori H, et al. | 消化器・腫瘍外科学 | Requirements for hospitals in Japan to have low operative mortality and failure-to-rescue rates. | Ann Gastroenterol Surg, 8(2): 342-355, 2023 | Original Article |
| 73 | Nakagawa K, Ishibe A, Ohya H, et al. | 消化器・腫瘍外科学 | Effects of neoadjuvant chemotherapy for patients with obstructive colon cancer A multicenter propensity score-matched analysis (YCOG2101). | Ann Gastroenterol Surg, 8(2): 262-272, 2023 | Original Article |
| 74 | Yabushita Y, Matsuyama R, Miyake K, et al. | 消化器・腫瘍外科学 | Outcomes of neoadjuvant gemcitabine plus S-1 and radiation therapy for borderline resectable pancreatic cancer. | J Hepatobiliary Pancreat Sci, 30(4): 493-502, 2023 Apr. | Original Article |
| 75 | Miyake K, Han Q, Murakami T, et al. | 消化器外科 | Colon-cancer liver metastasis is effectively targeted by recombinant methioninase (rMETase) in an orthotopic mouse model. | Tissue and Cell, 83: 102125, 2023 | Original Article |
| 76 | Fukuoka H, Turlousse DM, Ohashi A, et al. | 消化器・腫瘍外科学 | Elucidating colorectal cancer-associated bacteria through profiling of minimally perturbed tissue-associated microbiota. | Front Cell Infect Microbiol, 13: 1216024, 2023 | Original Article |
| 77 | Fukuoka H, Turlousse DM, Hamajima M, et al. | 消化器・腫瘍外科学 | Complete genome sequence of <i>Blautia luti</i> JCM 17040T. | Microbiol Resour Announc, 12(9):e0051323, 2023 | Original Article |
| 78 | Fukuoka H, Turlousse DM, Hamajima M, et al. | 消化器・腫瘍外科学 | Complete genome sequence of <i>Butyricimonas faecihominis</i> JCM 18676T. | Microbiol Resour Announc, 12(10): e0051423, 2023 | Original Article |
| 79 | Oshi M, Ziazadeh D, Wu R, et al. | 消化器外科 | GALNT1 Expression Is Associated with Angiogenesis and Is a Prognostic Biomarker for Breast Cancer in Adolescents and Young Adults (AYA). | Cancers (Basel), 15(13): 3489, 2023 | Original Article |
| 80 | Oshi M, Yamada A, Kimura A, et al. | 消化器外科 | A Case of BRCA2-Pathogenic Variant Breast Cancer With Metachronous Endometrial Cancer and Pancreatic Cancer. | World J Oncol, 14(4): 309-315, 2023 | Case report |
| 81 | Oshi M, Roy AM, Yan L, et al. | 消化器外科 | Accelerated glycolysis in tumor microenvironment is associated with worse survival in triple-negative but not consistently with ER+/HER2- breast cancer. | Am J Cancer Res, 13(7): 3041-3054, 2023 | Original Article |

| | | | | | |
|----|--|-------|--|--|------------------|
| 82 | Chida K, Oshi M, Roy AM, et al. | 消化器外科 | E2F target score is associated with cell proliferation and survival of patients with hepatocellular carcinoma. | Surgery, 174(2): 307-314, 2023 | Original Article |
| 83 | Chida K, Oshi M, Roy AM, et al. | 消化器外科 | Pancreatic ductal adenocarcinoma with a high expression of alcohol dehydrogenase 1B is associated with less aggressive features and a favorable prognosis. | Am J Cancer Res, 13(8): 3638-3649, 2023 Aug | Others |
| 84 | Shichiri K, Oshi M, Ziazadeh D, et al. | 消化器外科 | High miR-200c expression is associated with suppressed epithelial-mesenchymal transition, TGF- β signaling and better survival despite enhanced cell proliferation in gastric cancer patients. | Am J Cancer Res, 13(7): 3027-3040, 2023 | Original Article |
| 85 | Wu R, Oshi M, Asaoka M, et al. | 消化器外科 | Intratumoral Tumor Infiltrating Lymphocytes (TILs) are Associated With Cell Proliferation and Better Survival But Not Always With Chemotherapy Response in Breast Cancer. | Ann Surg, 278(4): 587-597, 2023 | Original Article |
| 86 | Toyoda J, Sahara K, Takahashi T, et al. | 消化器外科 | Neoadjuvant Therapy for Extrahepatic Biliary Tract Cancer: A Propensity Score-Matched Survival Analysis. | J Clin Med, 12(7): 2654, 2023 | Original Article |
| 87 | Sakai J, Watanabe J, Ohya H, et al. | 消化器外科 | Redo laparoscopic colorectal resection: a retrospective analysis with propensity score matching. | Int J Colorectal Dis, 38(1): 145, 2023 | Others |
| 88 | Sasamoto M, Yamada A, Oshi M, et al. | 消化器外科 | Breast carcinoma with spontaneous regression after needle biopsy: a case report and literature review. | Gland Surg, 12(6): 853-859, 2023 | Case report |
| 89 | Chida K, Oshi M, An N, et al. | 消化器外科 | Gastric cancer with enhanced myogenesis is associated with less cell proliferation, enriched epithelial-to-mesenchymal transition and angiogenesis, and poor clinical outcomes. | Am J Cancer Res. 2024 Jan 15; 14(1): 355-367 | Others |
| 90 | Daibo S, Watanabe J, Suwa H, et al. | 消化器外科 | Short-term and Mid-term Outcomes of Indocyanine Green Fluorescence Imaging-Guided Laparoscopic Right-Sided Colectomy: A Propensity Score-Matched Cohort Study. | Dis Colon Rectum. 2024 Jan 1; 67(1): 82-89 | Original Article |
| 91 | Anzai A, Takaki S, Yokoyama N, et al. | 麻醉科学 | Creatinine Reduction Ratio Is a Prognostic Factor for Acute Kidney Injury following Cardiac Surgery with Cardiopulmonary Bypass: A Single-Center Retrospective Cohort Study. | J Clin Med. 2023 Dec 19;13(1):9 | Original Article |
| 92 | Enomoto Y, Matsuda Y, Nagamine Y, et al. | 麻醉科 | Venoarterial-extra corporeal membrane oxygenation-assisted parathyroidectomy for hypercalcemic crisis due to parathyroid carcinoma complicated by severe circulatory and respiratory failure: a case report. | JA Clin Rep. 2023 Mar 14; 9(1):14 | Case report |
| 93 | Kanemaru E, Miyazaki Y, Ezaka M, et al. | 麻醉科 | Intranasal administration of polysulfide prevents neurodegeneration in spinal cord and rescues mice from delayed paraplegia after spinal cord ischemia. | Redox Biol. 2023 Apr; 60:102620 | Original Article |

| | | | | | |
|-----|--|-------|--|---|------------------|
| 94 | Kashiwagi S, Mihara T, Yokoi A, et al. | 集中治療部 | Effect of remote ischemic preconditioning on lung function after surgery under general anesthesia. | Sci Rep. 2023 Oct 18; 13(1): 17720 | Original Article |
| 95 | Mihara T, Nakajima D, Hijikata T, et al. | 麻酔科 | Effectiveness of acupuncture therapy for the prevention of emergence agitation in children. | PLoS One. 2023 Jun 6; 18(6):e0286790 | Original Article |
| 96 | Nakamura K, Hatakeyama J, Liu K, et al. | 集中治療部 | Relationship between critical care nutrition and post-intensive care syndrome in surviving ventilated patients with COVID-19: a multicenter prospective observational study. | J Clin Biochem Nutr. 2024 Jan; 74(1): 74-81 | Original Article |
| 97 | Sakai Y, Nagamine Y, Yokose M, et al. | 麻酔科 | Clinical features and prognosis of toxic epidermal necrolysis requiring intensive care: A retrospective descriptive single-center study. | Burns open, 7 (4):139-145, 2023 Oct. | Original Article |
| 98 | Suganuma S, Idei M, Nakano H, et al. | 集中治療部 | Impact of Persistent Inflammation, Immunosuppression, and Catabolism Syndrome during Intensive Care Admission on Each Post-Intensive Care Syndrome Component in a PICS Clinic. | J Clin Med. 2023 Aug 21; 12(16): 5427 | Original Article |
| 99 | Takada K, Nagamine Y, Ishii A, et al. | 麻酔科 | Association between Intraoperative Early Warning Score and Mortality and In-Hospital Stay in Lower Gastrointestinal Spontaneous Perforation. | Anesthesiol Res Pract. 2023 Aug 29; 2023: 8910198 | Original Article |
| 100 | Yokose M, Takaki S, Saigusa Y, et al. | 集中治療部 | Stomach position evaluated using computed tomography is related to successful post-pyloric enteral feeding tube placement in critically ill patients: a retrospective observational study. | J Intensive Care. 2023 May 30; 11(1): 25 | Original Article |
| 101 | Yoshida T, Yoshida T, Noma H, et al. | 麻酔科 | Diagnostic accuracy of point-of-care ultrasound for shock: a systematic review and meta-analysis. | Crit Care. 2023 May 25; 27(1): 200 | Original Article |
| 102 | Masui K | 麻酔科 | Reply to "Re-sedation after a large dose of flumazenil" | J Anesth. 2023 37(1):162-163 | Original Article |
| 103 | Honzawa H, Taniguchi H, Ogawa F, et al. | 救急科 | Association of obesity paradox with prognosis of veno-venous-extracorporeal membrane oxygenation in patients with coronavirus disease 2019. | Acute Med Surg. 2023, Jul 17; 10(1): e871 | Original Article |
| 104 | Takeuchi I, Imaki S, Furuya R, et al. | 救急科 | Continuous positive airway pressure treatment from the prehospital field in a Japanese regional Doctor Car system. | Acute Med Surg. 2023, Sep 20; 10(1): e893 | Original Article |
| 105 | Sakai K, Okoda K, Nishii M, et al. | 救急科 | Combining blood glucose and SpO ₂ /FiO ₂ ratio facilitates prediction of imminent ventilatory needs in emergency room COVID-19 patients. | Sci Rep. 2023 Dec. 20; 13(1): 22718 | Original Article |
| 106 | Fukuda S, Tanaka S, Kawakami C, et al. | 小児科学 | Maternal Serum Folic Acid Levels and Onset of Kawasaki Disease in Offspring During Infancy. | JAMA Netw Open, 6(12): e2349942, 2023(オンライン) | Original Article |
| 107 | Ito S, Saito A, Sakurai A, et al. | 小児科学 | Eculizumab treatment in paediatric patients diagnosed with aHUS after haematopoietic stem cell transplantation: a HSCT-TMA case series from Japanese aHUS post-marketing surveillance. | Bone Marrow Transplant. 2024 Mar; 59(3): 315-324 | Original Article |

| | | | | | |
|-----|--|--------|--|--|------------------|
| 108 | Kawai S, Pak K, Iwamoto S, et al. | 小児科学 | Association Between Maternal Factors in Early Pregnancy and Congenital Heart Defects in Offspring: The Japan Environment and Children's Study. | J Am Heart Assoc, 12(17): e029268, 2023(オンライン) | Case report |
| 109 | Kawakami K, Oyama Y, Watanabe Y, et al. | 小児科学 | Delayed internal carotid artery occlusion and paralysis after oral trauma. | Pediatr Int, 65(1):e15594, 2023(オンライン) | Original Article |
| 110 | Kishio N, Iwama K, Nakanishi S, et al. | 小児科学 | A deletion variant in LMX1B causing nail-patella syndrome in Japanese twins. | Hum Genome Var. 2024 Feb 29; 11(1): 10 | Original Article |
| 111 | Komatsu Y, Nozawa T, Kamiyama Y, et al. | 小児科学 | Purple eyelid sign in multisystem inflammatory syndrome in children. | Pediatr Int, 65(1):e15510, 2023(オンライン) | Original Article |
| 112 | Kurita D, Shiba N, Ohya T, et al. | 小児科学 | Severe RAS-Associated Lymphoproliferative Disease Case with Increasing $\alpha\beta$ Double-Negative T Cells with Atypical Features. | J Clin Immunol, 43(8): 1992-1996, 2023 | Case report |
| 113 | Nada T, Kamei K, Sato M, et al. | 小児科学 | Risk factors for early dialysate leakage around the exit site after catheter placement in pediatric peritoneal dialysis: a single-center experience. | Clin Exp Nephrol, 27(9): 791-799, 2023 | Original Article |
| 114 | Nicho N, Nozawa T, Murase A, et al. | 小児科学 | Difficulties of diagnosing idiopathic hypertrophic pachymeningitis in children: Case report and literature review. | Mod Rheumatol Case Rep, 3(1):233-236, 2023 | Review |
| 115 | Ogata A, Deki S, Uchimura T, et al. | 小児科学 | Multinucleated podocytes as a clue to diagnosis of juvenile nephropathic cystinosis. | Pediatr Nephrol. 2024 Feb; 39(2): 609-612 | Case report |
| 116 | Jikuya R, Johnson TA, Maejima K, et al. | 泌尿器科 | Comparative analyses define differences between BHD-associated renal tumor and sporadic chromophobe renal cell carcinoma. | eBioMedicine, 92:104596, 2023 | Review |
| 117 | Makiyama K, Komeya M, Tatenuma T, et al. | 泌尿器科学 | Patient-specific simulations and navigation systems for partial nephrectomy. | Int J Urol. 30:1087-1095. 2023 | Original Article |
| 118 | Tatenuma T, Miyamoto H | 泌尿器科 | Profile of Relugolix in the Management of Advanced Hormone-Sensitive Prostate Cancer. Design, Development, and Place in Therapy. | Drug Des Devel Ther, 17:2325-2333, 2023 | Original Article |
| 119 | Choe H, Kobayashi N, Abe K, et al. | 運動器病態学 | Targeting of Periprosthetic Muscles for the Ultrasonographic Screening of Hip Abnormalities in Hip Resurfacing Arthroplasty Patients. | J Clin Med, 12(8): 2871, 2023,4 | Original Article |
| 120 | Choe H, Kamono E, Abe K, et al. | 運動器病態学 | Accuracy of Albumin, Globulin, and Albumin-Globulin Ratio for Diagnosing Periprosthetic Joint Infection: A Systematic Review and Meta-Analysis. | J Clin Med, 12(24): 7512, 2023,12 | Review |
| 121 | Choe H, Maruo A, Hieda Y, et al. | 運動器病態学 | Novel Local Antifungal Treatment for Fungal Periprosthetic Joint Infection With Continuous Local Antibiotic Perfusion: A Surgical Technique. | Arthroplasty Today, 24: 101245, 2023,11 | Original Article |

| | | | | | |
|-----|--|--------|---|--|------------------|
| 122 | Fujisawa T, Choe H, Miyatake K, et al. | 運動器病態学 | Safe Ultrasonography-Assisted Knee Posterior Transseptal Portal Creation Technique. | Arthrosc Tech, 12(11): e1879–e1884, 2023, 11 | Original Article |
| 123 | Kumagai K, Yamada S, Nejima S, et al. | 運動器病態学 | Cartilage Degeneration of the Lateral Compartment of the Knee at Second-Look Arthroscopy Is Associated With Deterioration of 10-Year Clinical Outcomes After Opening-Wedge High Tibial Osteotomy. | Arthroscopy, 39(11): 2354–2362, 2023, 11 | Original Article |
| 124 | Kusaba Y, Kumagai K, Ishikawa K, et al. | 運動器病態学 | Bevacizumab promotes tenogenic differentiation and maturation of rat tendon-derived cells in vitro. | Arthroscopy, 39(11): 2354–2362, 2023, 12 | Original Article |
| 125 | Miyatake K, Choe H, Fujisawa T, et al. | 運動器病態学 | Cartilage Degeneration of the Lateral Compartment of the Knee at Second-Look Arthroscopy Is Associated With Deterioration of 13-Year Clinical Outcomes After Opening-Wedge High Tibial Osteotomy. | Arthroscopy Techniques, 12(6): e801–e805, 2023, 6 | Others |
| 126 | Saito K, Kawabata Y, Kobayashi N, et al. | 運動器病態学 | A rare case of intra-articular synovial sarcoma of the hip joint: a case report with intra-articular findings via hip arthroscopy. | Journal of surgical case reports, 2023(2): rjad066, 2023 | Case report |
| 127 | Choe H, Kobayashi N, Oba M, et al. | 運動器病態学 | Bilateral fragility femoral supracondylar fractures in adolescents due to long-term home stay during the COVID-19 pandemic: A case report. | J Orthop Sci. 2024 Jan; 29(1): 405–408 | Case report |
| 128 | Kato S, Horita N, Utsunomiya D, et al. | 放射線診断学 | Sodium-glucose cotransporter 2 inhibitors in Asian patients with heart failure. | Chin Med J (Engl), 136(8): 1004–1005, 2023 | Original Article |
| 129 | Kato S, Azuma M, Nakayama N, et al. | 放射線診断学 | Diagnostic accuracy of whole heart coronary magnetic resonance angiography: a systematic review and meta-analysis. | J Cardiovasc Magn Reson, 25(1): 36, 2023 | Original Article |
| 130 | Koyama S, Nogami A, Yoneda M, et al. | 放射線診断学 | Chronological Course and Clinical Features after Denver Peritoneovenous Shunt Placement in Decompensated Liver Cirrhosis. | Tomography. 2024 Mar 25; 10(4): 471–479 | Original Article |
| 131 | Kuninaka H, Usumoto Y, Tanabe M, et al. | 放射線診断学 | Distinguishing true from pseudo hematoma in the cervical spinal canal using postmortem computed tomography. | Leg Med (Tokyo). 2024 Feb; 66: 102358 | Original Article |
| 132 | Shigenaga D, Ogino I, Watanabe S, et al. | 放射線治療学 | Toxic effects of volume-modulated arc therapy for esophageal squamous cell cancer: preliminary clinical results. | Anticancer Res, 43(6): 2791–2798, 2023 Jun. | Original Article |
| 133 | Ito E, Ogino I, Sugiura M, et al. | 放射線治療学 | Long-term outcomes of early-stage non-stomach gastrointestinal mucosa-associated lymphoid tissue lymphoma treated with radiation therapy. | Anticancer Res, 43(6): 2851–2857, 2023 Jun. | Original Article |
| 134 | Docherty AR, Mullins N, Ashley-Koch AE, et al. | 精神医学 | GWAS Meta-Analysis of Suicide Attempt: Identification of 12 Genome-Wide Significant Loci and Implication of Genetic Risks for Specific Health Factors. | Am J Psychiatry. 2023 Oct 1; 180(10): 723–738 | Original Article |
| 135 | Eiro T, Miyazaki T, Takahashi T, et al. | 精神医学 | Dynamics of AMPA receptors regulate epileptogenesis in patients with epilepsy. | Cell Rep Med. 2023 May 16; 4(5): 101020 | Original Article |

| | | | | | |
|-----|---|------|--|--|------------------|
| 136 | Hasegawa N, Hishimoto A, Hashimoto R, et al. | 精神医学 | Effect of education regarding treatment guidelines for schizophrenia and depression on the treatment behavior of psychiatrists: A multicenter study. | Psychiatry Clin Neurosci. 2023 Oct;77(10):559–568 | Original Article |
| 137 | Onitsuka T, Asami T, Hishimoto A, et al. | 精神医学 | Combination Psychotropic Use for Schizophrenia With Long-Acting Injectable Antipsychotics and Oral Antipsychotics: A Nationwide Real-World Study in Japan. | J Clin Psychopharmacol. 2023 Jul–Aug 01; 43(4):365–368 | Original Article |
| 138 | Uchimura H, Kanai K, Arai M, et al. | 精神医学 | Involvement of the L-DOPA receptor GPR143 in acute and chronic actions of methylphenidate. | J Pharmacol Sci. 2023 Jul; 152(3): 178–181 | Original Article |
| 139 | Tsuboi T, Hishimoto A, Hashimoto R, et al. | 精神医学 | Effects of electroconvulsive therapy on the use of anxiolytics and sleep medications: a propensity score-matched analysis. | Psychiatry Clin Neurosci. 2023 77(1):30–37 | Original Article |
| 140 | Hashimoto N, Hishimoto A, Hashimoto R, et al. | 精神医学 | Change of prescription for patients with schizophrenia or major depressive disorder during admission: real-world prescribing surveys from the effectiveness of guidelines for dissemination and education psychiatric treatment project. | BMC Psychiatry. 2023 Jun 28;23(1):473 | Original Article |
| 141 | Miyazaki H, Hino K, Ito T, et al. | 精神医学 | Relationship of emergency department visits for suicide attempts with meteorological and air pollution conditions. | J Affect Disord. 2023 Jul 15;333:154–160 | Original Article |
| 142 | Fukumoto K, Ide K, Hishimoto A, et al. | 精神医学 | Development of an individual fitness score (IFS) based on the depression treatment guidelines of in the Japanese Society of Mood Disorders. | Neuropsychopharmacol Rep, 43(1): 33–39, 2023 | Original Article |
| 143 | Minamisawa Yuki, Sato Mutsumi, Saito Yoshiaki, et al. | 精神医学 | Case report: Evolution of catatonic mutism and psychotic symptoms in an adolescent with Down syndrome: transition from Down syndrome disintegrative disorder to anti-N-methyl-D-aspartate receptor encephalitis. | Front. Neurol., 09 June 2023. 14:120054 | Case report |
| 144 | Takeuchi M, Matsumura N, Ohno T, et al. | 眼科学 | Comparing the effectiveness of two surgical techniques for treating lower lid epiblepharon in children: a randomized controlled trial. | Sci Rep; 13(1):5857, 2023 | Original Article |
| 145 | Nakamura J, Kamao T, Mitani A, et al. | 眼科学 | Accuracy of the Lacrimal Syringing Test in Relation to Dacryocystography and Dacryoendoscopy. | Clin Ophthalmol; 17:1277–1285, 2023 | Original Article |
| 146 | Takeuchi M, Meguro A, Nakamura J, et al. | 眼科学 | HLA-DRB1*04:05 is involved in the development of Vogt-Koyanagi-Harada disease-like immune-related adverse events in patients receiving immune checkpoint inhibitors. | Sci Rep. 2023 Aug 21;13(1):13580 | Original Article |
| 147 | Takeuchi M, Matsumura N, Ohno T, et al. | 眼科学 | Comparing the effectiveness of two surgical techniques for treating lower lid epiblepharon in children: a randomized controlled trial. | Sci Rep. 2023 Apr 11;13(1):5857 | Original Article |
| 148 | Nakamura J, Kamao T, Mitani A, et al. | 眼科学 | Accuracy of the lacrimal syringing test in relation to Dacryocystography and Dacryoendoscopy. | Clin Ophthalmol. 2023 May 3; 17: 1277–1285 | Original Article |

| | | | | | |
|-----|---|---------|---|--|------------------|
| 149 | Hirai Y, Kurihara K, Sano D, et al. | 耳鼻いんこう科 | Pre-treatment Tumor Size and Tumor Growth Rate as Prognostic Predictors for Patients With Recurrent/Metastatic Squamous Cell Carcinoma of the Head and Neck Treated With Nivolumab. | In Vivo, 37(6): 2687-2695, 2023 | Original Article |
| 150 | Nishimura G, Takahashi H, Sano D, et al. | 耳鼻いんこう科 | Risk factors of secondary cancer in laryngeal, oropharyngeal, or hypopharyngeal cancer after definitive therapy. | Int J Clin Oncol, 29(2): 103-114, 2023 | Original Article |
| 151 | Sano D, Tateya I, Hori R, et al. | 耳鼻いんこう科 | Committee for Transoral Robotic Surgery, Japan Society for Head and Neck Surgery. Transoral robotic surgery (TORS) in Japan: procedures, advantages and current status. | Jpn J Clin Oncol. 2024 Mar 9;54(3):248-253 | Original Article |
| 152 | Sano D, Oridate N. | 耳鼻いんこう科 | Long-term efficacy of immune checkpoint inhibitors with or without chemotherapy in recurrent or metastatic squamous cell carcinoma of the head and neck: a commentary on the 4-year follow-up of the KEYNOTE-048 trial. | Transl Cancer Res, 12(5): 1363-1367, 2023 | Original Article |
| 153 | Sato K, Hatakeyama H, Okada H, et al. | 耳鼻いんこう科 | Fibrinogen-to-lymphocyte Ratio Predicts the Outcomes of Hypopharyngeal Squamous Cell Carcinoma Treated With Definitive Radiotherapy. | In Vivo, 37(3): 1281-1289, 2023 | Original Article |
| 154 | Watanabe Y, Watanabe T, Yamaguchi Y | 皮膚科学 | Anti-SS-A antibody is a potential predictor of severe Stevens-Johnson syndrome and toxic epidermal necrolysis: A retrospective cohort study. | J Am Acad Dermatol, 90(2):385-387, 2024 Feb | Letter |
| 155 | Watanabe T, Watanabe Y, Ikeda N, et al. | 皮膚科学 | Serum levels of C-C motif chemokine ligand 2 and interleukin-8 as possible biomarkers in patients with toxic epidermal necrolysis accompanied by acute respiratory distress syndrome. | J Dermatol, 50(4):500-510, 2023 Apr | Original Article |
| 156 | Chen X, Kioi M, Hayashi Y, Koizumi T, et al. | 口腔外科学 | Efficacy of concurrent chemoradiotherapy with retrograde super selective intra-arterial infusion combined with cetuximab for synchronous multifocal oral squamous cell carcinomas. | Radiat Oncol. 18(1): 90, 2023 May | Case report |
| 157 | Honda K, Iwai T, Sugiyama S, et al. | 口腔外科学 | Transantral apicoectomy for radicular cyst of maxillary molar following downfracture in Le Fort I osteotomy. | J Dent Sci. 2024 Jan; 19(1): 684-685 | Case report |
| 158 | Iwai T, Sugiyama S, Hirota M, et al. | 口腔外科学 | Horizontal alveolar transport distraction osteogenesis to stabilize removable prosthesis after mandibular reconstruction. | J Dent Sci, 18(4): 1895-1896, 2023 | Case report |
| 159 | Iwai T, Hirabayashi M, Sugiyama S, et al. | 口腔外科学 | Submandibular gland metastasis as the initial manifestation of lung small cell carcinoma. | J Dent Sci, 18(4): 1915-1917, 2023 | Case report |
| 160 | Iwai T, Sugiyama S, Ohashi N, et al. | 口腔外科学 | Metastatic neuroendocrine carcinoma to the mandibular gingiva from the duodenum papilla. | Oral Oncol Rep, 7: 100052, 2023 | Case report |
| 161 | Iwai T, Hirabayashi M, Koizumi T, et al. | 口腔外科学 | Guidewire perforation into the oral cavity from the deep lingual artery during retrograde superselective intra-arterial catheterization for a tongue cancer patient. | Indian J Surg, 85(4): 982-984, 2023 | Case report |

| | | | | | |
|-----|--|-------|--|--|------------------|
| 162 | Iwai T, Yajima Y, Oguri S, et al. | 口腔外科学 | Metastatic angiosarcoma of the mandibular gingiva. | Indian J Surg, 85(3): 659–661, 2023 | Case report |
| 163 | Iwai T, Sugiyama S, Ishikawa S, et al. | 口腔外科学 | Sublingual gland herniation masquerading as submandibular lesion. | Indian J Surg 85(2): 438–439, 2023 | Case report |
| 164 | Iwai T, Minamiyama S, Sugiyama S, et al. | 口腔外科学 | Mucocele arising from ectopic salivary gland tissue between the geniohyoid muscles. | Indian J Surg, 85(1): 186–188, 2023 | Case report |
| 165 | Iwai T, Minamiyama S, Mitsudo K | 口腔外科学 | Multiple schwannomas arising in the midline space between the bilateral genioglossus muscles and left submandibular space. | J Craniofac Surg, 34(1): e61–e63, 2023 | Case report |
| 166 | Iwai T, Sugiyama S, Honda K, et al. | 口腔外科学 | Endoscopically-assisted intraoral vertical ramus osteotomy to prevent injury of the maxillary artery and mandibular neurovascular bundle. | J Dent Sci. 2024 Jan; 19(1): 671–672 | Case report |
| 167 | Iwai T, Hirabayashi M, Kioi M, et al. | 口腔外科学 | Intraoral approach for oral floor reconstruction with the submandibular gland flap. | J Dent Sci. 2024 Jan; 19(1): 656–658 | Case report |
| 168 | Iwai T, Ishikawa S, Ideta Y, et al. | 口腔外科学 | Limitation of PET/CT for screening of synchronous upper gastrointestinal cancer in oral cancer patients. | J Oral Maxillofac Surg Med Pathol 36(2): 191–194, 2024 | Original Article |
| 169 | Kitajima H, Hirota M, Iwai T, et al. | 口腔外科学 | Synergistic enhancement of protein recruitment and retention by implant surface microtopography and superhydrophilicity in a computational fluid dynamics model. | Int J Mol Sci, 24(21): 15618, 2023 | Original Article |
| 170 | Kitajima H, Hirota M, Osawa K, et al. | 口腔外科学 | Optimization of blood and protein flow around superhydrophilic implant surfaces by promoting contact hemodynamics. | J Prosthodont Res, 67(4): 568–582, 2023 | Original Article |
| 171 | Kitajima H, Hirota M, Osawa K, et al. | 口腔外科学 | The effects of a biomimetic hybrid meso- and nano-scale surface topography on blood and protein recruitment in a computational fluid dynamics implant model. | Biomimetics, 8(4): 376, 2023 | Original Article |
| 172 | Koizumi T, Ohya T, Oguri S, et al. | 口腔外科学 | Patient with severe acute respiratory syndrome coronavirus 2 nosocomial infection undergoing superselective intra-arterial chemoradiation therapy for maxillary gingival carcinoma: A case report. | Oral Sci Int 21(1): 137–142, 2024 | Case report |
| 173 | Ohya T, Sakuma I, Cai W, et al. | 口腔外科学 | Diameters of lingual, facial, and maxillary arteries measured according to an objective protocol on 3D computed tomography angiography images. | Int J CARS 19, 303–308, 2023 | Original Article |
| 174 | Sugiyama S, Iwai T, Minamiyama S, et al. | 口腔外科学 | Midline suprathyroid mucocele arising from ectopic salivary gland tissue. | J Dent Sci. 2024 Jan; 19(1): 698–700 | Case report |
| 175 | Sugiyama S, Iwai T, Oguri S, et al. | 口腔外科学 | An effective compression method with a hydrophilic vinyl polysiloxane impression material on the supraclavicular fossa as conservative treatment of chyle leak after neck dissection. | J Dent Sci. 2024 Jan; 19(1): 682–683 | Case report |

| | | | | | |
|-----|--|-------------------|--|--|------------------|
| 176 | Sugiyama S, Iwai T, Honda K, et al. | 口腔外科学 | A simple method to use a self-retaining cheek retractor during oral surgery under general anesthesia with orotracheal intubation. | J Dent Sci. 2024 Jan; 19(1): 673-674 | Case report |
| 177 | Sugiyama S, Iwai T, Kioi M, et al. | 口腔外科学 | Occipital artery arising from the superior aspect of the carotid bifurcation: a rare anatomical variant. | Indian J Surg 86(1): 253-254, 2024 | Case report |
| 178 | Yoshii H, Iwai T, Sugiyama S, et al. | 口腔外科学 | Pathological mandibular fractures following idiopathic resorption of bilateral mandibular rami and coronoid processes. | J Dent Sci. 2024 Jan; 19(1): 691-692 | Case report |
| 179 | Kusakabe A, Mawatari H, Hirano K et al. | 総合診療医学 | Identifying the unmet physical and psychological intimacy and sexual needs of partners of patients with terminal cancer. | The Journal of Sexual Medicine(20): 1312-1318, 2023 | Original Article |
| 180 | Takada K, Nagamine Y, Ishii A, et al. | 緩和医療科 | Association between Intraoperative Early Warning Score and Mortality and In-Hospital Stay in Lower Gastrointestinal Spontaneous Perforation. | Anesthesiol Res Pract. 2023 Aug 29; 2023: 8910198 (オンライン) | Original Article |
| 181 | Sakamoto M, Kurosawa K, Tanoue K, et al. | 遺伝学・小児科学・難病ゲノム診断科 | A heterozygous germline deletion within USP8 causes severe neurodevelopmental delay with multiorgan abnormalities. | J Hum Genet. 69(2):85-90. 2024 Feb | Case report |
| 182 | Wada T, Doi H, Okubo M, Tada M, et al. | 神経内科学・脳卒中医学 | RNA Foci in Two bi-Allelic RFC1 Expansion Carriers. | Ann Neurol. 95(3): 607-613. 2024 Mar | Others |
| 183 | Ohashi T, Kunimoto H, Nukui J, et al. | 血液・リウマチ・感染症内科 | A case of Bloom syndrome manifesting with therapy-related myelodysplastic syndromes harboring a novel BLM gene variant. | International Journal of Hematology, 119(5): 603-607, 2024 Mar | Case report |
| 184 | Kunimoto H, Miura A, Maeda A, et al. | 血液・リウマチ・感染症内科 | Clinical and genetic features of Japanese cases of MDS associated with VEXAS syndrome. | Int J Hematol. 2023 Oct; 118(4): 494-502 | Original Article |
| 185 | Imajo K, Saigusa Y, Kobayashi T, et al. | 肝胆膵消化器病学 | M-PAST score is better than MAST score for the diagnosis of active fibrotic nonalcoholic steatohepatitis. | Hepatol Res, 53(9): 844-856, 2023 Sep | Original Article |
| 186 | Saka S, Konishi M, Kamimura D, et al. | 循環器内科学 | Clinical impact of left ventricular systolic dysfunction in patients undergoing dialysis access surgery. | Clin Exp Nephrol, 27(4): 374-381, 2023 Apr | Original Article |
| 187 | Kamimura D, Yimer WK, Shah AM, et al. | 臨床検査部／循環器内科学 | Vitamin D levels in black Americans and the association with left ventricular remodeling and incident heart failure with preserved ejection fraction: The Jackson Heart Study. | J Card Fail, 29(2): 150-157, 2023 | Original Article |
| 188 | Samukawa S, Yoshimi R, Kojitani N, et al. | 血液・免疫・感染症内科学 | Cryptococcal meningitis with atypical paradoxical inflammatory reactions after antifungal treatment in acquired immune deficiency syndrome: A case report. | J Infect Chemother, 29(3): 347-352, 2023 | Case report |
| 189 | Higashitani K, Takase-Minegishi K, Yoshimi R, et al. | 血液・免疫・感染症内科学 | Benefits and risks of hematopoietic stem cell transplantation for systemic sclerosis: a systematic review and meta-analysis. | Mod Rheumatol, 33(2): 330-337, 2023 | Review |

| | | | | | |
|-----|--|--------------|--|--|------------------|
| 190 | Yanai R, Yajima N, Oguro N, et al. | 血液・免疫・感染症内科学 | Number of attending physicians and accumulated organ damage in patients with systemic lupus erythematosus: LUNA registry cross-sectional study. | Rheumatol Ther, 10(2): 421-431, 2023 | Original Article |
| 191 | Katayama Y, Miyawaki Y, Shidahara K, et al. | 血液・免疫・感染症内科学 | Association of alcohol consumption and fatigue in SLE: A cross-sectional study from Lupus Registry of Nationwide Institution (LUNA) cohort. | Lupus, 32(4): 531-537, 2023 | Original Article |
| 192 | Ohashi T, Takase- Minegishi K, Maeda A, et al. | 血液・免疫・感染症内科学 | Incidence and risk of hematological adverse events associated with immune checkpoint inhibitors: a systematic literature review and meta-analysis. | J Hematol, 12(2): 66-74, 2023 | Original Article |
| 193 | Maeda A, Takase- Minegishi K, Kirino Y, et al. | 血液・免疫・感染症内科学 | Immune checkpoint inhibitor-induced arthralgia is tightly associated with improved overall survival in cancer patients. | Rheumatology (Oxford), 62(4): 1451-1459, 2023 | Original Article |
| 194 | Oguro N, Yajima N, Miyawaki Y, et al. | 血液・免疫・感染症内科学 | Effect of communicative and critical health literacy on trust in physicians among patients with systemic lupus erythematosus (SLE): the TRUMP2-SLE project. | J Rheumatol, 50(5): 649-655, 2023 | Original Article |
| 195 | Kurita N, Oguro N, Miyawaki Y, et al. | 血液・免疫・感染症内科学 | Trust in the attending rheumatologist, health-related hope, and medication adherence among Japanese systemic lupus erythematosus patients. | Rheumatology (Oxford), 62(6): 2147-2153, 2023 | Original Article |
| 196 | Sada K, Miyawaki Y, Shidahara K, et al. | 血液・免疫・感染症内科学 | Grit personality of physicians and achievement of treatment goals in patients with systemic lupus erythematosus. | Rheumatology (Oxford), 62(6): 2154-2159, 2023 | Original Article |
| 197 | Maeda A, Tsuchida N, Uchiyama Y, et al. | 血液・免疫・感染症内科学 | Efficient detection of somatic UBA1 variants and clinical scoring system predicting patients with variants in VEXAS syndrome. | Rheumatology (Oxford), 29(6): 268-274, 2023 | Original Article |
| 198 | Miyawaki Y, Sada K, Shidahara K, et al. | 血液・免疫・感染症内科学 | The association of grit with burnout components (professional efficacy, exhaustion, and cynicism) among academic rheumatologists: the TRUMP 2 -SLE study. | J Clin Rheumatol, 29(6): 268-274, 2023 | Original Article |
| 199 | Hidekawa C, Yoshimi R, Saigusa Y, et al. | 血液・免疫・感染症内科学 | Protective effect of hydroxychloroquine on infections in patients with systemic lupus erythematosus: an observational study using the LUNA registry. | Front Immunol, 14: 1227403, 2023 | Original Article |
| 200 | Kunimoto H, Miura A, Maeda A, et al. | 血液・免疫・感染症内科学 | Clinical and genetic features of Japanese cases of MDS associated with VEXAS syndrome. | Int J Hematol, 118(4): 494-502, 2023 | Original Article |
| 201 | Ichikawa T, Kishida D, Shimojima Y, et al. | 血液・免疫・感染症内科学 | Impact of online health information-seeking behavior on shared decision-making in patients with systemic lupus erythematosus: The TRUMP2-SLE project. | Lupus, 32(11): 1258-1266, 2023 | Original Article |
| 202 | Adachi S, Takase- Minegishi K, Maeda A, et al. | 血液・免疫・感染症内科学 | Risk of macrophage activation syndrome in patients with adult-onset Still's disease treated with IL-1 and IL-6 inhibitors: A meta-analysis and single-center experience. | Rheumatol Ther, 10(6): 1623-1636, 2023 | Original Article |
| 203 | Kawakami E, Kobayashi N, Ichihara Y, et al. | 整形外科科学 | Monitoring of blood biochemical markers for periprosthetic joint infection using ensemble machine learning and UMAP embedding. | Orthopaedic and Trauma Surgery, 143: 6057-6067, 2023 | Original Article |

| | | | | | |
|-----|---|--------------------|--|--|------------------|
| 204 | Tomoyama A, Kobayashi N, Choe H, et al. | 臨床検査部 | A Comparison of the Minimum Inhibitory Concentration of Antibiotics in Staphylococcus Species Isolated From Orthopedic and Respiratory Medicine Infections. | Cureus 15(11): e49535, 2023 | Original Article |
| 205 | Yoshimi R, Nakajima H. | 臨床検査部／血液・免疫・感染症内科学 | Subcutaneous edema in polymyositis and dermatomyositis. | Intern Med, 62(15): 2161–2162, 2023 | Review |
| 206 | Yoshimi R, Nakajima H. | 臨床検査部／血液・免疫・感染症内科学 | COVID-19 vaccination and the development of autoimmune diseases. | Intern Med, 62(10): 1387–1388, 2023 | Review |
| 207 | Yazawa I, Yoshida Y, Yoshimi R, et al. | 血液・免疫・感染症内科学 | Immature functional development of lumbar locomotor networks in adult Irf8 ^{-/-} mice. | Front Neurosci. 4;17: 1234215, 2024 Jan | Original Article |
| 208 | Hirahara Y, Yamaguchi M, Takase–Minegishi K, et al. | 血液・免疫・感染症内科学 | Pregnancy outcomes in patients with familial Mediterranean fever: systematic review and meta-analysis. | Rheumatology (Oxford). 63(2):277–284, 2024 Feb | Review |
| 209 | Oguro N, Yajima N, Ishikawa Y, et al. | 血液・免疫・感染症内科学 | Effect of Attending Rheumatologists' Big 5 Personality Traits on Patient Trust in Patients With Systemic Lupus Erythematosus: The TRUMP2–SLE Project. | J Rheumatol. 51(2):168–175, 2024 Feb | Original Article |
| 210 | Ichinose K, Sato S, Igawa T, et al. | 血液・免疫・感染症内科学 | Evaluating the safety profile of calcineurin inhibitors: cancer risk in patients with systemic lupus erythematosus from the LUNA registry—a historical cohort study. | Arthritis Res Ther. 26(1):48, 2024 Feb | Original Article |
| 211 | Misaki K, Tamura N, Azuma T, et al. | 血液・免疫・感染症内科学 | Associations of disease duration and anti-citrullinated peptide antibody status with the effectiveness of abatacept in biologic-naïve patients with rheumatoid arthritis: Post hoc analysis of a multicentre, real-world observational study in Japan (ORIGAMI). | Mod Rheumatol. 34(2):297–306, 2024 Feb | Original Article |
| 212 | Shiba N | 輸血細胞治療部 | Comprehensive molecular understanding of pediatric acute myeloid leukemia. | Int J Hematol, 117(2):173–181, 2023 | Review |
| 213 | Sue S, Suzuki Y, Sasaki T, et al. | 次世代臨床研究センター | Prospective Study of Vonoprazan-Based First-Line Triple Therapy with Amoxicillin and Metronidazole for Clarithromycin-Resistant Helicobacter pylori. | J Clin Med., 12: 2023 | Original Article |
| 214 | Iizuka C, Sue S, Onodera S, et al. | 次世代臨床研究センター | Risk assessment of metachronous gastric cancer after endoscopic submucosal dissection based on endoscopic intestinal metaplasia. | JGH Open, 7:783–9, 2023 | Original Article |
| 215 | Sue S, Kondo M, Sato T, et al. | 次世代臨床研究センター | Vonoprazan and high-dose amoxicillin dual therapy for Helicobacter pylori first-line eradication: A single-arm, interventional study. | JGH Open, 7: 55–60, 2023 | Original Article |
| 216 | Haze T, Kawano R, Takase H, et al. | 次世代臨床研究センター | Influence on the accuracy in ChatGPT: Differences in the amount of information per medical field. | International Journal of Medical Informatics, 180:105283, 2023 | Original Article |
| 217 | Haze T, Ozawa M, Kawano R, et al. | 次世代臨床研究センター | Effect of the interaction between the visceral-to-subcutaneous fat ratio and aldosterone on cardiac function in patients with primary aldosteronism. | Hypertens Res, 46:1132–1144, 2023 | Original Article |

| | | | | | |
|-----|---|-------------|---|---|------------------|
| 218 | Morita R, Azushima K, Sunohara S, et al. | 次世代臨床研究センター | High plasma aldosterone concentration is associated with worse 24-h ambulatory blood pressure profile in patients with primary aldosteronism. | Hypertens Res, 2023 | Original Article |
| 219 | Takase H, Haze T, Yamamoto D, et al. | 次世代臨床研究センター | Network Meta-analysis of C5 Palsy after Anterior Cervical Decompression of 3-6 Levels: Comparing three Different Procedures. | Spine (Phila Pa 1976), 2023 | Original Article |
| 220 | Fukuoka H, Dieter M, Tourlousse, Ohashi A, et al. | 次世代臨床研究センター | Elucidating colorectal cancer-associated bacteria through profiling of minimally perturbed tissue-associated microbiota. | Front Cell Infect Microbiol. 2023 Aug 1;13: 1216024 | Original Article |
| 221 | Kurita D, Shiba N, Ohya T, et al. | 次世代臨床研究センター | Severe RAS-associated Lymphoproliferative Disease Case with Increasing $\alpha\beta$ Double-negative T Cells with Atypical Features. | Journal of Clinical Immunology, 43(8):1992-1996, 2023 | Case report |
| 222 | Kobayashi Y, Fujikawa T, Haruna A, et al. | 次世代臨床研究センター | Omega-3 Fatty Acids Reduce Remnant-like Lipoprotein Cholesterol and Improve the Ankle-Brachial Index of Hemodialysis Patients with Dyslipidemia: A Pilot Study. | Medicina (Kaunas). 2023 Dec 30; 60(1):75 | Original Article |
| 223 | Tamura K, Soma Y, Haze T, et al. | 次世代臨床研究センター | Influence of Functional Impairment on Prognosis in Hospitalized Elderly Patients on Dialysis. | JMA J. 2023 Oct 16;6(4): 414-415 | Others |
| 224 | Haze T, Ozawa M, Kawano R, et al. | 次世代臨床研究センター | Effect of the interaction between the visceral-to-subcutaneous fat ratio and aldosterone on cardiac function in patients with primary aldosteronism. | Hypertens Res. 2023 May; 46(5): 1132-1144 | Original Article |
| 225 | Tamura K, Soma Y, Haze T, et al. | 次世代臨床研究センター | Influence of Functional Impairment on Prognosis in Hospitalized Elderly Patients on Dialysis. | JMA Journal, 6: 414-415, 2023 | Others |
| 226 | Haze T | 次世代臨床研究センター | The potential of a new nomogram for the diagnosis of primary aldosteronism. | Hypertens Res, 46: 2648-2650, 2023 Dec | Others |
| 227 | Haze T, Tamura K | 次世代臨床研究センター | Possible relationship between primary aldosteronism and small vessel disease. | Hypertens Res. 2024 Mar; 47(3): 677-678 | Others |
| 228 | Akimoto T, Miyake S, Suzuki R, et al. | 脳神経外科学 | Safety of coil embolisation in small (smaller than 5 mm) unruptured intracranial aneurysms: A retrospective multicentre analysis. | Interdisciplinary Neurosurg, 31(18): 101678, 2023 | Original Article |
| 229 | Akimoto T, Ohtake M, Kawasaki T, et al. | 脳神経外科学 | Predictors of outcome at 6 months after endovascular treatment of poor-grade aneurysmal subarachnoid hemorrhage. | J Neuroendovasc Ther. 2023; 17(2): 47-55 | Original Article |
| 230 | Akimoto T, Yoshikawa H, Fushimi S, et al. | 脳神経外科学 | Surgical complications and recurrence factors for asymptomatic meningiomas: a single-center retrospective study. | Acta Neurochir (Wien). 2023 May; 165(5): 1345-1353 | Original Article |
| 231 | Akimoto T, Ohtake M, Miyake S, et al. | 脳神経外科学 | Preoperative tumor embolization prolongs time to recurrence of meningiomas: a retrospective propensity-matched analysis. | J Neurointerv Surg. 2023 Aug; 15(8): 814-820 | Original Article |

| | | | | | |
|-----|---|--------|--|---|------------------|
| 232 | Ikegaya N, Hayashi T, Higashijima T, et al. | 脳神経外科学 | Arteries Around the Superior Limiting Sulcus: Motor Complication Avoidance in Insular and Insulo-Opercular Surgery. | Oper Neurosurg (Hagerstown). 2023 Dec 1; 25(6): e308-e314 | Original Article |
| 233 | Ohtake M, Suenaga J, Akimoto T, et al. | 脳神経外科学 | Magnetic Resonance Imaging Scan of the Brain After Mild COVID-19 Infection. | Cureus. 2023 26; 15(1): e34229 | Original Article |
| 234 | Ozaki S, Akimoto T, Iida Y, et al. | 脳神経外科学 | Complications and outcomes of carotid artery stenting in high-risk cases. | J Stroke Cerebrovasc Dis. 2023 Oct; 32(10): 107329 | Original Article |
| 235 | Tateishi K, Miyake Y, Nakamura T, et al. | 脳神経外科学 | Genetic alterations that deregulate RB and PDGFRA signaling pathways drive tumor progression in IDH2-mutant astrocytoma. | Acta Neuropathol Commun. 2023 Nov 27; 11(1): 186 | Case report |
| 236 | Oka C, Miyake Y, Tateishi K, et al. | 脳神経外科学 | Thigh leiomyosarcoma-derived brain metastasis with intracerebral hematoma: A case report and literature review. | Surg Neurol Int. 2023 3; 14: 80 | Case report |
| 237 | Takase H, Salem MM, Burkhardt JK | 脳神経外科学 | Antiplatelet Therapy: A Double-Edged Sword in Aneurysm Treatment? | World Neurosurg. 2023 May; 173: 274-275 | Review |

計 237件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の 特定機能病院における所属 | 題名 | 雑誌名・ 出版年月等 | 論文種別 |
|----|---|-----------------------|---|-------------------------------------|------------------|
| 1 | Nishigaki T, Kato H, Sakamoto Y, et al. | 薬剤部 | Comparing the Dosing Period in Package Inserts of Antimicrobial Agents Between Japan and the United States. | Cureus, 15(4): e38266, 2023 (オンライン) | Original Article |

計 1件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

| | |
|--|----------------------|
| ① 倫理審査委員会の設置状況 | 有・無 |
| ② 倫理審査委員会の手順書の整備状況 | 有・無 |
| ・ 手順書の主な内容 委員会の設置、研究機関長、研究者及び研究責任者の業務及び責務、研究責任者による研究実施の準備及び研究の管理に関する業務 など | |
| ③ 倫理審査委員会の開催状況 | 年12回 (※研究目的では12回) |

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

| | |
|--|------|
| ① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況 | 有・無 |
| ② 利益相反の管理に関する規定の整備状況 | 有・無 |
| ・ 規定の主な内容 公立大学法人横浜市立大学臨床研究利益相反委員会実施要綱により委員会の設置、所掌事務、組織、自己申告書の審査及び本学が設定する基準額を超える利益関係についてのマネジメントについて定めている | |
| ③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況 | 年12回 |

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

| | |
|---|-----|
| ① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況 | 年7回 |
| ・ 研修の主な内容 臨床研究の倫理に関する講習として、下記の日程で臨床研究セミナーならびに倫理委員向けのセミナーを行った。 5月31日(水) 臨床研究の適正実施、倫理的側面と臨床研究支援組織(Y-NEXT)の役割について(講師) Y-NEXT 副センター長 田野島 玲大 | |

- 7月3日（月） 知っておきたい国際標準の研究倫理CITI JapanからAPRINへ
（講師）信州大学 福嶋 義光
- 9月22日（金） もっと知りたい倫理委員会～事務担当からお伝えしたいこと～
（講師）Y-NEXT 臨床研究推進課 倫理担当
- 10月19日（木） 臨床研究の適正な推進について※
（講師）北里大学 氏原 淳
- 11月28日（火） 医学系研究における個人情報の使用について※
（講師）東京医科歯科大学 江花 有亮
- 1月19日（金） 臨床研究の品質管理～リスクを考えて効率的な研究を目指す！～
（講師）Y-NEXT 副センター長 田野島 玲大
- 3月14日（木） 不適正事案の分析から見えるもの—臨床研究の質の向上に必要なこととは？
（講師）Y-NEXT 信頼性保証室／教育研修室

※印は倫理審査委員向けセミナー
他は臨床研究セミナー

など

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

本学は20を越す多彩なプログラムを有しており、大学病院の専門診療科及び専門別センターで高度で質の高い医療に従事することができる。また、協力病院をはじめとした地域医療機関での研修によって、臨床研修に引き続きプライマリ・ケアを含めた幅広い研修も行うことができる。研修期間は原則3年間であり、専門医取得に向けた大きな一歩となっている。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

| | |
|-------------|-----|
| 上記研修を受けた医師数 | 74人 |
|-------------|-----|

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

| 研修統括者氏名 | 診療科 | 役職等 | 臨床経験年数 | 特記事項 |
|---------|-------------------|-----|--------|------|
| 中島 秀明 | 血液・リウマチ・ 感染症内科 | 教授 | 38年 | |
| 金子 猛 | 呼吸器内科 | 教授 | 39年 | |
| 日比 潔 | 循環器内科 | 教授 | 33年 | |
| 田村 功一 | 腎臓・高血圧内科 | 教授 | 37年 | |
| 田中 章景 | 脳神経内科・脳卒 中 | 教授 | 38年 | |
| 寺内 康夫 | 内分泌・糖尿病内 科 | 教授 | 36年 | |
| 前田 慎 | 消化器内科 | 教授 | 32年 | |
| 中島 淳 | 消化器内科(肝胆 膵) | 教授 | 36年 | |
| 市川 靖史 | 臨床腫瘍科 | 教授 | 39年 | |
| 柳泉 亮太 | 緩和医療科 | 講師 | 16年 | |
| 浅見 剛 | 精神科 | 准教授 | 24年 | |
| 伊藤 秀一 | 小児科 | 教授 | 32年 | |

| | | | | |
|--------|--------------------------------------|-----|-----|--|
| 齋藤 綾 | 心臓血管外科・小児循環器、消化器・一般外科、呼吸器外科、乳腺・甲状腺外科 | 教授 | 31年 | |
| 遠藤 格 | 消化器外科 | 教授 | 40年 | |
| 山田 顕光 | 乳腺外科 | 准教授 | 21年 | |
| 稲葉 裕 | 整形外科 | 教授 | 36年 | |
| 山口 由衣 | 皮膚科 | 教授 | 25年 | |
| 槇山 和秀 | 泌尿器科 | 教授 | 31年 | |
| 宮城 悦子 | 産婦人科 | 教授 | 37年 | |
| 水木 信久 | 眼科 | 教授 | 36年 | |
| 折館 伸彦 | 耳鼻いんこう科 | 教授 | 37年 | |
| 幡多 政治 | 放射線科 | 教授 | 32年 | |
| 光藤 健司 | 歯科・口腔外科・矯正歯科 | 教授 | 36年 | |
| 後藤 隆久 | 麻酔科 | 教授 | 38年 | |
| 山本 哲哉 | 脳神経外科 | 教授 | 36年 | |
| 中村 健 | リハビリテーション科 | 教授 | 32年 | |
| 林 礼人 | 形成外科 | 教授 | 30年 | |
| 竹内 一郎 | 救急科 | 教授 | 28年 | |
| 藤井 誠志 | 病理診断科 | 教授 | 31年 | |
| 桐越 博之 | 臨床検査部 | 講師 | 30年 | |
| 宇都宮 大輔 | 放射線部 | 教授 | 29年 | |

| | | | | |
|-------|-------|----|-----|--|
| 太田 光泰 | 総合診療科 | 教授 | 32年 | |
|-------|-------|----|-----|--|

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

| |
|---|
| ① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意） |
| <ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数 |
| ② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意） |
| <ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数 |
| ③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況 |
| <ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数 |

(注)1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注)2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

| | | |
|---------|-------------------------|-------|
| 計画・現状の別 | 1. 計画 | 2. 現状 |
| 管理責任者氏名 | 医療情報部長 西井 鉄平 | |
| 管理担当者氏名 | 医事課長 高橋 幸男 / 総務課長 友田 安政 | |

| | | 保管場所 | 管理方法 |
|-------------------|--------------------|--|----------|
| 診療に関する諸記録 | 規則第二十二條の三第二項に掲げる事項 | 病院日誌 | 総務課 |
| | | 各科診療日誌 | 各科 |
| | | 処方せん | 総務課・薬剤部 |
| | | 手術記録 | 総務課 |
| | | 看護記録 | 総務課 |
| | | 検査所見記録 | 総務課 |
| | | エックス線写真 | 総務課 |
| | | 紹介状 | 総務課 |
| | | 退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書 | 総務課 |
| 病院の管理及び運営に関する諸記録 | 規則第二十二條の三第三項に掲げる事項 | 従業者数を明らかにする帳簿 | 職員課 |
| | | 高度の医療の提供の実績 | 医事課（病歴室） |
| | | 高度の医療技術の開発及び評価の実績 | 各診療科 |
| | | 高度の医療の研修の実績 | 各診療科 |
| | | 閲覧実績 | 各関係部署 |
| | | 紹介患者に対する医療提供の実績 | 医事課（病歴室） |
| | | 入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿 | 総務課・薬剤部 |
| 規則第一條の十一第一項に掲げる事項 | 規則第一條の十一第一項に掲げる事項 | 医療に係る安全管理のための指針の整備状況 | 安全管理部 |
| | | 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況 | 安全管理部 |
| | | 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況 | 安全管理部 |
| | | 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況 | 安全管理部 |

| | | | 保管場所 | 管理方法 |
|---|-----------------------------|---|----------|------|
| 病院の管理及び運営に関する諸記録 | 規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項 | 院内感染対策のための指針の策定状況 | 感染制御部 | |
| | | 院内感染対策のための委員会の開催状況 | 感染制御部 | |
| | | 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況 | 感染制御部 | |
| | | 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況 | 感染制御部 | |
| | | 医薬品安全管理責任者の配置状況 | 職員課 | |
| | | 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況 | 薬剤部 | |
| | | 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況 | 薬剤部 | |
| | | 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | 薬剤部 | |
| | | 医療機器安全管理責任者の配置状況 | 職員課 | |
| | | | 医学・病院企画課 | |
| | | 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況 | 医学・病院企画課 | |
| 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | 医学・病院企画課 | | | |

| | | 保管場所 | 管理方法 |
|---------------------------------|--|--|------------|
| 病院の管理及び運営に関する諸記録 | 規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項 | 医療安全管理責任者の配置状況 | 職員課 |
| | | 専任の院内感染対策を行う者の配置状況 | 職員課 |
| | | 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 | 薬剤部 |
| | | 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況 | 総務課 |
| | | 診療録等の管理に関する責任者の選任状況 | 職員課 |
| | | 医療安全管理部門の設置状況 | 職員課 |
| | | 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況 | 安全管理部 |
| | | 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況 | 安全管理部 |
| | | 監査委員会の設置状況 | 総務課 |
| | | 入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況 | 安全管理部 |
| | | 他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況 | 安全管理部 |
| | | 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況 | 医事課 |
| | | 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況 | 八景キャンパス総務課 |
| | | 職員研修の実施状況 | 職員課 |
| | | 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況 | 安全管理部 |
| 管理者が有する権限に関する状況 | 職員課 | | |
| 管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況 | 総務課 | | |

| | | | |
|--|--------------------------------|------------|--|
| | 開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況 | 八景キャンパス総務課 | |
|--|--------------------------------|------------|--|

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

| | |
|---|---|
| 計画・現状の別 | 1. 計画 <input type="radio"/> ② 現状 <input checked="" type="radio"/> |
| 閲覧責任者氏名 | 医療情報部長 西井 鉄平 |
| 閲覧担当者氏名 | 医事課長 高橋幸男 / 総務課長 友田安政 |
| 閲覧の求めに応じる場所 | 会議室 病歴室(閲覧室) |
| 閲覧の手続の概要 | |
| 医療スタッフの閲覧は「横浜市立大学附属病院 診療録等管理実施要綱」「診療録等の閲覧・貸出要綱」に基づき手続きを行う。 | |
| 患者側からの個人情報開示の請求があった場合、「横浜市立大学附属病院における診療情報の提供に関する実施要綱」「横浜市立大学附属病院における診療情報の提供に関する事務処理要領」に基づき手続きを行う。 | |
| 公的監査における診療録の閲覧については、指定を受けた記録について該当記録・書類を病院職員立ち合いのもと開示する。 | |
| カルテレビュー形式で閲覧する場合は、会議室に電子カルテ閲覧の環境を設置する。病院職員が操作し指定の記録あるいは診療内容について開示する。 | |

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

| | | |
|-----------|--------|---------|
| 前年度の総閲覧件数 | 延 | 296 件 |
| 閲覧者別 | 医師 | 延 201 件 |
| | 歯科医師 | 延 2 件 |
| | 国 | 延 件 |
| | 地方公共団体 | 延 件 |

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

| | |
|---|-------|
| ① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況 | 有・無 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全管理の基本方針 2. 医療安全管理のための組織体制 3. 報告及び再発防止、医療事故発生時の対応 4. 高難度新規医療技術を用いた医療提供及び未承認新規医薬品等を用いた医療の提供 5. 説明同意による患者・家族と医療従事者間の情報共有 6. 患者からの相談等への対応 7. 医療安全のための職員教育・研修 8. 外部監査、内部通報制度 9. その他医療安全の推進 | |
| ② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 ） ・ 開催状況：年 23回 ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 安全管理対策委員会（年12回）：院内医療安全の方針を協議決定 リスクマネジャー会議（年11回）：安全管理対策委員会の方針周知、医療安全の推進、安全課題検討、情報交換 | |
| ③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況 | 年110回 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）：別紙①参照 | |
| ④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備（ <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 ） ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. インシデントシステムを用いた院内のインシデント報告の収集を実施。収集したインシデントの課題・問題点を医療の質・安全管理部内（多職種ミーティング）で分析し、QIミーティング等で報告する体制を構築 2. 医療安全に関する規定（指針・ガイドライン・マニュアル）の改正・周知 3. 他施設の医療安全に関するニュースや機構から発出された情報等をリスクマネジャー会議で紹介すると共に、月間医療安全ニュースで院内の職員全員に周知 4. 患者確認の2段階プロセス（患者本人の同定、患者本人と対象物の患者情報の照合）などの、院内全体に繰り返し周知すべき行動について、電子カルテのスクリーンセイバーを利用した周知を実施 5. インシデントの件数、事故報告等は医療機能評価機構へ報告し、広く情報共有する | |

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

| | |
|--|--------|
| ① 院内感染対策のための指針の策定状況 | 有・無 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染対策に関する基本的考え方 2. 委員会等の組織に関する基本事項 3. 職員研修に関する基本方針 4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針 6. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 7. 院内感染対策の推進のために必要な基本方針 | |
| ② 院内感染対策のための委員会の開催状況 | 年 13 回 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療関連感染防止等についての検討（COVID-19 対策含む） 2. 感染症発生状況の把握 3. 感染症発生時及び防止のための迅速な対応を行うための審議・検討 4. 感染対策マニュアル等の検討 5. 環境ラウンド・感染対策推進部会の活動把握 6. 分離菌、CLABSI, CAUTI, VAE, SSI サーベイランスの把握 | |
| ③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況 | 年 46 回 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： <ol style="list-style-type: none"> 1. Eラーニング：『標準予防策について』（手術部関連職員） 2. Zoom：『抗菌薬適正使用支援のためのセミナー 抗菌薬勉強会』（全職員） 3. 講演会：『持ち込まれるリスクが再び高まった輸入感染症』『水回りの感染リスクと対策/感染症に強いチームビルディング』（全職員） 4. 標準予防策、ミキシング、処置別研修（新人看護師・研修医） 5. 静脈注射研修・CVC研修（看護師） 6. 療養環境整備について、抗菌薬、針刺し防止対策等（感染リンクナース会） 7. 清掃業者・リネン業者に対する感染対策・工事業業者に対する感染対策（委託業者） 8. 部署の感染対策（小児科・放射線部・MEセンター） 9. COVID-19 感染対策について（9-1 病棟） 10. PPE 着脱演習（救急外来担当者・救急科医師・小児科病棟） | |
| ④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備 （有・無） 病棟別検出菌発生頻度、材料別菌発生頻度、主要分離菌の検出と推移などの感染レポートを作成している。院内感染対策が必要な耐性菌やウイルス疾患の検査結果が判明した際には、臨床検査部から感染制御部と担当医師に報告され、また、部門システム上からも感染症発生状況を随時把握できる体制がある。部署部門での感染症把握時は、管理者から感染制御部に報告がある。感染制御部部員は、必要時に訪問し状況把握に努め、助言や指導を行い院内感染大防止に努めている。 また、COVID-19に関連した本部会議が流行状況に合わせ、不定期に開催され、情報共有や対策を協議している。 ・ その他の改善のための方策の主な内容： | |

- ・各部署・部門にて、年間計画に沿った感染対策の取り組み
- ・手指衛生サーベイランス（病棟・外来・中央部門）の実施
- ・感染対策推進部会にて、針刺し切創の減少に向けた取り組み
- ・CLABSI、CAUTI、VAE、SSIの減少にむけた報告や、療養環境整備の取り組み
- ・感染制御部及び感染対策推進部員の院内ラウンドによる感染対策チェック

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための
体制の確保に係る措置

| | |
|---|-------|
| ① 医薬品安全管理責任者の配置状況 | 有・無 |
| ② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況 | 年 4 回 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品の安全管理（R5.4、新採用職員） ・ 麻薬の取り扱いについて（R5.4、研修医） ・ 薬剤の基礎知識と管理（R5.6、看護師） ・ がん薬物療法の安全な実施のための取組み（R6.2、全職員） | |
| ③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成（有・無） ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 手順書に基づく業務の実施状況を確認するため、リスクマネージャーを通して各部門への定期確認を行っている（R5年度：6・9・12・3月） | |
| ④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備（有・無） <ul style="list-style-type: none"> 薬剤部での禁忌・適応外使用等の情報収集 R5年度 212件（禁忌：93件、適応外：119件） ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： <ul style="list-style-type: none"> 【未承認薬の使用】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 真菌性眼内炎、真菌性角膜炎に対するポリコナゾール点眼液1%の使用 【適応外使用】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 腹膜透析関連腹膜炎治療における抗菌薬・抗真菌薬の腹腔内投与 ・ パクリタキセルの小細胞肺癌に対する投与 ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 院内の体制 <ul style="list-style-type: none"> 未承認薬等の医薬品は、未承認新規医薬品等評価部・未承認新規医薬品等評価委員会により審査、承認する体制としている。審査は使用根拠や使用経験、安全性に基づくレベル別審査としており、未承認等の医薬品の使用に関しては評価部事務局で使用状況等をモニタリングする体制としている。 薬剤師の関与 <ul style="list-style-type: none"> 未承認新規医薬品等評価部に薬剤師（副評価部長、専門委員、事務局）が参画している。 また、薬剤師が収集した情報はDI室で集約し、医薬品安全管理責任者と共有の上、未承認新規医薬品等評価部に報告している。 | |

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための
体制の確保に係る措置

| | |
|---|--------|
| ① 医療機器安全管理責任者の配置状況 | 有・無 |
| ② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況 | 年 21 回 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 主要品目（麻酔器を含む）を中心とした研修 放射線業務従事者向け放射線安全取扱い講習会 新規導入装置に対する取り扱い研修 医療機器の使用方法に関する事項 医療機器の使用に関して特に法令上順守すべき事項 | |
| ③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 主要品目（麻酔器を含む）を中心とした点検（メーカー点検を含む）の実施 医療機器年間保守点検実施計画に則りメーカー点検簿に基づいた定期点検の実施 中央管理機器の年間保守点検計画に則り汎用医療機器の定期点検の実施 | |
| ④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：無し ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 汎用医療機器の安全使用のための管理の継続 ①使用前と使用後機器を明確に区別するための点検・整備識別テープ導入による管理 ②臨床工学技士による外来設置医療機器機器ラウンドの実施 ③日常点検表に基づいた使用者による外来医療機器の日常点検の実施 | |

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

| | |
|--|------------|
| ① 医療安全管理責任者の配置状況 | 有・無 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 責任者の資格 (医師・歯科医師) ・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 <p style="margin-left: 20px;">：別紙②横浜市立大学附属病院における医療安全管理に関する基本指針 組織図の通り</p> | |
| ② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況 | 有 (2名) ・ 無 |
| <p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 <ul style="list-style-type: none"> DI 室に担当者を3名配置し、情報収集・発信 【収集・発信情報の例】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品等安全性情報、添付文書改訂情報、DI Up date (適応症の追加などの月刊情報)：病院情報システムのお知らせに掲示 ・ 医薬品適正使用情報：随時発行 ・ 採用医薬品集：附属病院マニュアル等一覧に掲示、随時更新 ・ 薬事委員会速報：奇数月に速報、偶数月に追補版を病院情報システムのお知らせに掲示 ・ 禁忌・適応外医薬品情報収集報告 (DI 室での情報収集体数)：R5 年度 212 件 (禁忌：93 件、適応外：119 件) ・ 医薬品安全性情報報告書 (PMDA に報告)：R5 年度 17 件 ・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 <p>未承認薬等の医薬品は、未承認新規医薬品等評価部・未承認新規医薬品等評価委員会により審査、承認する体制としている。審査は使用根拠や使用経験、安全性に基づくレベル別審査としており、未承認等の医薬品の使用に関しては評価部事務局で使用状況等をモニタリングする体制としている。</p> ・ 担当者の指名の有無 (有・無) ・ 担当者の所属・職種 (未承認新規医薬品等評価部)： <ul style="list-style-type: none"> (所属：呼吸器内科, 職種 医師) (所属：手術部, 職種 医師) (所属：薬剤部, 職種 薬剤師) (所属：輸血細胞治療部, 職種 医師) (所属：がんゲノム診断科, 職種 医師) (所属：小児科, 職種 医師) (所属：医療の質向上・安全管理センター, 職種 薬剤師) (所属：看護部 , 職種 看護師) (所属：ME センター , 職種 臨床工学技士) (所属：薬剤部 , 職種 薬剤師) (所属：総務課 , 職種 事務) | |
| ④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況 | 有・無 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無) ・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容 <p style="margin-left: 20px;">：ガイドラインに則した監査の実施及び監査結果の報告</p> | |
| ⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況 | 有・無 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 【確認を行うメンバー】 <量的監査> ・ 診療情報管理士 (2名) | |

<質的監査>
 ・診療録管理委員会メンバー（17名）
 ・診療録管理小委員会メンバー（39名）
 ・看護情報委員会メンバー（25名）
 ・診療情報管理士（2名）

【実施時期】
 <量的監査>
 毎月

<質的監査>
 6月～1月の間に3クール実施（計18診療科）
 ※自己監査、事務局精査および第三者評価、フィードバック、改善取り組みの4工程をそれぞれ1ヶ月ごとに実施し、その4ヶ月を1クールとして、年間3クール実施

【確認方法】（結果のフィードバック、改善状況の確認を含む）
 <量的監査>
 サマリー作成、研修医記事承認、医師事務作業補助者記事承認、DPC記事の承認のデータ抽出し、割合を算出している。毎月の診療記録管理委員会で報告しており、部長会へも報告している。状況が良くない診療科に対しては個別にフィードバックしている。

<質的監査>
 監査実施回数：1診療科あたり 1回/年
 監査症例数：1診療科あたり 約5症例/回

1. 診療科医師（診療録管理小委員）、病棟看護師（看護情報委員）、コメディカルによる自己監査
2. 管理士による事務局監査
3. 診療録管理委員会メンバーによる第三者監査
4. その結果を実施者へフィードバック
5. 実施者は一か月間の改善取り組みを実施し、事務局へ報告

全体の進捗は診療記録管理委員会で報告している。

⑥ 医療安全管理部門の設置状況 有・無

・所属職員：専従（5）名、専任（2）名、兼任（12）名
 うち医師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（5）名
 うち薬剤師：専従（2）名、専任（0）名、兼任（0）名
 うち看護師：専従（1）名、専任（1）名、兼任（1）名 ※兼任者1名は周麻酔期看護師
 （注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

事務：専従（1）名、専任（1）名、兼任（2）名
 臨床工学技士：専従（0）名、専任（0）名、兼任（1）名
 放射線技師：専従（0）名、専任（0）名、兼任（1）名
 臨床検査技師：専従（0）名、専任（0）名、兼任（1）名
 CRC：専従（0）名、専任（0）名、兼任（1）名

・活動の主な内容：
 医療に係る安全管理対策の推進、医療に係る安全管理についての情報収集、分析、評価等に関する業務を行う。

- ・安全管理対策委員会、リスクマネージャー会議等の運営
- ・インシデント、アクシデント発生時の報告管理、再発防止策の検討
- ・医療安全のための職員教育、研修実施
- ・説明同意による患者・家族と医療従事者間の情報共有
- ・患者からの相談等への対応
- ・外部監査受審
- ・医療の質・安全に資するモニタリング実施
 中心静脈穿刺同意書取得率、中心静脈穿刺早期合併症発症率、中心静脈穿刺X線確認実施率、中

心静脈穿刺超音波使用率、死亡症例数、手術関連死亡症例数、手術患者の血栓予防率、術後肺血栓症発生率、アレルギー情報入力率、入院患者転倒転落発生率、入院患者転倒転落レベル別発生件数、重要フラグ付き画像診断報告書患者対応実施率、病理結果未確認率、術前 VTE スクリーニングテンプレート入力率、VTE リスク分類・対策指示テンプレート入力率

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（13 件）、及び許可件数（12 件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）
- ・活動の主な内容：
 1. 申請案件の審査
 2. 申請、審査手続きに関する整備
 3. 承認された高難度新規医療技術の実施状況の確認（モニタリング）
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（43 件）、及び許可件数（32 件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（・無）
- ・活動の主な内容：
 1. 申請案件の審査
 2. 申請、審査手続きに関する整備
 3. 承認された高難度新規医療技術の実施状況の確認（モニタリング）
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 258 件（外来死亡、死産除く）
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 588 件（オカレンス：564 件、3b 事例 24 件）

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

全死亡患者の診療記録を原則 24 時間以内に医療の質・安全管理部で確認し、病院長に報告を行う。医療事故に該当する可能性のある死亡及び 3 b 事例に関しては院内医療事故会議を開催し、事例の検討を行い、安全管理対策委員会で報告する。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（（病院名：島根大学医学部附属病院）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（（病院名：神戸大学医学部附属病院）・無）
- ・技術的助言の実施状況：特になし（直ちに改善が必要な点として特に指摘すべき事項なし）

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

患者相談窓口を患者サポートセンター内に設けており、専従看護師を常時配置して相談を受け付けている。担当者は患者からの申し出を聴取し、簡易なものについてはその場で説明・回答し、重大なものは医事課医事調整担当者へ引きつぎ対応している。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

平成 28 年度に「教職員研修委員会」を設置し、研修年間計画を策定するほか、病院として研修受講歴の一元的な管理に取り組んでいる。

中でも、医療安全講演会(研修会)は年 4 回開催しており、医療安全の基本的な考え方やインシデント事例をふまえた具体的対策・改善等に関して研修を実施している。各講演会では参加者アンケートを実施しており、学習効果の測定も合わせて行っている。

また、多職種による連携と協働を推進するための取組みとしては、平成 26 年度から TeamSTEPS 研修を開催しており、毎年新採用職員を中心に、当院で働くすべての教職員が受講できるようにしている。

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

公益財団法人日本医療機能評価機構主催研修を受講

遠藤 格 (管理者/病院長) 新任・今年度受講予定 (申込済)

稲葉 裕 (医療安全管理責任者) 新任・今年度受講予定 (申込済)

佐橋 幸子 (医薬品安全管理責任者) 継続・6時間 2023年12月15日受講

水野 祐介 (医療機器安全管理責任者) 継続・6時間 2023年2月24日受講

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

2022年1月に病院機能評価 3rdG:ver. 2 認定

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

当院ホームページで公表しています。

・評価を踏まえ講じた措置

1, 説明と同意の文書について、電子カルテ「科セット」文書の見直し(一定期間見直されていない文書の修正および使用実績のないものの削除)や電子カルテに掲載されていなかった文書の掲載を行った。また、IC テンプレート使用や、同席できない場合のその後の反応・理解度を確認する記録などを監査し、該当診療科・病棟へ監査結果を伝え、改善指導を行った。

2, クリニカルパスについて、クリニカルパス委員会で決定したフローに沿って、解析シートを作成しデータ分析を実施した。また、医療の質向上委員会が中心となり、褥瘡発生率について、起因する弾性ストッキングに関する調査や看護職員教育を行い、緩やかに改善傾向となった。

3, 高難度新規医療技術および未承認新規医薬品等の適応外使用について、評価のフロー体制を見直し、モニタリング体制を強化した。

4, ルート・ドレーンの誤認防止対策について、カラーシリンジを継続運用し、誤接続防止コネクタを導入した。あわせて医療安全マニュアルを改訂した。

5, BLS 訓練について、「心肺蘇生講習に関する実施方針」および「別紙_心肺蘇生講習受講管理の手引き」を策定し、継続的に BLS 訓練を実施し受講管理を行った。

6, 周術期の抗菌薬の使用について、感染対策マニュアルの術式別の予防的抗菌薬について改訂した。また、術後の長期投与のモニタリングを開始した。

さらに、病院機能評価 3rdG 認定の本院附属 2 病院間で、定期的に全項目の自己評価調査票ピアレビューを実施し、改善活動状況の確認と改善活動の継続に取り組みます。

(注) 記載時点の状況を記載すること

令和5年度安全管理研修の開催状況

| 研修名 | 開催日 | 対象者 | 参加数 | 研修時間 | 研修内容 |
|---------------------------|------------------------------|------------------------------|-------|-----------------|---|
| 新入職者研修 | 4月3日 | 新採用・ 転入者 | 111人 | 各コンテンツ 1.0時間 | <ul style="list-style-type: none"> ・知っておきたい医療安全の知識 ・感染対策について ・医療機器総論 ・医薬品の安全管理 ・放射線診療における医療安全 ・手術における医療安全 ・医療安全について ・コンプライアンス・個人情報保護について ・臨床倫理について ・診療記録の記載について ・特定機能病院と地域連携について ・保険医療機関の義務について ・患者対応・接遇、患者の権利について ・附属病院の組織・労務管理・ハラスメントについて ・臨床研究について ・研修医の指導について |
| | 4月5日 | | | | |
| | 4月1日～3月31日 | | 234人 | | |
| 復職者研修 | 4月1日～3月31日 | 復職者 | 19人 | 各コンテンツ 1.0時間 | <ul style="list-style-type: none"> ・知っておきたい医療安全の知識 ・感染対策について ・医療機器総論 ・医薬品の安全管理 ・手術における医療安全 ・医療安全について(動画講義) ・コンプライアンス・個人情報保護について ・臨床倫理について ・診療記録の記載について ・附属病院の組織・労務管理・ハラスメントについて |
| 令和5年度第1回 医療安全講演会 | 4月11日～3月31日 (e-Learning) | 新採用・ 転入者必須 全職員 | 1013人 | 1.0時間 | ・附属病院の医療安全の歩み |
| 令和5年度第2回 医療安全講演会 | 7月28日～9月30日 (e-Learning) | 全職員 | 1885人 | 1.0時間 | <ul style="list-style-type: none"> ・安全な鎮静管理に役立つ知識とその実践 ・医療事故の再発防止に向けた提言第16号の紹介 |
| 令和5年度第3回 医療安全講演会 | 12月26日～3月31日 (e-Learning) | 全職員 | 1643人 | 1.0時間 | <ul style="list-style-type: none"> ・ラピッドレスポンスチームの活動 ・2022年12月実施執刀前タイムアウト見直しの効果測定について |
| 令和5年度第4回 医療安全講演会 | 2月19日～3月31日 (e-Learning) | 全職員 | 1913人 | 1.0時間 | <ul style="list-style-type: none"> ・医療放射線安全研修 ・医薬品安全管理研修 |
| TeamSTEPPS研修 | 11月2日 | 全職員 | 80人 | 1.5時間 | 参加型医療安全研修 |
| | 1月10日 | | 74人 | | |
| | 1月19日 | | 75人 | | |
| 中心静脈カテーテル 講習会 | 5月18日 | 医師、 研修医、 特定行為認 定看護師 | 27人 | 1.0時間 | 講義、シミュレーターを使用した実技演習 |
| | 5月19日 | 27人 | 1.0時間 | | |
| PICC講習会 | 6月30日 | 医師、 研修医、 特定行為認 定看護師 | 4人 | 1.0時間 | 講義、シミュレーターを使用した実技演習 |
| 【新採用者】オリエン テーション・ステップ1 | 4月5日 | 新人 | 63人 | 7.5時間 | <p>【オリねらい】 横浜市立大学附属病院の看護職として自覚し、自立に向けた1年間をイメージすることができる。</p> <p>【ステップ1ねらい】 社会人基礎力を学び、社会人、看護専門職としての自覚をもつことができる</p> |
| 【新採用者】オリエン テーション・ステップ1 | 4月6日 | 新人 | 62人 | 7.5時間 | 【オリねらい】 横浜市立大学附属病院の看護職として自覚し、自立に向けた1年間をイメージすることができる。 |

| 研修名 | 開催日 | 対象者 | 参加数 | 研修時間 | 研修内容 |
|--|-------|-----|-----|-------|--|
| 【新採用者】オリエンテーション | 4月7日 | 新人 | 61人 | 7.5時間 | <p>【目的】 横浜市立大学附属病院の雰囲気、看護師の仕事を体感し、自分が働く姿をイメージする。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ケアの受け手の療養環境が分かる。 2. 看護提供方式 (PNS) が分かる。 3. 専門職として、社会人として必要な態度、姿勢が分かる。 4. チーム医療を推進するために、看護師の役割が分かる。 5. 横浜市立大学附属病院のCOVID-19 感染防止策が分かる。 |
| 【新採用者】インターンシップ | 4月10日 | 新人 | 63人 | 7.5時間 | <p>【目的】 横浜市立大学附属病院の雰囲気、看護師の仕事を体感し、自分が働く姿をイメージする。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ケアの受け手の療養環境が分かる。 2. 看護提供方式 (PNS) が分かる。 3. 専門職として、社会人として必要な態度、姿勢が分かる。 4. チーム医療を推進するために、看護師の役割が分かる。 5. 横浜市立大学附属病院のCOVID-19 感染防止策が分かる。 |
| | 4月11日 | | 63人 | | |
| 【ステップ2】感染予防対策・看護と安全・ハイリスク薬・フィジカル1 | 4月14日 | 新人 | 63人 | 7.5時間 | <p>【感染】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 感染対策に必要な知識を学び、状況に応じた標準予防策を知る 2. 注射調剤時の安全な針の取り扱いと清潔操作を学ぶ <p>【安全】患者誤認防止の基本を知り、マニュアルに準じた患者確認を学ぶ</p> <p>【ハイリスク】ハイリスク薬に関する取り扱い方法や注意点を学ぶ</p> <p>【バイタルサイン】バイタルサインの基本を再学習し、患者の状態変化を見る視点を学ぶ</p> |
| 【ステップ2】酸素・吸引・輸液(シリンジポンプ・輸液ポンプの取り扱い) | 4月15日 | 新人 | 63人 | 7.5時間 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 酸素吸入療法の基本的知識を学ぶ。 2. 吸引(気管・口腔・鼻腔)に必要な基本的知識を学ぶ。 |
| 【ステップ2】身体抑制・滅菌操作・膀胱留置カテーテル・移送・移乗・更衣・保清 | 4月17日 | 新人 | 63人 | 7.5時間 | <p>【抑制】行動制限の基礎知識を学び、当院の基準に沿った身体抑制の実施と管理について知る。</p> <p>【膀胱留置カテーテル】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 標準予防策に必要な基礎知識と技術を習得する。 2. 膀胱留置カテーテル挿入時、留置中の感染対策を学ぶ。 <p>【移送・移乗】療養生活場面で必要となる体位変換、移送・移乗の知識・技術を学ぶ。</p> <p>【更衣・保清】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 全身清拭の目的・手順を知り、経験できる。 2. 寝衣交換の目的・手順を知り、経験できる。 |
| 【ステップ2】静脈血採血・インスリン製剤 | 4月21日 | 新人 | 61人 | 3.8時間 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 静脈血採血に必要な基本的知識を得て、患者の安全に配慮した採血技術手順を学ぶ。 2. 取り扱いが多いインスリンの種類や特徴を知り、取り扱い方法を学ぶ。 |
| 【ステップ2】輸血療法 | 4月21日 | 新人 | 33人 | 3.8時間 | 輸血療法の目的、輸血用血液製剤の特徴や管理方法を学び、安全な輸血手順を知る。 |
| | | | 28人 | | |
| 【新採用者】摂食嚥下・看護記録・スキンケア・針刺し予防・こころと身体 | 5月15日 | 新人 | 41人 | 7.5時間 | <p>【ねらい】</p> <p>《針刺し予防》 針刺し防止対策を理解し、部署で実践する。</p> <p>《スキンケア》 褥瘡の発生要因やリスクアセスメント、褥瘡予防ケアを学ぶ。</p> <p>《こころと身体》 自分自身の心と身体の状態を確認し、心と身体の健康を保つための方法を知る。</p> |
| | 5月22日 | | 30人 | | |

| 研修名 | 開催日 | 対象者 | 参加数 | 研修時間 | 研修内容 |
|--|-------|--------|------------|-------|--|
| 【看護管理者】災害看護研修 | 5月23日 | 看護管理 | 9人 | 1.0時間 | 【ねらい】 看護管理者として、災害発生時の初動対応の流れがわかる。 【目標】 1. 災害拠点病院の役割がわかり、当院のBCPを理解する。 2. 災害対策本部の役割を理解し、アクションカードの使用方法がわかる。 3. 防災備品の配置場所がわかる。 |
| 【2年目必須】フィジカルアセスメントⅡ-① &安全な指示確認 &指示受け&ケーススタディ | 6月7日 | ラダーⅠ～Ⅱ | 38人 | 4.0時間 | 【フィジカルねらい】 バイタルサインと患者の身体所見を合わせ、症状・徴候を評価し、看護ケアを考えることができる 【安全ねらい】 1. 看護職が実施する診療補助における医師の指示についての関連法規や法的責任を学ぶ。 2. 医師の指示(包括的指示・具体的指示)の解釈を学ぶ。 3. 指示確認する際に、注意・確認する視点を学ぶ。 4. 指示実行場面での注意・確認する視点を学ぶ。 5. 指示確認・指示実行場面で、起こりやすいインシデント対策を学ぶ。 |
| | 6月15日 | | 25人 | | |
| 【新採用者】看護過程&フィジカルアセスメントⅠ-②&災害看護の基礎&BLSⅠ | 6月30日 | 新人 | 60人 | 7.5時間 | 【看護過程】看護過程を展開する上で、身体面・精神面・社会面のアセスメントに必要な情報がわかる 【フィジカル】フィジカルアセスメントの基礎を学び、根拠に基づいた情報収集から、観察する要点を学ぶ 【災害】災害発生時の対応を理解し、初期対応ができる 【BLS】心肺停止時に適切な心肺蘇生を行うことができる |
| 【2年目必須】フィジカルアセスメントⅡ-② | 7月3日 | ラダーⅠ～Ⅱ | 37人 | 2.0時間 | 【フィジカルねらい】 バイタルサインと患者の身体所見を合わせ、症状・徴候を評価し、看護ケアを考えることができる |
| | 7月11日 | | 30人 | | |
| 【ステップ5】タイムマネジメント&フィジカルアセスメントⅠ-③ &こころと身体③ | 7月10日 | 新人 | 36人 | 7.5時間 | 【タイムマネジメントねらい】 安全で効率的なケアを提供するための時間管理について学ぶ 【フィジカルねらい】 複数人のフィジカルアセスメントを行い、優先度を考えた相談報告ができる 【こころと身体】 自身の心と身体の状況を確認し、健康を保つ |
| | 7月24日 | | 35人 | | |
| BLSⅡ 急変時対応 心肺蘇生ガイドラインと周辺環境調整 | 7月31日 | ラダーⅠ～Ⅱ | 31人 35人 | 3.5時間 | 【ねらい】 ベッドサイドの急変対応がイメージでき、根拠に基づいた蘇生行為が行える |
| 新人研修 CVC(中心静脈栄養)管理研修 | 8月2日 | 新人 | 79人 | 3.8時間 | 1. 中心静脈カテーテル管理の基本的な知識、技術を学ぶ 2. 中心静脈カテーテル管理に関連したリスクを知り、合併症予防とトラブル時の対処方法を学ぶ |

| 研修名 | 開催日 | 対象者 | 参加数 | 研修時間 | 研修内容 |
|-------------------------|--------|--------------|-----|-------|--|
| フィジカルアセスメント2.5 中級編 | 8月17日 | ラダー I ~ II | 43人 | 2.5時間 | <p>患者の徴候や症状から意図的な情報収集を行い、患者の病態変化を判断し、根拠に基づく看護を考えることができる</p> <p>1. 患者の状態把握に必要なフィジカルアセスメントの知識を学ぶ</p> <p>2. 複数の事例を通して、フィジカルアセスメントを行い、患者の徴候や症状から病態を判断でき、今後起こりうる状態を推測できる</p> <p>3. 患者の徴候や症状、バイタルサインから病態変化を判断し、必要な看護を考えることができる</p> <p>4. 患者の状態から推測できる病態変化を考えた上で、医師へ報告できる</p> |
| | 10月30日 | | 47人 | | |
| BLSⅢ | 8月24日 | ラダー II ~ III | 42人 | 4.0時間 | <p>効果的なチームダイナミクスを発揮し、急変時対応が行える</p> <p>1. JRC2020ガイドラインに基づいた急変時のアルゴリズムが理解できる</p> <p>2. 部署で遭遇しやすい成人・小児の急変患者事例の演習を通して、患者の状態の評価・報告・初期対応ができる</p> <p>3. 急変時のリーダー役割や他スタッフへの適切な指示が行える</p> <p>4. チームダイナミクスに必要な要素を学ぶ</p> <p>5. デブリーフィングにおいて、指導的役割を担い、自己・他者の行動変容に繋げるファシリテーションができる</p> |
| | 9月22日 | | 40人 | | |
| 公開研修「呼吸管理」 | 8月30日 | ラダー I ~ II | 22人 | 3.5時間 | <p>人工呼吸管理の基本的知識と管理を学び、必要な看護ケアを考えることができる</p> <p>1. 人工呼吸器の適応と基本の換気モードが理解できる</p> <p>2. 人工呼吸器装着患者の看護やリハビリについて学ぶことができる</p> |
| 針刺し防止(9月)③ | 9月4日 | 新人 | 59人 | 1.0時間 | <p>針刺し防止対策を理解し、部署で実践する</p> <p>1. 臨床での具体的な針刺し防止対策を学び針刺しリスクを考えることができる</p> <p>2. 針を扱う危機意識をもち、針刺しが起こりやすい場面をイメージして対策を考えることができる</p> <p>3. 安全装置付き翼状針の正しい使用方法を学び、演習できる</p> |
| 公開研修「呼吸管理」 | 9月12日 | ラダー II ~ V | 15人 | 2.0時間 | <p>人工呼吸管理の基本的知識と管理を学び、必要な看護ケアを考えることができる</p> <p>呼吸不全患者の事例を通して看護ケアについて考えることができる</p> |
| CVポート管理研修(初回登録) | 9月21日 | ラダー II ~ V | 21人 | 2.0時間 | <p>CVポート管理の基本的知識、穿刺・抜針の技術を習得する</p> <p>1. CVポートの基礎知識、合併症について知る</p> <p>2. CVポートの管理に関連するトラブルについて理解し、予防と対処方法がわかる</p> <p>3. CVポート挿入患者の看護と患者・家族指導の方法がわかる</p> <p>4. CVポートの穿刺・抜針の手順・手技を理解し、実技を習得する</p> |
| 【オンデマンド】急変の予測と救命救急場面の対応 | 9月26日 | ラダー II ~ III | 7人 | 2.0時間 | <p>ラダーレベルⅢ到達のために、事例を通して4つの力を学習し実践に活用できる</p> <p>急変を予測するための視点を学ぶ。また、救命救急場面におけるリーダーシップについて学ぶ。</p> |
| 【2年目必須】フィジカルアセスメントⅡ-③ | 10月3日 | ラダー I ~ II | 33人 | 2.0時間 | <p>【フィジカルねらい】</p> <p>バイタルサインと患者の身体所見を合わせ、症状・徴候を評価し、看護ケアを考えることができる</p> |
| | 10月31日 | | 34人 | | |
| CVC管理実施登録更新研修 | 10月10日 | ラダー I ~ V | 19人 | 1.0時間 | <p>「中心静脈カテーテル挿入と管理マニュアルVer.9.3(令和5年1月版)」に則って、中心静脈(CVC)カテーテル管理の実施者に対し、必要な知識教育や技術更新研修を行う</p> |
| | 10月24日 | | 11人 | | |
| | 11月28日 | | 28人 | | |
| | 12月5日 | | 41人 | | |
| | 12月19日 | | 46人 | | |
| | 1月16日 | | 59人 | | |
| | 1月30日 | | 34人 | | |

| 研修名 | 開催日 | 対象者 | 参加数 | 研修時間 | 研修内容 |
|-----------------------------|--------|--------|-----|-------|--|
| BLS技術更新 | 10月13日 | ラダーⅡ～Ⅲ | 20人 | 1.0時間 | 心肺停止時に適切な心肺蘇生を行うことができる 1.緊急時に応援を呼ぶことができる 2.心肺蘇生を開始することができる 3.AEDを安全に使用することができる |
| | 10月27日 | | 16人 | | |
| | 11月10日 | | 22人 | | |
| | 11月17日 | | 20人 | | |
| | 12月22日 | | 15人 | | |
| | 1月12日 | | 14人 | | |
| | 1月26日 | | 12人 | | |
| | 2月2日 | | 19人 | | |
| | 12月4日 | | 12人 | | |
| | 12月27日 | | 16人 | | |
| 【オンデマンド】急変の予測と救命救急場面の対応 | 10月20日 | ラダーⅠ～Ⅴ | 5人 | 2.0時間 | ラダーレベルⅢ到達のために、事例を通して4つの力を学習し実践に活用できる 急変を予測するための視点を学ぶ。また、救命救急場面におけるリーダーシップについて学ぶ。 |
| | 12月14日 | | 4人 | | |
| 【特定行為研修:オンデマンド】呼吸困難 | 11月1日 | ラダーⅠ～Ⅴ | 6人 | 1.0時間 | 特定行為研修で使用しているフィジカルアセスメント、臨床推論、疾病・臨床病態概論のe-learningを通して学習し、実践に活用することができる ・呼吸困難の鑑別疾患について学ぶ |
| | 12月26日 | | 26人 | | |
| 【特定行為研修:オンデマンド】肺炎 | 11月8日 | ラダーⅠ～Ⅴ | 7人 | 1.0時間 | 特定行為研修で使用しているフィジカルアセスメント、臨床推論、疾病・臨床病態概論のe-learningを通して学習し、実践に活用することができる ・肺炎の定義、診断、重症度の評価、起炎菌の同定、治療、予防について学ぶ |
| | 12月15日 | | 29人 | | |
| 【看護管理者】①看護管理者の医療安全管理研修 | 11月14日 | 看護管理者 | 29人 | 2.0時間 | 医療安全管理事例の分析方法を学び、部署におけるリスクマネージャーとしての活動に活かすことができる |
| 【特定行為研修:オンデマンド】身体診察基本手技 | 11月14日 | ラダーⅠ～Ⅴ | 32人 | 1.0時間 | 特定行為研修で使用しているフィジカルアセスメント、臨床推論、疾病・臨床病態概論のe-learningを通して学習し、実践に活用することができる ・身体診察の基本的な診察手技について学ぶ |
| | 12月22日 | | 16人 | | |
| フィジカルアセスメントⅢ 上級編 | 11月16日 | ラダーⅡ～Ⅲ | 41人 | 3.5時間 | 1. 急変に結び付く危険な兆候に気づき、患者の状態を正しく把握することができる 2. 演習を通して急変時の初期対応について学ぶ 1.『危険な兆候(キラースイグナル)』に気づき、フィジカルイグザミネーションを用いたアセスメントができる 2. 迅速評価、一次評価、二次評価の方法について理解する 3. 患者の変化をISBARCを用いて報告できる 4. 演習を通して患者状態の評価・報告・初期対応までの流れを体験する |
| BLSⅣ「急変時対応発見から蘇生まで」 | 11月21日 | ラダーⅢ～Ⅴ | 16人 | 3.5時間 | 急変対応に関する指導的役割が担える 1. JRC2020ガイドラインに基づいた、急変時の初動対応ができる 2. 院内急変対応の指導方法を理解し、課題を共有することができる |
| 【特定行為研修:オンデマンド】全身状態とバイタルサイン | 11月22日 | ラダーⅠ～Ⅴ | 28人 | 1.0時間 | 特定行為研修で使用しているフィジカルアセスメント、臨床推論、疾病・臨床病態概論のe-learningを通して学習し、実践に活用することができる ・全身状態とバイタルサインの関連について学ぶ ・致命的胸痛を想起し、鑑別を意識した病歴聴取と検査の組み立てについて学ぶ |
| 看護助手 BLS技術更新 | 12月13日 | 助手 | 86人 | .5時間 | 心肺停止時に適切な心肺蘇生を行うことができる 1.緊急時に応援を呼ぶことができる 2.心肺蘇生を開始することができる 3.AEDを安全に使用することができる |
| 災害看護(公開研修) | 1月24日 | ラダーⅠ～Ⅴ | 21人 | 3.5時間 | 災害時の地域特性を理解し、病院施設の対応がわかる 1.災害医療・災害看護の基礎知識を理解する 2.災害発生時の病院施設の役割を理解する 3.ハザードマップを使用し、地域特性を理解する 4.災害発生時の初期対応がわかる |
| 【看護管理者】②看護管理者の医療安全管理研修 | 1月30日 | 看護管理 | 17人 | 2.0時間 | 医療安全管理事例の分析方法を学び、部署におけるリスクマネージャーとしての活動に活かすことができる |

| 研修名 | 開催日 | 対象者 | 参加数 | 研修時間 | 研修内容 |
|------------------------|----------------------------|---|------------|-------|---|
| BLS技術更新 | 2月16日 | ラダーⅠ～Ⅴ | 9人 | 1.0時間 | 心肺停止時に適切な心肺蘇生を行うことができる 1.緊急時に応援を呼ぶことができる 2.心肺蘇生を開始することができる 3.AEDを安全に使用することができる |
| 放射線部新採用職員 医療安全研修 | 4月5日 | 新採用職員 | 1人 | 1時間 | 患者確認方法、インシデント、ドクターコール、感染対策等、放射線部内で運用されている事項の研修 |
| 感染対策・手洗い講習 | 5月16日 | 新採用職員 放射線部職員 | 8人 | 1時間 | 感染対策方法(ガウンテクニックと手洗い方法について) |
| 危険予知トレーニング | 6月29日 | 新採用職員 | 1人 | 1時間 | 一般撮影室における危険予知トレーニング |
| 災害時避難訓練 | 7月11日 | 一般撮影担当 放射線技師 | 14人 | 1時間 | 一般撮影室における災害時避難訓練(1回目) |
| MR磁場体験 | 7月12日 11月29日 | 看護師他 | 14人 12人 | 1時間 | MR検査室内の強力な磁場を体験し、患者の安全を確保する |
| 災害時避難訓練 | 8月22日 | 一般撮影担当 診療放射線技師 | 14人 | 1時間 | 一般撮影室における災害時避難訓練(2回目) |
| 災害時避難訓練 患者急変時訓練 | 11月14日 | 医師・看護師・ 診療放射線技師 | 20人 | 1.5時間 | CT検査室における災害時避難訓練・患者急変時訓練 |
| 災害時避難訓練 | 12月6日 | 医師・看護師・ 診療放射線技師 | 18人 | 1時間 | 透視検査室における災害時避難訓練・患者急変時訓練 |
| 災害時避難訓練 | 12月14日 | 医師・看護師・ 診療放射線技師 | 30人 | 1時間 | 地下2階放射線部合同災害時避難訓練 |
| 災害時避難訓練 患者急変時訓練 | 12月15日 | 医師・看護師・ 診療放射線技師 | 16人 | 1.5時間 | 血管撮影室における急変時訓練 |
| 危険予知トレーニング | 1月30日 | 新採用職員 | 1人 | 1時間 | 安全確認ポイントの確認。新採用職員のヒヤリハット事例紹介 |
| RI規制法に係る業務 従事者の教育訓練 | 1月4日～2月29日 (e-Learning) | RI・治療・小線 源治療室にお いて放射線取 扱業務に従事 する者 | 114人 | 1時間 | 放射性同位元素を安全に使用するための知識・安全講習 |

| 研修名 | 開催日 | 対象者 | 参加数 | 研修時間 | 研修内容 |
|--------------------------------|-----------------------------------|------------------|-----|------|-------------------------------|
| 特定放射性同位元素防護 従事者のための教育訓練（継続者対象） | 11月17日～1月31日 日 (e-Learning) | 特定放射性同位元素に関する従事者 | 15人 | 2時間 | 特定放射性同位元素を安全に使用するための知識・医療安全演習 |

| 研修名 | 開催日 | 対象者 | 参加数 | 研修時間 | 研修内容 |
|-------------------|-----------------------------|-------------------------|------|---------------------|--|
| 新入職者入職時研修 | 4月1日～3月31日 (e-Learning) | 研修医・看護師 ・薬剤師・その他医療職員 | 383人 | — | 医薬品の安全管理 |
| 研修医オリエンテーション | 4月1日～4月30日 (e-Learning) | 研修医 | 68人 | — | 麻薬の取り扱いについて |
| 新人看護師研修 | 4月14日 | 看護師 | 63人 | 60分 | ハイリスク薬について |
| 血管確保研修 | 6月12日 | 看護師 | 61人 | 60分 | 薬剤の基礎知識と管理 |
| 補助循環装置 定期研修第1回 | 7月1日～10月31日 (e-Learning) | 医師 看護師 臨床工学技士 | 177人 | e-Learning/ 資料配布 | ECMO・IABP・IMPELLA概要、機器・材料配置状況 |
| 補助循環装置 定期研修第2回 | 11月1日～2月29日 (e-Learning) | 医師 看護師 臨床工学技士 | 177人 | e-Learning/ 資料配布 | IABP装置CARDIO SAVE概要、取り扱い説明、トラブルシューティング |
| 人工呼吸器 定期研修第1回 | 7月1日～10月31日 (e-Learning) | 医師 看護師 臨床工学技士 | 186人 | e-Learning/ 資料配布 | 当院における機器配置状況、トラブル事例紹介 |
| 人工呼吸器 定期研修第2回 | 11月1日～2月29日 (e-Learning) | 医師 看護師 臨床工学技士 | 183人 | e-Learning/ 資料配布 | ポータブル人工呼吸器の取り扱い説明 |
| 血液浄化装置 定期研修第1回 | 7月1日～10月31日 (e-Learning) | 医師 看護師 臨床工学技士 | 188人 | e-Learning/ 資料配布 | HD原理、トラブルシューティング |
| 血液浄化装置 定期研修第2回 | 11月1日～2月29日 (e-Learning) | 医師 看護師 臨床工学技士 | 187人 | e-Learning/ 資料配布 | CHDFの原理、TR-2020と55Xシリーズの違い |
| 除細動装置 定期研修第1回 | 7月1日～10月31日 (e-Learning) | 医師 看護師 臨床工学技士 | 239人 | e-Learning/ 資料配布 | 除細動器使用方法、トラブル対応 |
| 除細動装置 定期研修第2回 | 11月1日～2月29日 (e-Learning) | 医師 看護師 臨床工学技士 | 236人 | e-Learning/ 資料配布 | 除細動概要、トラブル対応 |
| 閉鎖式保育器 定期研修第1回 | 7月1日～10月31日 (e-Learning) | 医師 看護師 臨床工学技士 | 88人 | e-Learning | 閉鎖式保育器概要 |
| 閉鎖式保育器 定期研修第2回 | 11月1日～2月29日 (e-Learning) | 医師 看護師 臨床工学技士 | 83人 | e-Learning/ 資料配布 | 閉鎖式保育器概要、トラブル対応 |
| 麻酔器 定期研修第1回 | 7月1日～10月31日 (e-Learning) | 医師 看護師 臨床工学技士 | 56人 | e-Learning/ 資料配布 | 麻酔器概要、Atlan A350使用方法 |
| 麻酔器 定期研修第2回 | 11月1日～2月29日 (e-Learning) | 医師 看護師 臨床工学技士 | 59人 | e-Learning/ 資料配布 | 麻酔器使用方法、トラブル事例紹介 |

様式6-2 別紙②

横浜市立大学附属病院における医療安全管理に関する基本指針

制 定 平成 11 年 10 月 22 日

最近改正 令和 6 年 1 月 22 日

第1条 趣旨

横浜市立大学附属病院（以下「当院」という）は、1999 年の医療事故を契機に医療安全対策に取り組んで来た。また市内唯一の特定機能病院として、診療、教育及び研究の発展に貢献するとともに先端医療を担い、同時に安全な医療を提供する使命を負っている。安全で質の高い医療を提供するためには、医療安全管理を組織の問題として捉え、病院長及び安全管理部を中心としてチーム医療による有機的・組織横断的な体制を構築することが必要である。

そこで当院では、医療安全管理に資する情報共有、組織安全文化の醸成、組織横断的な取り組みの推進、感染制御、医療情報との連携を図り、より質の高い安全な医療の提供を行える体制の構築を目指している。

横浜市立大学附属病院における医療安全管理に関する基本指針（以下「医療安全管理に関する基本指針」という）は、「院内で発生した医療事故・インシデント事例を検討・分析し事故予防対策を立案すること」「検討結果や対策を速やかに職員にフィードバックすること」「医療安全管理に関する職員の教育や啓発に努めること」など具体的な推進方策について定めている。

第2条 基本方針

- 1 職員は、患者中心の医療を実践し、安心して医療を受けることができる環境作りに努める。
- 2 職員は、医療安全管理に関する基本指針を遵守し、医療安全管理や事故防止の取り組みに積極的に参画する。
- 3 職員は、患者と医療従事者、また医療従事者間で診療情報を共有し、安全で質の高い医療の実現を目指す。
- 4 職員は、インシデント発生時、情報の把握に努め、48 時間以内にインシデント報告を行う。
- 5 職員は、医療事故発生時、直ちに必要な処置や患者対応等を行い、所属長、安全管理部長（夜間・休日は病院長代理）に報告するなど迅速に対応する。

第3条 医療安全管理のための組織体制

1 医療の質向上・安全管理センター

当院における医療安全管理に関する全般を統括、推進するために医療の質向上・安全管理センター（以下、「安全管理センター」という）を設置し、医療の質向上・安全管理センター長、医療の質向上・安全管理副センター長を配置する。また安全管理センター内に以下の組織を置く。

(1) 安全管理部

ア 次項で定める安全管理対策委員会の協議に基づいて決定された方針に沿って、当院の医療の質向上及び医療安全管理を組織横断的に推進する。

イ 医療上の事故等及び医療安全管理に関する諸問題を具体的に検討し、医療の安全性の向上を図る。

(2) 高難度新規医療技術評価部

高難度新規医療技術（当院で実施したことのない医療技術（軽微な術式の変更等を除く）であってその実施により患者の死亡その他の重大な影響が想定されるものをいう）を用いた医療を提供するに当たり、必要な事項を定め、審査、実施評価を行い、当院における高難度新規医療技術を用いた医療の適正な提供を図る。

(3) 未承認新規医薬品等評価部

未承認新規医薬品、未承認新規医療機器を用いた医療を提供するに当たり、必要な事項を定め、審査、実施評価を行い、当院における未承認新規医薬品、未承認新規医療機器を用いた医療の適正な提供を図る。

(4) 医療機器安全管理責任者

医療機器の使用に関する安全管理、所有機器管理、保守点検、情報周知及び新規購入時の操作研修など医療機器に関わる全般の管理を行う。

(5) 医薬品安全管理責任者

院内の医薬品に関わる安全管理全般の体制整備、管理運営を行う

(6) 医療放射線安全管理責任者

診療用放射線の利用に関する安全管理全般の体制整備、管理運営を行う。

(7) 組織横断的医療チーム

医療チームは、患者の利益を尊重し、必要に応じて多職種が協働し専門性の高い医療を提供する。

【組織図】



2 医療安全管理担当者及び職

当院の医療安全管理の担当者として、以下の者を置く。

- (1) 医療の質向上・安全管理センター長（統括安全管理者・医療安全管理責任者）
 医療安全対策の統括及び医療の質向上・安全管理センター長として医療安全管理の責任者で、病院長が副院長から指名する。
- (2) 医療の質向上・安全管理副センター長
 医療の質向上・安全管理センター長の指示のもと、安全管理部の運営、業務遂行等の調整を行い、病院長が指名する。
- (3) 安全管理部長（安全管理指導者）
 病院長及び医療の質向上・安全管理センター長を補佐し、医療安全管理指導、改善命令、情報収集や分析、医療安全管理に関する全般の指導、教育を行う。
- (4) 安全管理部兼務医師
 安全管理部長の指示のもと、安全管理部の業務を行う。また安全管理部長不在時は代理を担い、病院長が指名する。
- (5) 医療安全管理者

医療の質向上・安全管理センター長及び安全管理部長等の指示により、医療安全確保のための対策、インシデント・アクシデント発生時の対応、状況把握や分析、防止対策、医療安全に関する相談、助言など医療安全に必要な事項及び関係委員会及び会議の運営を行い、病院長が指名する。

(6) リスクマネジャー

各診療科、部署にリスクマネジャーを置く。リスクマネジャーは、部署の事故防止、インシデント・アクシデントの把握や対応、職場状況の把握、改善、安全管理に関する職員教育、啓発を行い、リスクマネジャー会議の委員を担う。

(7) 安全管理指導者（安全管理部長）補佐

安全管理部長の指示命令を受け、医療安全管理に関する課題を解決するためのプロジェクトにおける推進者（リーダー）となり、病院長が指名する。

(8) 高難度新規医療技術評価部長

高難度新規医療技術を導入する際の手順に従い、手順に基づく対応及びその遵守状況の評価に関する責任者で、病院長が指名する。

(9) 未承認新規医薬品等評価部長

未承認新規医薬品及び未承認新規医療機器等を用いた医療提供の手順に従い、手順に基づく対応及びその遵守状況の評価に関する責任者で、病院長が指名する。

(10) 医療機器安全管理責任者

病院長、医療の質向上・安全管理センター長の指示のもとに、医療機器の使用に関する安全管理のための体制確保に努めるとともに、職員の研修や医療機器の保守点検、安全使用のための情報周知、未承認機器の使用などを管理し、病院長が指名する。

(11) 医療機器安全管理推進担当

医療機器の安全管理を推進するため、医療機器安全管理責任者を補佐する。

(12) 医薬品安全管理責任者

病院長、医療の質向上・安全管理センター長の指示の下に、院内の医薬品に関わる安全管理のための体制の確保及び管理、運営を行い、病院長が指名する。

(13) 医薬品安全管理推進担当

医薬品安全管理責任者を補佐し、院内医薬品安全管理の推進に努める。

(14) 医療放射線安全管理責任者

診療用放射線の利用に関する安全な管理のため、研修の実施、被爆線量の管理、記録、安全利用の改善、放射線診療に関する事例発生時の対応を行い、病院長が指名する。

(15) 放射性医薬品管理者

放射性医薬品の保管・調整・施用及び品質保証に関する安全確保を行い、病院長が指名する。

(16) 特定臨床研究等安全管理者

特定臨床研究等の実施に伴う有害事象の発生への適切な対応に関する業務を行い、病院長が指名する。

第4条 委員会等

医療安全の推進及び医療事故発生時の体制として、安全管理対策委員会、リスクマネジャー会議、横浜市立大学附属病院院内医療事故会議及び横浜市立大学附属病院医療事故調査委員会、高難度新規医療技術評価委員会、未承認新規医薬品等評価委員会、Q I ミーティング（Quality Improvement meeting）を置く。

(1) 安全管理対策委員会

医療の質向上・安全管理センター長を委員長とし、安全管理部長、医療安全管理者、医学・病院統括部長、診療科等の長、看護部長などで構成され、院内の安全管理対策の検討・推進を図り、月1回開催する。詳細については横浜市立大学附属病院安全管理対策委員会要綱で定める。

(2) リスクマネジャー会議

安全管理部長を委員長とし、各部署のリスクマネジャーにより構成する。安全管理対策委員会の方針に基づき、医療安全上の検討や周知を図るとともに、インシデント報告の検討、各部署の安全管理の取組みの発表、討議及び情報の共有化を図り、各部署での医療安全管理を推進するために月1回開催する。なお、リスクマ

ネジャー会議には、短期的な課題を解決することを目的としたワーキンググループを設置することができる。詳細については横浜市立大学附属病院安全管理対策委員会要綱に定める。

- (3) 横浜市立大学附属病院院内医療事故会議
病院長を委員長とし、医療事故の発生原因の調査・報告内容の検証及び再発防止対策の検討指示等及び公表の判断・判定を行う。詳細については横浜市立大学附属病院院内医療事故会議要綱に定める。
- (4) 横浜市立大学附属病院医療事故調査委員会
医療の質向上・安全管理センター長を委員長とし、医療法第6条の11第1項に定める医療事故に該当する事故であると認め、横浜市立大学附属病院院内医療事故会議にて横浜市立大学附属病院医療事故調査委員会の設置を決定した事案、及び法には基づかないものの病院長が必要と認めた当院で発生した医療事故に関して、その原因を明らかにし再発防止のために必要な調査を行う。詳細については横浜市立大学附属病院医療事故調査委員会設置要綱に定める。
- (5) 横浜市立大学附属病院高難度新規医療技術評価委員会
臨床倫理委員会または人を対象とする医学系研究倫理委員会の委員をもって組織し、高難度新規医療技術評価部から意見を求められた当該高難度新規医療技術の提供に関する倫理的、科学的な妥当性、当該高難度新規医療技術を提供することの適切性並びに適切な提供方法について審査を行い、高難度新規医療技術評価部長に意見を述べるができる。詳細については横浜市立大学附属病院高難度新規医療技術評価委員会要領に定める。
- (6) 横浜市立大学附属病院未承認新規医薬品等評価委員会
臨床倫理委員会または人を対象とする医学系研究倫理委員会の委員をもって組織し、未承認新規医薬品等評価部から意見を求められた当該未承認新規医薬品等の使用に関する倫理的、科学的な妥当性、当該未承認新規医薬品等の使用方法について審査を行い、使用の適否、使用条件、使用後に報告を求める症例について未承認新規医薬品等評価部長に意見を述べるができる。詳細については横浜市立大学附属病院未承認新規医薬品及び未承認新規医療機器評価委員会要領に定める。
- (7) 医療放射線管理委員会
医療放射線安全管理責任者を委員長とし、放射線診療のプロトコール管理及び被ばく線量管理並びにこれに付随する業務を行う。年1回定期開催し、その他委員長が認めたとき開催する。
- (8) Q I ミーティング
病院長を長とし、医療の質向上・安全管理センター長、安全管理部長、医学・病院統括部長、看護部長や医療技術部門の長などで組織し、インシデント・アクシデントや自殺企図、患者からの相談意見内容など様々な事象について情報を共有し医療安全対策を検討する。また感染制御部、手術部、患者相談（医事課）等が定期的に報告し情報を共有する。
- (9) 病院運営課題共有ミーティング
病院長を長とし、副院長、医学・病院統括部長、看護部長、他病院運営に関わる職種で構成され、毎朝日々の病院運営や事項について情報共有・検討する。安全管理部から3b以上のインシデント・アクシデント、死亡事例について報告、必要時協議する。

第5条 報告及び再発防止

1 インシデント報告

- (1) インシデントが発生した場合は、原則としてインシデント報告システムを使用し48時間以内に報告を行う。
- (2) 対象とする事例は、日常診療の場で誤った医療行為などが患者に実施される前に発見されたもの、あるいは誤った医療行為などが実施されたが、結果として患者に影響を及ぼすに至らなかったもの、また患者の心身に影響を及ぼしたものすべてである。
- (3) この報告は、報告者の責任を追及し、処罰や人事面の評価に用いるものではない。「誰が〇〇した」ではなく「何が起こったのか」を重視し、背景要因を探り何か改善できるか、改善すべきかを組織上の問題として捉え、医療の安全と質の向上を図るものである。
- (4) 患者影響レベルの高い事例は、医療安全マニュアル「レベル3b以上の事象が発生した場合の初期対応マニュアル」に即して報告する。

※インシデントレベルは、以下の通りである。レベル0～3 aを「インシデント」、レベル3 b以上を「アクシデント」とする。

| レベル | 内容 |
|--------|---|
| レベル0 | 患者には実施されなかった。 |
| レベル1 | 患者に実施され、患者への実害はなかったが、何らかの影響を与えた可能性がある。 |
| レベル2 | 患者に実施され、患者観察の強化、バイタルサインの軽度変化、安全の確認のための検査などの必要性は生じたが、治療や処置は行わなかった。 |
| レベル3 a | 消毒、湿布、皮膚の縫合、鎮痛剤の投与などの、簡単な処置や治療を要した。 |
| レベル3 b | バイタルサインの高度変化、人工呼吸器装着、手術、入院日数の延長、外来患者の入院、骨折など、濃厚な処置や治療をした。 |
| レベル4 a | 永続的な障害や後遺症が残ったが、有意な機能障害や美容上の問題は伴わない。 |
| レベル4 b | 永続的な障害や後遺症が残り、有意な機能障害や美容上の問題を伴う。 |
| レベル5 | 死亡（原疾患の自然経過によるものを除く）。 |

2 事故予防策・再発防止策

- (1) 各部署は、リスクマネージャーが中心となってインシデントの再発防止策について検討する。
- (2) 安全管理部は、当該部署のリスクマネージャーや所属長と連携し事例の分析・再発防止対策にあたる。
- (3) 複数の部署間に関連する問題、当院全体の医療の質に関わる問題などは医療安全管理者ならびに安全管理部長が事例分析の中心となり、必要時には関連部署の関係者を集めて事例検討会を開く。
- (4) 安全管理部は、事例分析と策定した事故予防策案並びに再発防止策案を安全管理対策委員会及びリスクマネージャー会議に報告する。

3 事故予防策・再発防止の職員への周知・徹底、実施、評価

- (1) 安全管理部は、医療事故及びインシデント事例の分析・評価結果や安全管理対策委員会の協議に基づいて決定された事故予防策・再発防止策について、各部門・部署の管理者及びリスクマネージャーを通じて全職員に周知・徹底する。
- (2) 安全管理部は、事故予防策・再発防止策について通知文や院内広報、リスクマネージャー会議、職員研修、講演会、医療安全マニュアル等により全職員に周知・徹底を図る。
- (3) 安全管理部は、可能な限り実施した事故予防策・再発防止策の実施状況及び改善状況を把握し、評価する。

第6条 医療事故発生時の対応

- 1 医療事故が発生した場合は、直ちに医療上必要な処置や患者対応等を行うと同時に、所属長、医療の質向上・安全管理センター長、安全管理部長、総務課長等に速やかに報告する。
- 2 当事者（報告者）は初期対応が落ちついた段階でインシデントレポート及び事例報告書を作成し提出する。

第7条 高難度新規医療技術を用いた医療提供及び未承認新規医薬品等を用いた医療の提供

- 1 高難度新規医療技術を用いた医療の提供や未承認新規医薬品等を使用する場合については、高難度新規医療技術を導入する際の標準的なルールや使用基準に従い、ルールに基づく対応を遵守して実施する。詳細は「横浜市立大学附属病院における高難度新規医療技術を用いた医療提供に関する要綱」、未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合については「横浜市立大学附属病院における未承認新規医薬品及び未承認新規医療機器を用いた医療提供に関する要綱」に定める。
- 2 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合には、関係学会から示される「基本的考え方」、ガイドライン等を参考に実施する。

第8条 説明同意による患者・家族と医療従事者間の情報共有

医療の行為が法的に医療行為と認められるためには「治療を目的とする」「医学上一般に承認された手段・方法でなされる」「患者の同意がある」の条件を満たしている必要があり、以下に説明と同意や情報共有について示す。

(1) 患者への説明と同意

説明と同意に関するガイドラインに基づき、医師等は当院で実施する医療に関して十分な説明を行い、患者の自己決定を支援し、同意を得る必要がある。

(2) 医療安全管理に関する基本指針の閲覧

医療安全管理に関する基本指針は、当院ホームページに掲載し閲覧することができる。また患者・家族から申し出があれば文書として提供することができる。

(3) 診療情報の共有

患者と医療従事者との間で患者の診療情報を共有し、患者自身が自分の病状、病名や診療内容等について十分に理解し、医療上の意思決定や治療効果の向上を図ることができるようにする。また医療従事者間でも患者の診療情報を共有し、的確で安全で質の高い医療を提供することを目指す。

第9条 患者からの相談等への対応

当院に寄せられる患者の意見等について迅速に対応するとともに、患者の意見や要望を聴き、当院の安全管理及び病院運営全般の改善・向上に積極的に活用していくため、医事課に患者相談窓口を設置する。また病院長を始め管理者が情報を把握できる体制を構築する。

第10条 医療安全のための職員教育・研修

安全管理研修の実施評価

(1) 医療安全管理者は、職員研修委員会と連携し、あらかじめ作成した研修計画に従い、概ね6回程度（医療法上定められた医療安全研修2回を含む）職員を対象とした医療安全管理のための教育・研修を企画し実施する。

(2) 教育・研修は職員一人ひとりの安全意識を向上させ、病院全体の安全文化を育むことを目的とする。

(3) 職員は、教育・研修の受講に最大限努めねばならない。

(4) 医療安全管理者は、研修を計画時及び実施時、参加者数や内容の理解などについて評価を行い研修に反映する。

第11条 外部監査

1 附属2病院監査委員会

医療法施行規則第9条の23に準じ、公立大学法人横浜市立大学に、横浜市立大学附属病院及び附属市民総合医療センターにおける医療に関わる安全管理の状況について、中立かつ客観的な立場から監査するために横浜市立大学附属2病院監査委員会を置き、年2回以上開催する。

2 特定機能病院間相互のピアレビュー

特定機能病院である国公立大学附属病院における医療安全管理の改善のため、医療法施行規則の一部を改正する省令（平成28年厚生労働省令第110号）による改正後の医療法施行規則第9条の23第1項第11号の規定に則り特定機能病院間相互のピアレビューを実施する。

第12条 内部通報制度

職員は医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合、倫理及び法令違反行為があった場合は、横浜市立大学の内部通報制度を利用することができる。

第13条 組織横断的医療チームの活動内容の把握及び会務の集約

1 各医療チームの活動内容を把握し、院内に周知し横断的に情報提供を行う。

2 チーム運営に関して、会務を集約しスムーズな運営を支援する。

第14条 その他医療安全の推進

- 1 患者に安全な医療を提供していくため、全ての職員は、医療安全の推進に努める。
- 2 医療安全の取り組みや医療安全管理に関する基本指針等、患者・家族と医療従事者間の情報の共有や、他医療機関の医療の質の向上に役立つ内容を、当院ホームページに掲載する。
- 3 医療安全マニュアルを作成し、随時、改正を行う。改正に当たっては安全管理対策委員会で審議の上、決定する。また、医療安全管理に関する基本指針は全部署に配布するとともに、院内 LAN を通じて閲覧できるようにする。

第15条 医療安全管理に関する基本指針の改正

医療安全管理に関する基本指針の改正は、安全管理対策委員会で審議のうえ決定する。

平成 11 年 10 月 22 日制定
平成 12 年 4 月 1 日改正
平成 13 年 1 月 5 日改正
平成 15 年 3 月 31 日改正
平成 21 年 1 月 26 日改正
平成 25 年 8 月 26 日改正
平成 26 年 8 月 25 日改正
平成 27 年 8 月 1 日改正
平成 27 年 10 月 1 日改正
平成 28 年 11 月 28 日改正
平成 29 年 4 月 1 日改正
平成 30 年 2 月 26 日改正
令和 元年 5 月 27 日改正
令和 2 年 1 月 17 日改正
令和 2 年 4 月 1 日改正
令和 2 年 8 月 24 日改正
令和 3 年 11 月 22 日改正
令和 4 年 1 月 24 日改正
令和 6 年 1 月 22 日改正

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準

・ 基準の主な内容

公立大学法人横浜市立大学附属病院長候補者選考基準に関する規程により規定している。

(選考基準)

第2条 候補者となることのできる者は、次に掲げる要件を満たす者とする。

- (1) 医師免許を有している者
- (2) 医療安全の確保のために必要な資質及び能力を有している者
- (3) 組織管理能力等の当該病院を管理運営するうえで必要な資質及び能力を有している者
- (4) 横浜市立大学附属病院（以下「当院」という。）の使命を遂行するために必要な資質及び能力を有している者

(医療安全)

第3条 前条第2号に定める医療安全の確保のために必要な資質及び能力とは、医療安全管理業務の経験及び患者の安全を第一に考える姿勢及び指導力等をいう。

2 前項に定める医療安全管理業務とは、次のいずれかの業務をいう。

- (1) 医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の業務
- (2) 医療安全管理委員会の構成員としての業務
- (3) 医療安全管理部門における業務
- (4) その他上記に準ずる業務

(管理運営)

第4条 第2条第3号に定める組織管理能力等の当該病院を管理運営するうえで必要な資質及び能力とは、当院又は当院以外での組織管理経験等、高度な医療を司る特定機能病院を管理運営するうえで必要な資質、能力及び経営改善能力等の資質、能力をいう。

(使命遂行)

第5条 第2条第4号に定める当院の使命を遂行するために必要な資質及び能力とは、当院の理念及び基本方針に掲げる事項を継続的かつ確実に推進する姿勢及び指導力等をいう。

・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (有 ・ 無)

・ 公表の方法

大学ホームページにて公開

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

| 前年度における管理者の選考の実施の有無 | | | | 有・無 |
|--|-------------------|---------------|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 ） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 ） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 ） ・ 公表の方法 | | | | |
| 管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由 | | | | |
| 氏名 | 所属 | 委員長 (○を付す) | 選定理由 | 特別の関係 |
| 荒木田 百合 | 横浜市社会福祉協 議会 会長 | | 横浜市副市長などを歴任し、行政 や福祉にかかるその高い見識と経 験は、外部有識者として適任であ る。 | 有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無 |
| 吉泉 英紀 | 横浜市立大学 理事・事務局長 | | 法人全体の運営に携わっているこ とから、俯瞰して物事を判断する ことができる。 | <input checked="" type="checkbox"/> ・無 |
| 中條 祐介 | 横浜市立大学 理事・副学長 | ○ | 教育・研究理事であるため、学生 の教育支援の観点から意見を述べ ることができるうえ、本学の人事 にも深く関わっていることから、 適切な人材を選考することができる。 | <input checked="" type="checkbox"/> ・無 |
| 寺内 康夫 | 横浜市立大学 医学部長 | | 医学群長や医学部長の経験から、 医師の教育・支援及び医療の観点 から意見を述べることができるう え、医療や病院の事情に精通して いるため、適切な人材を選考する ことができる。 | <input checked="" type="checkbox"/> ・無 |
| 望月 正光 | 関東学院 常務理事 | | 大学教授としての経歴に加え、常 務理事として、法人の管理運営に も関わっていることから、外部有 | 有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無 |

| | | | | |
|--------|--------------------------|--|--|---|
| | | | 識者として適任である。 | |
| 梅澤 修 | 横浜国立大学 大学院工学研究院 教授 | | 大学教授や副学長、研究院長等として、法人の管理運営にも関わっていることから、外部有識者として適任である。 | 有・ <input type="checkbox"/> 無 |
| 中島 淳 | 横浜市立大学 医学群長 | | 公立大学法人横浜市立大学附属病院長候補者選考会議規程第 3 条第 4 項にて定められているため | <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 |
| 鈴木 久美子 | 横浜市立大学附属 病院 看護部長 | | 公立大学法人横浜市立大学附属病院長候補者選考会議規程第 3 条第 5 項にて定められているため | <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 |

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための
合議体の設置及び運営状況

| | | | |
|--|---------------|-----|--------------|
| 合議体の設置の有無 | | 有・無 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 合議体の主要な審議内容 病院運営の重要事項に関すること、病院の中期計画、年度計画に関すること、病院の予算・決算に関すること、その他病院長が必要と認めた事項。 ・ 審議の概要の従業者への周知状況 学内（院内）グループウェアへ会議資料（議事録含む）を掲載、各診療科・部門の長へメールで同資料を送付。 ・ 合議体に係る内部規程の公表の有無（ 有・無 ） ・ 公表の方法 ・ 外部有識者からの意見聴取の有無（ 有・無 ） | | | |
| 合議体の委員名簿 | | | |
| 氏名 | 委員長 (○を付す) | 職種 | 役職 |
| 遠藤 格 | ○ | 医師 | 病院長 |
| 金子 猛 | | 医師 | 副病院長/呼吸器内科部長 |
| 山本 哲哉 | | 医師 | 副病院長/脳神経外科部長 |
| 稲葉 裕 | | 医師 | 副病院長/整形外科部長 |
| 鈴木 久美子 | | 看護師 | 副病院長/看護部長 |
| 佐橋 幸子 | | 薬剤師 | 薬剤部長 |
| 平木 浩司 | | 事務 | 医学・病院統括部長 |
| 山本 哲哉（兼務） | | 医師 | Y-NEXTセンター長 |

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法

- ・ 規程の主な内容

- ①公立大学法人横浜市立大学教員管理職規程
- ②横浜市立大学附属病院規程

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

- ①副院長 役割：病院長を補佐する役割
- ②病院長補佐 役割：特定の業務に関して病院長を補佐する役割

※現在の病院長補佐は3名任命している。

- 1名は、医療安全に関する業務を補佐する役割、
- 1名は、検査体制（臨床検査・病理・輸血）を統括する役割、
- 1名は、医療情報を統括する役割を担い、病院長を補佐している。

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

平成30年度から本学で「病院経営の変革に取り組む人材を育成するプログラム」を開始し、令和2年度も当院から将来の病院幹部候補者として6名が参加している。令和3年度は8名が履修した。また、一般社団法人日本病院経営支援機構が主催する病院経営者（事務長）育成塾に令和2年度から事務職の副課長級が参加している。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する
監査委員会に関する状況

| | | | | | |
|---|--|---------------|--|--|---------------|
| 監査委員会の設置状況 | <input checked="" type="checkbox"/> ・無 | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 監査委員会の開催状況：年 2 回 ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 前回指摘事項に対する対応状況 医療に係る安全管理の業務状況 医療を受ける立場の方からの視点に基づく監査について 医療安全管理部門の体制比較について 公表に行った医療事項の経過について ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ） ・ 委員名簿の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ） ・ 委員の選定理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ） ・ 公表の方法： <ul style="list-style-type: none"> 大学の HP 上で公開 | | | | | |
| 監査委員会の委員名簿及び選定理由（注） | | | | | |
| 氏名 | 所属 | 委員長 (○を付す) | 選定理由 | 利害関係 | 委員の要件 該当状況 |
| 相馬 孝博 | 千葉大学医学部附属病院 医療安全管理部部長 医師 | ○ | 特定機能病院における医療安全管理に卓越した知識・経験を有し、当該領域に造詣が深い | 有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無 | 1 |
| 水地 啓子 | 森法律事務所 弁護士 | | 特定機能病院における医療や医療機関に関する法律に卓越した識見を有し、当該領域に造詣が深い | 有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無 | 1 |
| 足立 雅子 | 病院ボランティア会 ランパス | | 長年のボランティアの活動経験から、患者さんの立場で病院における医療安全の推進に関して意見を述べることができる | 有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無 | 2 |

| | | | | | |
|-------|-----------|--|--|--|---|
| 中島 淳 | 本学医学部長 | | 医学生及び医師の教育・支援の観点から意見を述べる ことができる (内部委員) | <input checked="" type="checkbox"/> ・無 | 2 |
| 高橋 知宏 | 法人事務局総務部長 | | 法人全体の内部監査・外部監査に携わり公平な立場で物事を判断し意見を述べる ことができる (内部委員) | <input checked="" type="checkbox"/> ・無 | 2 |
| | | | | | |

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が
法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制として、監査室及びコンプライアンス推進担当を設置している。
監査室において内部監査の実施、監事監査の業務支援、内部通報制度委員会の職務の執行に係る事務の補助を実施。
コンプライアンス推進担当において内部統制システムに基づき顕在化したリスクへの対応を行っている。
- ・ 専門部署の設置の有無 (・ 無)
- ・ 内部規程の整備の有無 (・ 無)
- ・ 内部規程の公表の有無 (有 ・)
- ・ 公表の方法

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による
業務の監督に係る体制の整備に係る措置

| | |
|--|--|
| 開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 法人の理事長、副理事長および理事により構成される経営審議会を設置しており、法人の経営に関する重要事項を審議している。月1回の開催を原則としており、病院長も理事として参画している。 ・ 会議体の実施状況（年 11回）（令和5年度実績） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（<input checked="" type="checkbox"/>・無）（年11回） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無） ・ 公表の方法 大学WEBサイトに経営審議会議事録を掲載している。 | |

病院の管理運営状況を監督する会議体の名称： 経営審議会

会議体の委員名簿 別添①②のとおり

| 氏名 | 所属 | 委員長 (○を付す) | 利害関係 |
|----|----|---------------|------|
| | | | 有・無 |
| | | | 有・無 |
| | | | 有・無 |
| | | | 有・無 |

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に
疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況

- ・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ 有 ・ 無 ）
- ・ 通報件数（年 件）※令和5年度受付分（医療安全管理関連は“なし”）
- ・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（ 有 ・ 無 ）
- ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ 有 ・ 無 ）
- ・ 周知の方法
「医療安全マニュアル」「医療安全マニュアルポケット版」に掲載